

内閣調和
セズンハ
政府ノ威
權安ソ能
ク重固ナ
ランヤ

該黨中ノ事ヲ執リタル者ナリト雖モ王命ヲ奉シテ職ニ就クイヲ欲セ
ス又方正明智ナル内務長官デレサルハ王命ニ從フテ職ヲ外務總裁ニ
轉シタリシカ元來該黨中ノ人ナルヲ以テ其主義ヲ以テ政務ヲ執リ路
易ノ意ヲ限制スヘキニ之ヲ行フヲ敢テセス熱心ニシテ才能ニ富ミ
タルナルホンハ年尙ホ若シト雖モ該黨中ニテ常ニ人望ヲ收メタルヲ
以テ陸軍長官ニ昇リシカハ内閣及ヒ國會ノ議ニ參シテ好成績ヲ顯ハス
ヘシトテ人皆其風采ヲ想望セシカ惜イカナ久シク朝廷ノ信任ヲ被ム
リタルモレビルト全ク反對ノ意見ヲ抱キタルヲ以テ常ニ之カ爲メニ
掣肘セラレタリ

按スルニモントモリンハ革命ノ事業ニ關シテ力ヲ盡シタル人ナリ
ト雖モ其名聲顯ハレサルノミナラス却テ惡評ヲ被ムルニ至レリ元

來其主義トスル所ハ立憲黨ニ非ス又民主說ニ非ス實ハ勤王黨ナリ
ト雖モ其身体尪弱ニシテ心神モ亦強剛ナラサルニ由リ繁劇ナル政
務ニ當リテ路易ヲ匡救スルコトヲ得ス故ニ深ク其過失ヲ責ムルハ
酷ナルニ似タリ又モレビルハ海軍長官ニシテ純全ナル貴族政治ノ
主義ヲ抱キタレモナルホンハ全ク之ニ反シ立憲主義ヲ政務上ニ應
用セシフヲ欲シタリシカ其心情ノ寬洪ニシテ性行ノ忠直ナルカ上
ニラフエツトト深ク相結納シタルヲ以テ朝廷ニ容レラレストソ
新任内閣ノ組織斯ノ如シト雖モレビルハ獨リ威權ヲ擅ニシテ憲法
ヲ遵守スルコトヲ欲セス其實際ニ行フ可ラサルコトヲ口ニ藉キテ之
ヲ廢センコトヲ勸メタレモ路易ハ之ニ從ハス仍ホ之カ職ヲ罷ムル
ヲ欲セスシテ混同内閣ヲ以テ政令ヲ出シタリシカ輿論ヲ收メントノ

念ハ自ラ已ム能ハサルニ由リ國境外ノ移住者ニ對シテ斷然タル措置
ヲ下サンコヲ欲セリ是時ニ當リテラインノ近地及ヒコブレンツ等ニ
集合セル移住者諸人ハ數百ノ兵ヲ以テ本國人ニ抗拒セントスルノ勢
アリシカハ國內ニハ街説紛々トシテ人心安カラス國會ノ議場ハ之カ
爲メニ議論沸起スルニ及ヒタリシカ議員アイスナルドハ首トシテ發
議シテ曰ク日今國家ノ安寧ヲ圖ルニハ決シテ一時苟且ノ措置ヲ取ル
ヘキニ非ス要當ニ英斷勇決ヲ以テ永久萬全ノ策ヲ定メ歐洲諸邦ニ佛
國男兒カ愛國ノ義氣ヲ表示スヘキナリ若シ諸大國ト戰端ヲ開クニ至
ルトモ卿等ハ毫モ之ヲ怖ル、コト勿レ諸國カ意ノ在ル所已ニ知ル可
クンハ今日ニ至リテ遽カニ之ヲ變セシムルコト能ハス但卿等ハ前途
ノ運命ト相應セル舉動ヲ取ラサル可ラス卿等ハ今マ路易第拾六ハ奴

隸ナリト雖モ其勇壯剛毅ナルコトハ毫モ舊時ニ異ナラス已ニ自由ヲ得
タル時ニ當リテ尙ホ應ニ懦弱怯退ナルヘキノ理アルヘキ乎モンテス
キウ謂ハスヤ凡ソ革命ノ情勢ニ當レル人民ハ常ニ征服セラレ易シト
ノヨヲ妄想スルモノハ誤認モ亦甚シトス是等ノ人民ハ却リテ他人ヲ
征服スルノ勢アリト然ルニ今卿等ハ降伏ノ情態ニ陥リテ將ニ國王
ノ威權ヲ増サントスルカ如シ國王一己ノ私意ハ能ク全國人民ノ意思
ヲ箝制スルニ足り又國王ハ常ニ三千萬ハ支給ヲ得ルモ都民ハ數千人
ハ衣食窮乏シテ死スル者アルニ非スヤ卿等請フ之ヲ念ヒ又貴族ヲ再
興スルノ議アリト聞ケル若シ全地球ノ貴族盡ク來リテ吾人ヲ攻撃ス
ルコトアラハ佛人ハ當ニ雙手ニ金貨ト刀劍トヲ執リ以テ彼ノ驕傲ナ
ル諸人ト奮戰シ終ニ之ヲ罰スルニ同等同權ノ地位ヲ以テスヘシ請フ

卿等ハ佛國代議士ニ相當ナル言語ヲ以テ我カ宰相國王及ヒ歐洲諸邦ノ人民ニ告クル所アリ宰相ニハ卿等カ其所置ニ服セサルコトヲ示シテ其死歿ヲ希フノ意ヲ明ニシ又歐洲ニハ卿等カ固ヨリ他國ノ憲法ヲ崇敬スト雖モ諸國ノ王若シ佛國ニ對シテ開戦スルコトアラハ卿等モ亦之ニ向フテ人民ノ戰爭ヲ爲スヘシトノ志ヲ表セサル可ラス云々以上ノ演說ニ對シテ滿堂ノ間喝采同意ノ聲已ムキナク一時ニ此議ノ精神ヲ採リテ決議ヲ遂ケ國境外ニ集合セル移住者ノ一体ハ直ニ解散ヲ命スヘシトノ公令ヲ起帥シタリ

按スルニアイスナルドノ家素ト富ミタルヲ以テ其父深ク之カ教育ニ意ヲ用井タルニ由リ學識衆ニ出テ、殊ニ辯說ニ長シタリ其國王ノ死刑ヲ發議スルニ當リテハ若シ吾カ雙手ニ電光ヲ握ルコトヲ得ハ

激語痛快
邪黨ニ對
スルノ精
神ハ斯ノ
如クナラ
サル可ラ
ス

之ヲ以テ凡ソ人民ノ主權ヲ攻撃スル諸人ヲ一掃シ去ルヘシトノ語アリ又反對黨攻撃ノ爲メニ同志ヲ勵マシタル演說中ニ卿等若シ彼レ反對黨ニ逢ハ、先ツ進ミテ之ヲ擊ツヘシ兵器ヲ携ヘサレハ棍杖ヲ以テ之ヲ打テ若シ棍杖ヲ有セサレハ卿等カ雙親ノ遺骸ヲ發掘シ其骨片ヲ執リテ彼ノ邪黨ヲ撲ツヘシトノ數語ヲ加ヘタリトソ後チ五百名議會ノ議員ト爲リ且ツ精神不朽論テフ書ヲ著ハセリ

是ニ於テ議員ポーブランクハ二拾四人ノ委員ト共ニ決議ノ要旨ヲ路易ニ奏上シケレハ路易モ素ヨリ輿論ヲ收ムヘキ措置ヲ爲シテ民心ヲ鎮メント欲スル際ナレハ先ツ其言ヲ納レ且ツ自ラ國會ニ詣リテ其意見ヲ陳ヘンコトヲ約シタリ因テ直ニ親ラ國會ニ臨ミ議員ニ告ケテ曰ク向ニ奏上セシ所ハ必ス審按熟思ヲ經テ決答スヘキモノト雖モ佛國

路易ハ果
シテ中心
此意ヲ懷
キタリヤ
否

ノ榮譽ニ關スル極メテ大ナルノ事件ナレハ朕ハ親ヲ來リテ意見ヲ
開陳スルノ權利ヲ有セリ議員諸人ノ精神ハ已ニ之ヲ洞悉シタリト雖
亦戰ハ危事ナリ如カス先ツ方向ヲ誤マリタル諸人ヲ諭シテ之ヲ國內
ニ召還センニハ然レモ穩和ナル處置ハ到底其效ナキヲ知ルカ故ニ凡
ソ國境外ニ集マリタル兵ハ必ス明年一月十五日ヲ期シテ解散スヘシ
若シ此命ニ從ハサレハ直ニ之ヲ敵視シテ征討ノ兵ヲ舉クヘシトノ旨
ヲ傳ヘタリト尙ホ結末ニ於テ朕ハ永ク誠心ヲ以テ憲法ヲ遵守センコ
トヲ務ムヘシ自由人民ノ國王ト爲ルコトハ如何ニ此身ノ光榮ナルカ
ヲ知ル可ラストノ語ヲ發シケレハ議員等之ヲ聞キテ盡ク感激セサル
ハナク翌朝直ニ使者ヲ以テ悅服ノ旨ヲ奏上シ且ツ其演說ヲ筆記シテ
之ヲ國內八拾三州ニ傳布シタリ

國會ノ輿論ト路易ノ意見トハ斯ノ如ク一致シケレハ先ツ預メ兵備ヲ
整ヘテ境外ノ敵ニ備ヘントテ拾萬人ノ兵ヲライン地方ニ招集シルツ
ク子ルロチヤンピウ及ヒラフエツトヲ以テ之カ將帥ト爲シタリ三將
ノ勇名ハ已ニ中外諸人ノ熟知スル所ナレハ國會ハ之ニ重任ヲ托シテ
毫モ疑ハス殊ニラフエツトノ名ハ之ヲ聞キテ悦ハサルモノハナシ是
ヨリ先キラフエツトハ國事ニ勤勞スルコト三年餘ナルヲ以テ姑ク退
隱シテ自ラ修養スルヲ務メタリシカ此ニ至リ召ニ應シテ國會ニ出
テ再ヒ兵馬ノ權ヲ執ルニ及ヒシカハ巴里ノ衛兵ハ皆出テ、之ヲ都門
ニ送り深ク別レヲ惜ミ自由ノ開創者トシテ之ヲ崇敬スルノ情ハ毫モ
昔日ニ異ナラサルカ如シ是ニ於テ境内ニ移住セル貴族等及ヒ之ヲ保
庇セル諸國ト戰端ヲ開カントノ勢已ニ迫リケレハ豫メ期シタル如ク

一月十五日ヲ以テ和戰ノ議ヲ決セントノ公令ヲ發シタルノ後チ路易
ハ書ヲ國會ニ下シテ曰ク此公令ニシテ若シ朕カ豫想スルカ如キ成績
ヲ生セス佛國ハ已ヲ得スシテ其同胞諸人ト爭鬪スルノ運ニ至リナハ
朕ハ先ツ歐洲全土ヲシテ佛國カ正義ヲ守リテ動カサルヲ知ラシム
ルカ故ニ人民ハ宜ク勇氣ヲ出シテ回避セス朕カ圖ル所ノモノハ憲ク
國利民益ニ外ナラサルヲ諒シ朕ハ佛國ノ品位及ヒ安寧ヲ保持スル
ヲ以テ其ノ最大要務トスルコトヲ知ルヘシト議員等ハ之ヲ讀ミテ皆
感佩セサルハナク女皇ニ對シテモ極メテ愛敬ノ情ヲ生スルニ至リシ
カ惜イカナ時運ノ然ラシムル所人心ノ全体ハ已ニ漸ク同等同權ノ情
感ニ傾向シテ復タ遏止ス可ラス此情感タル一タヒ生スレハ常ニ發動
シ易キモノナレハ時勢茲ニ至リテ國會議員ノ心中ニハ往々之ヲ發動

國會議員
ノ君王ヲ
敬セサル
コト終ニ
茲ニ至ル
カ

ラフエツ
トノ告諭
ヲ聞キテ
奮發興起
セサル者
ハ人ニ非
ルナリ

シテ禁ス可ラス千七百九十一年モ將ニ暮レントスルノ頃ニ至リテ國
會ハ多數ノ決議ヲ以テ明年新年ノ元旦ニ於テ古例ノ儀式ヲ廢シ今後
此節會ニ於テハ國王ニ對セル禮式ヲ行フ可ラストノヲ定メ且ツ是
ヨリ國王ニ對セル一切ノ言語文案ヲ省略スルニ及ヒ甚シキハ其議員
ハ帽子ヲ脱セス且ツ野服ヲ著ケテ宮殿ニ入ルニ至リタリ
ラフエツトハ再ヒ出テ、兵權ヲ執リシヨリ愛國勤王ノ志ハ舊時ニ異
ナラス誓フテ國家ヲ護衛セントスル精神氣力ハ益盛ナリシカハ先ツ
麾下ノ軍隊ヲ訓練シ且ツ貴族政治ノ主義ヲ抱キタル將校等カ携貳ス
ルコトアラヌトヲ慮リ諸人ヲ招集シテ之ヲ激勵シテ曰ク卿等若シ
一意ニ勤王ノ志ヲ固クセサル者アラハ宜ク速ニ此軍營ヲ去ルヘシ縱
令軍營ヲ去ランコトヲ欲スル者アルモ予ハ之ヲ止メサルノミナリス本

國ヨリ受クル俸給ハ故ノ如クニシテ且ツ外國ニ到ルヲ得ヘキ往來
 券ヲモ與フヘシ然レモ若シ命ヲ本國ニ致シテ專ヲ勤王ノ誠ヲ竭サン
 ト欲セハ予ハ唯卿等ニ對シテ熱心ト忠節トヲ期望スル而已ト斯ノ如
 ク至誠人ヲ感動スルニ足ルモノアリシカハ將校等ハ激昂踊躍シテ死
 カヲ致サンコトヲ欲セサルハナシ然ルニ彼ノロチヤンピウ及ヒルツ
 ク子ル等ハ或ハ軍伍ノ整頓セサルコトヲ憂ヘ或ハ政治上ノ定論ヲ抱
 カスシテ輕舉ヲ事トスルカ故ニ彼此ノ優劣強弱ハ茲ニ於テ已ニ觀ル
 ヘキカ如シ又内閣ノ宰相ハ往々觀ルヘキノ人ニ乏シト雖モ獨リナル
 ホンハ首トシテカヲ兵備ニ盡シ自ラ國中ヲ巡回シテ堡塞ヲ點檢シ器
 仗ヲ整備シ且ツ兵士ヲ招募スルコト數萬人ニ及ヒケレハ此始末ヲ國
 會ニ報告シテ兵備ノ充足スルコトヲ示シタリ蓋シナルホンハ年少客

氣ヲ以テ或ハ熱心ノ空想ヲ抱クノ恐レナキニ非レモ其精神ノ純正ニ
 シテ處置ノ敏捷ナルヲ以テ議員諸人ハ大ニ其功勞ヲ稱揚シ廣ク之ヲ
 人民ニ告知セントテ報令ヲ全國各州ニ傳送スルニ及ヒタリトソ
 兵備已ニ斯ノ如ク整フタリト雖モ未タ遽カニ戰端ヲ開クニ至ラス當
 時朝野ノ一大問題ハ和戰ノ論ニ止マリテ苟モ革命ノ事業ヲ大成セン
 トスルニ當リテハ先ツ境外ナル敵人ヲ掃攘シ以テ其障礙ヲ除カサル
 可ラス然レトモ此敵人ハ皆嘗テ國王カ姻戚如クハ親臣タリシモノナ
 レハ國王ハ親ラ大兵ニ將トシテ能ク之ト戰フコトヲ得ヘキヤ否トノ
 疑問ハ諸人ノ皆抱ク所ニシテ此疑問ヲ明白ニスルニ非ルヨリハ到底
 諸人ノ歡心ヲ收ムルコト能ハサルヘシ「シヤコピン」政社ニ於テハ議論
 紛々トシテ和戰ノ利害ヲ究メタレトモ未タ之ヲ決スルコトヲ得ス狂

暴疎放ヲ尙ヒタル該社ノ領袖タルロベスピイルハ媾和説ヲ主張シ又
 穩當平和ヲ好ミタルギロンザン社ニ於テハ戰爭ヲ主倡シブリソ一及
 ヒローブ等ノ諸人之カ首領タリシハ殊ニ怪ムヘキコトニシテ就中ブ
 リソウハ其才辯及ヒ勢力ノ有ラン限リヲ盡シテ專ラ開戰説ヲ主張シ
 ローブ及ヒ其他ノ同志諸人ト共ニ國民ノ爲メニハ開戰ノ利タルコト
 ヲ説キテ曰ク一旦兵ヲ交ユルニ至レハ危急ナル國勢ヲ救フテ國王カ
 本意ノ在ル所ヲ知ルニ足ルヘシト熱心ノ餘自ラ決シテ敗軍ヲ取ラサ
 ルコトヲ確信シケレハ速ニ兵ヲ舉ケンコトヲ切望シテ已マス斯ノ如
 ク一舉シテ國勢ヲ變スヘキカ如キ開戰説ニ對シテロベスピイル及ヒ
 其他ノ「ジャコピン」社員ハ盡ク之ニ同意セサルハ殊ニ疑フヘキコト
 ニシテロベスピイルハ怯懦ニシテ戰爭ヲ畏ルニモ非ス去レハトテ其

猜忌嫉妬
 ノ爲メニ
 自ラ欺キ
 テ意見ヲ
 立ツルハ
 是レ政治
 社會ノ常
 ナルカ

範爭者タルブリソウ之ヲ主倡シ且ツ年少ナルローブカ才智ヲ以テ之
 ヲ辯護スルカ故ニモ非レトモ到底非戰説ヲ主張シテ動カス蓋シロベ
 ス、ヒ、イ、ル、等、ハ、一、旦、開、戰、ス、ル、ニ、至、レ、ハ、ラ、フ、エ、ツ、ト、ハ、首、ト、シ、テ、大、功、ヲ、立、
 テ、遂、ニ、進、ミ、テ、軍、務、統、理、官、ニ、昇、リ、其、威、權、ハ、益、赫、灼、ト、シ、テ、當、ル、可、ラ、サ、ル、
 ニ、至、ル、ヘ、キ、コ、ト、ヲ、恐、レ、タ、ル、ニ、由、リ、非、戰、説、ヲ、主、倡、シ、タ、ル、モ、ノ、如、シ、因、テ
 常ニラフエツトト相敵視セルオルレアン侯ノ威權ヲ再復シテ之ヲ箝
 制センコトヲ欲シタリ
 是ヨリ先キオルレアン侯ハ漸ク名望ヲ失フテ世上ニ顯ハレサリシカ
 形勢斯ノ如クナルニ至リテ却リテ反對黨ノ疑ヲ被ムルニ及ヒタレヒ
 民權黨ノ望ヲ屬スルコトハ決シテ昔日ノ如クナラス又國王ニ對シテ
 モ尙ホ信任セラル、コトヲ得サルニ由リ自ラ乞フテ國王ニ謁見ヲ求

メ開談時ヲ移シタルハ優待ヲ受クルヲ得ス女皇及ヒ朝官等ト對食スルニ及ヒテハ極メテ不敬ノ言語ヲ發スルモノアルノミナラス諸客皆食膳ヲ黠檢セヨト語リテ該侯カ或ハ膳中ニ毒ヲ投シタルヲアラフヲ疑フモノ、如シ對食訖リテ室ヲ出ツレハ漫罵ノ聲滋起リテ甚シキハ手足ヲ以テ之ニ加フルニ至リシカハ該侯ハ憤懣シテ自ラ已ムヲ能ハス深ク朝廷ヲ怨ミタルハ國王及ヒ女皇ハ皆之ヲ知ラス朝官等カ忒ニ之ヲ行フタルモノナリ是ニ於テ「シヤユピ」政社及ヒ國會議員中ニテ尙ホ心ヲ該侯ニ傾クルモノハ爲メニ怨ミヲ報エント欲スル者アルヨリ該侯ノ黨類ハ再ヒ起ルヘシトノ風説行ハレ該侯ハ之ニ頼リテ觀視ノ念ヲ抱キタリト謂フモノアルニ至リタルハ到底一政黨ノ領袖ト爲リテ事ヲ起スヘキ才能アル人ニ非レハ是レ皆當時ノ虛傳タルヤ明

カナリ

「ギロンヂ」黨ノ諸人ハ皆謂ラク「ユルデリイル」及ヒ「シヤユピ」兩黨カ專ラ媾和説ヲ倡フルハ唯オルレアン侯カ競争者タルヲフエツトノ戰爭ニ依リテ名譽ヲ得ンコトヲ恐ル、ニ基ツク可シト因テ已ニ國會ニ於テ勢力ヲ得タル機會ニ乘シテ開戰論ヲ主張シケレハ多數ノ賛成ヲ以テ之ニ著手スルニ及ヘリ是ニ於テ路易ノ弟モンシウルヲ初メトシテ其他ノ貴族諸人ノ罪ヲ論シ本國ニ對シテ反逆ヲ謀リタリトノ罪案ヲ公布セントシ是等ノ移住者諸人ノ財産ヲ沒收シ且ツ其歳入ヲ以テ國用及ヒ軍費ニ供スルニ至リケレハ路易ハ之ニ對シテ異論ヲ唱フルコトヲ得ス此報早クモ隣國ニ達シケレハ移住者ヲ回護スル諸侯等ハ大ニ驚キテ爲メニ兵伍ヲ解キ糧仗ヲ沽リ專ラ平和ヲ好ムノ狀ヲ示シ

タレモ國會ハ之ヲ聞キテ毫モ意ニ介セス埃國皇帝レヲポルドヨリ明
 白ナル決答ヲ得サル限リハ毫モ其決議ヲ動カサ・ルカ如シ然ルニ内
 閣ニ於テハベルトランドトナルホントノ間ニ軋轢ヲ生シベルトラ
 ドハナルホンカ深ク輿望ヲ收メタルコトヲ娼嫉シナルホンハベルト
 ランドカ持論ノ憲法ニ反シタルコトヲ責メ路易カ速ニ之カ職ヲ罷メ
 シコトヲ希フタリセルビルハ之カ中間ニ立チテ和解ヲ謀リタレトモ
 成ラス立憲黨ノ諸人ハ頻リニ力ヲ盡シテナルホンニ首相ノ地位ヲ授
 ケンイヲ欲セリトノ風説行ハレ中外噴々トシナルホンカ或ハ威權ヲ
 擅ニセントスルイヲ傳フルモノアリシカハ路易ハ之ヲ聞キテ心自ラ
 安シセス終ニナルホンノ職ヲ罷メ次テベルトランドヲモ黜ケタリ國
 會ハ是ニ於テ大ニ不滿ヲ抱キ子ツケルカ會テ相位ヲ罷メタル舊例ノ

自由主義
 ノ宰相皆
 位ヲ去リ
 テ内閣ノ
 勢孤ナリ

如ク宣言シテ日クナルホンハ深ク輿望ヲ收メタルハ今マ之ヲ罷ムレ
 ハ當時ノ内閣ハ全ク民心ニ稱ハサルモノナリト是ヨリナルホント同
 主義ヲ抱キ若クハ反對黨タルニ論ナク執政官ハ相繼キテ職ヲ罷ムル
 ニ至リシカハ路易ハ全ク内閣ニ於テ輔相ヲ失フタルモノ、如シ
 立憲黨ノ執政官ハ斯ノ如ク内閣ヲ退ケレハ路易ハ其據ル所ヲ失ヒ
 已ムヲ得ス民主政治ノ主義ヲ尙ヒタルギロンヂン黨ニ依頼センコト
 ヲ欲シタリ此際若シ路易ヲシテ中心誠ニ該黨ニ依頼セントノ意ヲ表
 セシメハ諸人モ亦力ヲ盡シテ之ヲ輔相センコトヲ欲シタルヘシト雖
 田此ノ如キコトハ到底路易ニ對シテ望ム可ラサルモノナルヲ以テ諸
 人ハ信疑相半ハニシテ一意ニ力ヲ盡サンコトヲ願フモノナシ蓋シ危
 急ノ際ニ當リテハ路易モ心誠ニ之ニ依頼センコトヲ欲スト雖亦聊

ヲ兼備セ
サル可ラ
ス

紅色ノ帽
ヲ以テ自
由ノ標章
ト爲ス

附加セサルコトヲ得ストノ評アリトソ、
未タ幾クナラスシテヂウモリスハ執政官ト爲リシカハ益シヤコビシ
黨ト相結納シ古代ヒリヂアン人ノ舊例ヲ學ヒテ紅色ノ帽子ヲ被ムリ
以テ自由ノ標章ト爲シタリ此新標章ハ該黨中ニ行ハル、ノミナラス
廣ク世人ノ之ヲ學フニ至リケレハ之ヲ以テモ該黨ノ聲勢ヲ知ルニ足
レリヂウモリスハ該黨員ト深ク相結ヒタリト雖モ路易ニ謁見スルニ
及ヒテハ務メテ君民ノ調和ヲ圖ランコトヲ旨トシ且ツ自己カ民心ヲ
収メシコトヲ欲スルハ唯王位ヲ鞏固ニシ王室ノ福祿ヲ圖ルニ外ナラ
サルコトヲ明ニシ其他憲法ノ制定ハ到底己ム可ラサルコトヲ説キ以
テ路易ヲ感悟センコトヲ欲セリ其出テ、外交事務ヲ執ルニ及ヒテハ
益佛國ノ光榮ヲ振興スルノ談判ヲ遂ケタレト之カ爲メニ開戦ヲ馴致

シタルモノ、如シ蓋シ内ハヂウモリスカ三十六年間ノ經驗ヲ以テ養
ヒ得タル軍器ヲ實行センコトヲ欲シ外ハ壞都ヴエンナノ内閣ニテ移
住貴族ヲ保庇スルノ勢ナレハ戦乱ハ到底免ル可ラサルニ似タリ
新内閣ノ組織未タ定ラサレハベシヨンセンソン及ヒブリソ一等ハ共
ニ撰用スヘキ人物ヲ議シタリシカ成規ニ據レハ凡ソ執政官ハ前國會
議員及ヒ現任議員ヨリ撰用スルコトヲ得スシテ其區域其々狭小ナリ
シカハ先ツラコストヲ海軍長官ニロープヲ司法長官ニ又財務長官ヲ
クラピールトシ内務長官ヲローランドト定メタリ以上諸人ハ皆當時
ノ選ニシテ名望頗ル著ハレタルノ人材ナリシカロープハ首トシテ民
望ヲ収メントテポルドーノ狀師ヂウランソンヲ登用セリクラピール
ハ曾テ財政上ノ著述ヲ以テ世ニ著ハレ以テ此官ニ就クニ及ヘリ又ロ

ローランド夫人

一婦人ニシテ政黨諸人ノ爲メニ敬重セラルハ古今絶倫ト云フヘシ

ローランドハ夙ニ工業技術ヲ以テ名ヲ顯ハシ議論堅確ニシテ態度簡率ノ人ナリシカ其夫人カ才智學問衆ニ超エタルヲ以テ之カ輔翼ヲ得タルコト極メテ多シトスローランド夫人ハ容貌豔麗ニシテ幼時ヨリ哲學ヲ好ミ夙ニ民主政治ノ思想ヲ養成シ且ツ當時ニ行ハレタル激法ヲ惡ミテ別ニ自ラ嚴峻ナル激規ヲ奉シタリ常ニ其良人ト深ク相親愛シテ文章ト智謀トノカヲ貸セシカギロンヂン黨ノ諸人ニ至ルマテ自由ト哲學ヲ重ニスルノ餘夫人カ容色ト智慧トヲ愛シテ概テ夫人ノ持論ニ服シ爲メニ全黨ノ議論ヲ變スルニ及ヘリトツ

按スルニヂウランソンハ千七百九十三年十二月ヲ以テ革命審廳ニ曳キ出サレ終ニ斷頭架ニ上リタル人ナリシカローランド夫人ハ其人ト爲リテ評シテ其性方正ナレト云フ疎懶ナリ容貌驕傲ノ態アリテ頗

色怯懦ノ氣ヲ表ハシ恰モ老婦人ノ如ク見ユト云ヒシトツ

クラビイルハ幼時ヨリ聾ナリト雖モ性敏慧ナルヲ以テ専ラカヲ講學ニ盡シ商估ノ業ヲ營ムノ間ヲ以テ政事學及ヒ道德哲學ヲ修明シ終ニ民權黨ノ領袖ト仰カル、ニ至レリ後チロベスピールノ爲メニ罪ヲ獲ルニ及ヒ斷頭架ニ上ルヲ欲セス、獄中ニテ自裁シケレハ其夫人某モ翌日毒藥ヲ吞ミテ死シタリト云フ

ローランドハ名族ニ生レタル者ナレモ幼ニシテ父ヲ喪ヒ且ツ未男タルヲ以テ孤貧落魄十九歳ニシテ家ヲ去リ他郷ニ遊ヒテ製造所ニ入リシカ其深ク學ヲ好ミタルヲ以テ漸ク衆ニ知ラレ殊ニ通商ノ事務ニ鍊達スルニ由リ終ニ舉ケラレテ監査總官ト爲リタリ後チ歐洲諸國ヲ漫遊シ國ニ歸リテギロンヂン黨ニ加ハリ國王ノ處刑ニ調印

セシカ該黨已ニ仆レテ其夫人モ亦刑ニ就キタルヲ聞クニ及ヒテハ獨リ生ヲ全フスルコトヲ欲セス路傍ノ樹下ニ坐シテ從容トシテ自裁セシカ其體容毫モ乱レズシテ常時ノ如シ翌日ニ至リ行人ハ樹下ニ坐睡スル者アリト認メ近ツキテ之ヲ視レハ傍ニ一書ヲ遺シタリ其書ニ曰ク「余カ此所ニ斃レタルヲ觀ン者ハ何人ニ論ナク請フ余カ遺骸ヲ尊敬セヨ此ハ是レ生前ニ在リテ專ラ有用ノ事業ヲ勉メ死ニ臨ミテモ德義ヲ重ンシ正義ヲ尙ヒタル者ノ遺骸ナリ一旦吾妻ノ殺戮ニ遭ヒシコトヲ聞キシヨリ予ハ復タ斯ル罪障深キ現世ニ存スルコトヲ欲セス故ニ予ハ毫モ畏怖ノ念ヲ抱カス但憤怒ノ情ニ堪エスシテ從容死ニ就クナリ諸人之ヲ諒セヨ」

ローランド夫人ハ著名ナル雕工ノ子ナリシカ年甫メテ九歳ニシテ

千古格言

ブルタルチノ遺稿ニ解釋ヲ下シケレハ人皆其穎悟ニ驚カサルハナシ後チローランドニ嫁シ事ヲ以テ國會ニ出席シテ申告スル所アリ其辯說堂々トシテ滿場ノ議員ヲ感動セシメタリ千七百九十三年ニ「ギロンヂン」黨ノ諸人ト共ニ死刑ノ宣告ヲ受ケシカハ殊ニ從容トシテ刑場ニ到リ自由ノ肖像ヲ顧ミテ呼ハリテ曰ク嗟乎自由ヨ汝カ名ヲ藉リテ罪ヲ犯スモノ世上幾人ナルコトヲ知ラヌト歳僅ニ三十九ニシテ刑ニ就キタリ其顔色ハ温藉真率ノ風アリテ態度ハ雅正ナリ黑キ巨眼ハ爛々トシテ人ヲ射ルモ其間自ラ愛情ヲ含ミ音吐清亮ニシテ言語ノ極メテ人意ヲ激動スルニ足リ心中素ヨリ無量ノ知識ヲ藏蓄シタレモ才鋒銳發シテ頗ル人ヲ調評スルコトヲ好ミタリトソ新内閣ノ撰任已ニ定マリテ盡ク其人ヲ得タリシカハ路易ハ大ニ之ヲ

古今國王
及ヒ政治
家カ改良
進歩ヲ好
マサルハ
往々此般
ノ心事ア
ルニ由ル

悦ヒテ益政務ノ改良ヲ期シタリシカ殊更財政ノ愈整頓スルヲ見テ頗
ル心ヲ安ンシタルカ如シ蓋路易ハ常ニ政務ノ改良ヲ好マサルニ非レ
ト自家ノ權力ヲ減殺シテ之ヲ行フコトヲ欲セス新任ハ執政官ハ未タ
自家ノ主義ニ反セス或ハ權力ヲ蠶食セスシテ政務ヲ舉クルカ如キヲ
以テ之ヲ信任シタルコトナルヘシ是ヨリ路易ト執政官トハ常ニ相親
和シタルカ如クナレトローランド及ヒクラピイルハ未タ路易ヲ信セ
ス斯ノ如ク他ノ執政官等ハ路易ト相親ミタルヲ以テ後日禍ヲ被ムル
ノ基トハナレリローランド夫人ハ獨リ卓然トシテ見ル所アリ其同志
「ギロンヂン黨」ノ諸人カ輕シク他人ニ協同シ易キ傾向アルヲ憂ヘテ勉
メテ路易ニ近ツカシメス己レハ曾テ路易ニ謁見シタルコト無カリシ
トシ他ノ執政官等ハ日々路易ト相會シテ互ニ信用スルカ如クナリシ

カ未タ幾クナラスシテ彼此ノ間ニ一大問題ヲ生シ其意見ノ相容レサ
ルヤ氷炭管ナラサルニ及ヘリ朝官等ハ元來新内閣ヲ好マスシテ密ニ
之ヲ慢侮シ殊ニローランドカ眞率ナル民主政論ヲ持シ粗野ニシテ朝
議ニ煽ハサルヲ見テ頗ル之ヲ嗤笑シタリ
チウモリスハ職ニ就キシヨリ能ク劇務ヲ處辨シ且ツ己レカ持論ヲ確
執セスシテ調和ヲ旨トスルニ由リ路易ハ深ク之ヲ悦ヒタリ女皇モチ
ウモリスカ專ラ路易ノ信任ヲ得ルコト他ノ同僚ノ比ニ非ルヲ知リ
シカハ一タヒ之ト相見ンコトヲ欲シタリ然レトモ心中稍疑懼ヲ抱キタ
ルヲ以テ其初メテ謁見シタル時ニハ女皇ハ先ツ威儀ヲ正フシテ謂テ
曰ク卿ハ今マ權力ノ赫灼タルコト其比ヲ見サルナリ然レトモ是レ唯人
民ノ歡心ヲ得テ然ルモノトス且ツ人民ハ動モスレハ志ヲ變シテ其首

忠言

領ヲ魚肉スルモノナレハ請フ少シク戒心セヨ惟フニ卿カ存亡ハ唯其言行如何ニ係ルヘシ卿カ拔群ノ才智ヲ以テスレハ國王及ヒ余カ憲法ノ改革ニ就キテハ決シテ自ラ忍フ能ハサルヲ知了ス可シ余ハ今マ平心虚懷ヲ以テ之ヲ卿ニ告ク卿請フ自ラ擇ヒテ去就ヲ決セヨトヂウモリスハ深ク感激スル所アルカ如クニシテ對ヘテ曰ク陛下ハ今マ臣ニ告クルニ機密ヲ以テセリ臣豈深ク之ニ感激セサルコトヲ得ンヤ臣ハ誓フテ携貳セサルナリ臣ハ國王ト國民トノ間ニ立チ專ラカヲ國家ニ效サンコトヲ欲スルノミ恭シク惟ヒミレハ國王及ヒ陛下ノ幸福ト陛下ハ有衆ノ安榮トハ憲法ハ確立及ヒ正當ナル權カノ再興ト相關繫スヘキモノナレハ臣ハ唯此之ヲ陛下ニ上奏センノミ萬一臣カ他ノ議論ヲ以テ之ヲ奏上スルニ至ラハ國王及ヒ陛下ニ負ク所多シトス今ヤ

今日ノ急務ハ憲法ヲ確立スルニ在ル

陛下ノ讎敵ハ中外ニ充滿シ陛下ヲ以テ渠等カ私利ノ犧牲ニ供セシコトヲ欲スト雖ヒ憲法已ニ確立シテ其効力ヲ現ハスニ至ラハ復タ決シテ國王ノ災害ヲ醸スコトナク其福祿及ヒ光榮ヲ無窮ニ保ツトヲ得ヘキナリ故ニ今日ノ急務ハ唯速ニ完全鞏固ナル憲法ヲ確立スルニ在ル而已ト女皇ハ之ヲ聞キテ勃然トシテ怒氣ヲ顯ハシ是レ永續スヘキトニ非ス卿ハ唯自ラ戒心スル所アレト呼ハリケレバヂウモリスハ從容トシテ少シモ心ヲ動カサス臣カ犬馬ノ齡已ニ五拾ヲ過キ其曾テ危難ニ嬰リタルモノ幾回ナルヲ知ラス向ニ相位ニ昇リテ重大ノ責任ヲ負ヒタリト雖ヒ之ヲ以テ毫モ臣カ最大ノ危難トセス臣カ生命ハ鴻毛ヨリモ輕シト對ヘシカハ女皇モ大ニ感悟スル所アルカ如ク爲メニ涙ヲ揮フニ至リシカハヂウモリスモ是ヨリ益々力ヲ極メテ君民共同ノ福

社ヲ圍ルヘキ方策ヲ説キ此議若シ行ハレサレハ直ニ位ヲ去ラント欲
 スルノ決意ヲ陳ヘケレハ女皇モ初メテ其忠誠ヲ知リタリシカハヂウ
 モリスモ力ヲ竭シテ調和ノ策ヲ立テンコトヲ欲シタリシカシヤコビ
 シ黨ノ議論ハ益々激烈ニシテ當ル可ラス且ツマラーカ發行セル新聞
 紙ニ於テ極メテ暴戾ナル論説ヲ掲載シケレハ女皇之ヲ讀ミテ益憤悶
 シ兵力ヲ以テ之ヲ懾服セントノ志ヲ決シタルカ如シ

按スルニマラーハ軀幹矮陋顔面猙獰頭顱極メテ大ナリシカハ人一
 見シテ其殘賊タルコトヲ知ルヘシ性慄悍暴戾ニシテ推想力ニ富ミ
 巴理ニ在リテ醫學ヲ修メ常ニ貧窶ノ生ヲ送リタリシカ後チ醫官ニ
 擧ケラレタリ革命乱ノ起ルヤ身ヲ人下ニ屈スルコトヲ得ス起チテ
 雜誌ヲ興シ之ヲ「人民ノ友」ト名ツケテ專ヲ叛乱屠殺及ヒ劫奪ヲ煽唆

人民ノ友

シケレハラフエツトハ兵ヲ率井テ其家ヲ圍ミ之ヲ逮捕セント欲シ
 タレト身ヲ寺院ニ匿シテ密ニ筆ヲ執リ尙ホ雜誌ヲ發行シタリ其府
 會ノ議員ニ擧ケラル、ニ及ヒテハ首トシテ史上ニ顯著ナル屠殺ノ
 議ヲ唱ヘ且ツダントンニ囹圄ヲ焚キ盡サンヲ勸メタリ議員中ニ
 ハ其暴論ヲ惡ミテ之ヲ逮捕センコトヲ欲スルモノアレトダントン
 及ヒロベスピイルカ之ヲ回護スルヲ以テ果サス曾テ人民ニ語テ曰
 ク事物ノ舊態ヲ保守セル黨類ニ拾七萬人ヲ屠殺セヨト其暴論ヲ唱
 フルコト常ニ斯ノ如クナリシカハ幾クナラスシテジャコピン政社
 ノ首領ト爲リシカ烈婦チャーロツト、ゴルデイハ、深ク之ヲ怨ミテ終
 ニ之ヲ浴場ニ刺殺シタリ其人ト爲リ稍文章及ヒ辯説ノ才アリト雖
 且往々支離滅裂ニシテ觀ルニ足ラス但氣骨情炎アルヲ以テ稱セラ

チャーロ
ツトコル
デイ

兇賊暴徒
ノ末路ハ
皆斯ノ如
シ

好喻

レタルノミ死後人民ノ之ヲ崇敬スルコト殆ント神ノ如ク爲メニ圓錐形ノ塔ヲ起シ其中ニ半身像ヲ安シ傍ニ曾テ使用セシ浴桶机案及ヒ短檠ヲ置キ常ニ衛卒ヲ設クルニ至リシカ天定マリテ人ニ勝ツノ運到リケン幾クナラスシテ國人ハ其前罪ヲ數メテ半身像ヲ毀壞シ且ツ墳墓ヲ發キテ遺骸ヲ斬害シ泥途上ニ曳キ行キシカハ人皆之ヲ痛快ナリト稱セサルハナシトソ

ウヲルトルスコツト曾テマラーヲ評シテ曰クダントンハ憤怒ノ情自ラ已ム能ハスシテ人ヲ屠戮シロベスピイルハ讎敵ヲ除カンカ爲メニ殺傷ヲ恣ニスト雖モマラーハ之ニ異ナリ其深ク屠殺ヲ嗜ムヤ恰モ豺狼カ性質ニ鮮血ヲ好ミ其渴已ニ癒エタルハ後チ尙ホ群羊ハ肉ヲ乱噉スルカ如シト

マラー曾テ人ニ告ケテ曰ク請フ予ニ二百人ノニイボリタン人ヲ與ヘ各右手ニ小刀ヲ携ヘテ左手ニ楯ヲ執ラシメヨ予ハ之ヲ率井テ佛國ヲ横行シ以テ革命ノ事業ヲ大成セント又曾テ屠殺ニ就キ精細ナル計算ヲ立テ一日ノ間ニ二拾六萬人ヲ殺スコトヲ得ヘシト爲シタリトソ

○第拾二回

當時王室ノ尊嚴ハ漸ク將ニ地ニ墜チントスルモノ、如ク人民ノ王家ニ對シ不敬ノ罪ヲ犯スモノ亦鮮カラヌ一日女皇ハ國王ノ前ニ在リテヂウモリースニ謂フテ曰ク余ハ復々彼ノ宮苑ニ臨メル窓下ニ到ルヲ敢テセサルナリ昨日ノ薄暮ニ當リ偶々彼ノ窓ニ到リテ望見セシニ衛兵ノ一群窓下ニ來リテ余ニ不敬ノ言語ヲ加フル者アリ就中一人ノ

兵士ハ余ニ向フテ臣若シ陛下ノ首ヲ以テ之ヲ銃槍ノ尖頭ニ貫クコトヲ得ハ其喜ヒハ幾何ナルヲ知ル可ラスト告ケタリシカ他ノ兵士等モ言語及ヒ舉動ヲ以テ余ニ不敬ヲ加ヘタル者亦多シ是レ實ニ何事ソヤト深ク愁嘆ノ情ニ堪ヘサルモノ、如クナリシカハチウモリースモ之ヲ聞テ唯共ニ浩嘆スルノミ蓋シ朝廷ハ人民ノ益々制御ス可ラサルヲ憂ヘテ措カス人民ハ愈々朝廷ニ深遠不測ノ謀議アリテ禍害ヲ國人ニ加ヘントスルヲ疑懼シケレハ上下互ニ相猜疑畏懼シ睽離ノ情勢ハ日ニ加ハリテ底止スル所ヲ知ル可ラス

且ツ是時偶々埃國ノレヲポルド王殞落シケレハ歐羅巴ノ平和上ニモ幾分ノ關係ヲ及ホシ殊ニ日耳曼瑞典等ノ諸國ハ國外ニ移住セシ佛國貴族ニ力ヲ假シ之カ勢威ヲ助成セントスルモノ、如クナリシカハ國

内上下ノ痛愛ハ更ニ一層ノ深キヲ加ヘタリ是等ノ諸國カ佛國ノ内政ニ干涉セントテ僭說ヲ立テタルカ中ニモ埃國ノコブレントルカ説ノ如キハ其謬見タル最モ甚シク千七百八拾九年六月廿三日ノ制詰ニ出テタル舊例ニ據リ再ヒ君主政体ヲ確立センヲ主張シタルニ由リ若シ此説ノ如ク實施センニハ再ヒ従前ノ三種族ヲ立テ、僭侶ノ財産ヲ回復シ百事舊物ヲ再興スルノ主旨ニ出テケレハ國人之ヲ聞キテ其主倡者ハ必スコブレントニ集合セル貴族諸人ニ外ナラサルヲ推知シ且ツ此説ハ即チ曾テ國王ト人民トニテ共ニ誓約シタル憲法ノ破壊ヲ要望スルモノニ過キスト認定シケレハ先ツ他國人カ叨リニ内政ニ容喙スルノ權利ナキヲ論シ次ニ此僭說ノ國家ニ禍害ヲ生スヘキヲ憤慨シテ已マス

路易及ヒチウモリースハ時勢ノ迫リタルヲ察シ先ツ國會ニ臨ミテ前
 説ノ報告ヲ爲シケレハ議員等ハ之ヲ聞キテ盡ク怫然憤怒シ滿場一議
 ニ直ニ開戦ヲ宣告センコトヲ主張シタリ蓋シ一朝埃國ト戦端ヲ開キテ
 勝利ヲ得ハ此機ニ乘シテ人民ハ速ニ新政令ノ行ハレンコトヲ要望シテ
 己マサル可ク又不幸ニシテ失敗ヲ取レハ之カ爲メニ人民ノ怨恨ヲ招
 ク可ク勝敗共ニ政府ノ不利ト爲ルコトハ路易ノ豫メ之ヲ洞知シテ痛愛
 スル所ナリト雖モ時勢茲ニ至リテハ復タ躊躇ス可ラス因テ路易ハ更
 ニチウモリースト共ニ國會ニ出席シ先ツ之カ詳細ノ報告ヲ爲サシメ
 テ次ニ自ラ議員ニ向フテ一場ノ演説ヲ陳ヘ卿等ハ佛國人民ノ品格ト
 安寧トハ爲メニ凌辱ヲ受ケ又妨害セラル、ヲ觀シヨリハ寧ロ戦端ヲ
 開クコトヲ欲ス可シ朕ハ憲法ノ正條ニ遵フテホンガリイ及ヒホヘミヤ

陽ニ開戦
 ヲ可トシ
 テ實ハ之
 ヲ憂慮ス
 路易及ヒ
 大臣等ノ
 定見ナク
 シテ自ラ
 禍ヲ招ク
 ハ固ヨリ
 其分ナリ

ハ國王ト開戦スルコトヲ國會ニ申告センカ爲メ親ラ茲ニ出席セリトノ
 意ヲ述ヘケレハ議員等ハ往々之ヲ賛成シテ國王萬歳ト呼フノ聲ハ四
 方ヨリ起リ更ニ開戦ノ方案ヲ審議シテ數條ノ公宣文ヲ作り埃國カ佛
 國ノ叛徒ヲ公然回護曲庇シタルノ罪ヲ問ヒホンガリイ及ヒホヘミヤ
 國王フランシス一世カ此議ニ關シテ力ヲ盡シタルノ舉動ヲ責メ斷然
 開戦ノ議ヲ決シケレハ國民ノ最多數ハ皆此開戦ヲ以テ適當ノ處置ト
 爲シタリト雖モ路易及ヒ其他二三ノ執政者ハ却リテ憂ヲ抱キタルモ
 ノ、如シ蓋シ此戦争ハ永ク歐洲ノ禍乱ト爲リタルモノニシテ其實ハ
 深ク佛國ニ關係ヲ爲サス他ノ諸國ノ間ニ行ハレタル事多キニ居レハ
 其詳細ヲ載録スルコトヲ要セサルヘシ
 他國トノ戦端將ニ開ケントスルニ當リテ國內ニ於テ執政官多クハ諸

執政官ロ
ーランド
ノ奏議

諸葛武侯
カ出師表
ヲ讀ムノ
思アリ

政黨ノ歡心ヲ得ルヲ能ハス當時ノ大權ヲ握リタルヂウモリースハギ
ロンドン黨ト最モ相容レヌ又路易ノ優柔不斷ナル國政ノ前途ニ於テ
大ニ憂フ可キモノ有リシカハ執政官ローランドカ忠君愛國ノ赤誠ハ
自ラ已ムヲ能ハス殊更其夫人カ材學及ヒ詞章ニ富ミタルヤ其國王ニ
一編ノ奏議ヲ上ツラントスルニ當リテ深ク之ヲ懲慝シ親ヲ筆ヲ執リ
テ文章ヲ属リケレハローランドモ遂ニ意ヲ決シテ之ヲ路易ニ奏上シ
タリ此奏議ノ全文ハ當時世人ノ傳唱セシノミナラス古今顯著ノ一論
文ナルヲ以テ之ヲ左ニ譯載セン

伏シテ惟ミルニ佛國現時ノ形勢ハ必ス遠カラスシテ變更ス可ク危
急存亡ノ機ハ方ニ熟シテ其極度ニ達シ到底陛下ノ利害ト全國ノ休
戚トニ關シテ大變故ヲ生セサレハ已マサル可シ臣無似ナリト雖也

明リニ陛下ノ拔擢ヲ忝フシ乏キヲ樞要ノ職ニ承ケタレハ獻替ノ任
盡サ、ル可ラス請フ敢テ臣カ微衷ヲ開摠シ以テ陛下カ附托セル義
務ヲ全フセン曩者我國人民カ自ラ憲法ヲ制定セシヨリ却テ自ラ不
軌叛乱ノ基ヲ開キタリト雖也國內多數ノ人民ハ益々志ヲ決シテ此
憲法ヲ把持センヲ欲シ縱令鮮血ヲ濺クモ之ヲ保持セントノ誓約
ハ確手トシテ溢ハラヌ苟モ之カ安固ヲ圖ルニ當リテハ欣然トシテ戰
乱ヲ起サント欲スルモノ、如シ然ルニ他ノ少數人民ハ深ク將來ノ
期望ヲ抱クヲ以テ其利益ヲ収メンカ爲メニハ力ヲ竭シテ互ニ協同
シ多數人民ト全ク其志ヲ同フセス是ヲ以テ國法ニ對シテ人民相互
ノ紛争ハ已ムキナク又乱離紛々タルノ狀ハ良民ノ皆厭斥スル所ナ
ルニ拘ハラス他ノ乱民ハ熱心ニ新制度ヲ以テ自ラ利スルヲ勉メ

國內到處黨派ノ争闘常ニ已マサルニ至レリ蓋シ人民ハ皆憲法ノ全勝ヲ收メ又其變更アランコトヲ希望シ之ヲ保持シ若クハ改更センカ爲メニハ其勢ヲ客マサルカ如シ是際ニ當リ臣ハ當ニ唯如何ナル事情ヲ要スヘキカヲ察シテ專ラ之ヲ查究スルコトヲ後ニスヘシ請フ力ノ及フ所ヲ盡シテ公正ナル意見ヲ立テ今日ノ現狀ニ於テハ如何ナル事ヲ期望スヘキコトヲ得ルヤ將タ何等ノ持論ヲ立ツレハ果シテ正當ナルヤヲ討尋センノミ

抑モ陛下ノ大權力ハ是レ王權ノ本分トシテ自ラ之ヲ認許シタル所ナルヘシ陛下ノ從來已ニ永ク之ヲ保持セントノ志ヲ立テタルヤ一旦之ヲ他人ニ附與スルハ決シテ自ラ好ム所ニ非ル可シ故ニ此大權ヲ回復セントノ情願ハ之カ消滅ヲ愁悶スルト同一般ニ自然ニ發ス

是レ路易
カ對症ノ
好藥石此
難症ヲ治
セスンハ
其死期日
ニ促ラン

ル所ニシテ此感觸ハ人心天然ノ固有性ニ出ツルモノナレハ革命亂ニ反對セル諸人等モ常ニ之ヲ抱クヤ必セリトス是等諸人ハ苟モ時勢一變シテ公然タル保護ヲ被ムルニ至ルマデハ尙ホ隱密ナル顧眄ヲ得ンコトヲ期シタリシカ一般人民ハ已ニ此感情ノ行ハル、コトヲ知リ又此感情ニ就キテハ必ス媚嫉心ヲ起スニ至ルヘシ是ヲ以テ陛下ハ常ニ依違シテ意ヲ一決スルコトヲ得ス其積習ニ由リテ一己ノ恩愛ニ制セラル可キ乎或ハ哲學上ヨリ誨示シ時勢ノ必要ヨリ生シタルモノニ從フテ自ラ一步ヲ讓ルヘキ乎ノ兩件ハ未タ胸中ニ一定セサルモノ、如シ故ニ亂民ヲ獎勵シテ一般人民ノ心ヲ駭カス可キ乎又ハ一般人民ト合牀シテ之ト協和ス可キ乎ハ處置未タ全ク決定セサルニハ非スヤ凡ソ百事ヲ行フニハ自ラ其時機アリ目今已ニ危急ノ

機ニ當レハ決シテ躊躇スヘキニ非ルナリ

目今陛下ハ公然トシテ口ヲ憲法ノ改革ニ藉キテ狂奔スル諸人ト合
 躰ス可キ乎又陛下ハ寛大ノ心ヲ以テ渠等カ事業ノ大成ヲ助ケ然ル
 後チニ自ラ悔ユルコトナキ乎此問題ハ國事ノ現狀ニ於テ必ス解釋
 セサルヲ得ス蓋シ佛人ハ已ニ十分ノ自由ヲ享クルノ地ニ達スル
 ヤ否ノ問題ハ心理上ニ屬スルカ故ニ今日ノ要務ニ非ス吾人カ一世
 期ノ間ニ此地位ニ達ス可キヤ否ヲ判断スルハ無用ノ事ナリ但當世
 ノ人民ハ能ク何事ニ適當スヘキヤヲ發見スルヲ要スルノミ首ヲ回
 ラセハ國難一發シテ紛々タリシヨリ茲ニ四星霜ヲ經過シタリ此間
 ノ事業ハ果シテ如何各種ノ特權廢セラレテ人民肩ヲ息ヒ正理及ヒ
 同等ノ思想ハ廣ク社會ニ浹洽シ人民カ自由ノ說ハ權利ノ感覺ヲ羣

固ニシ人權ノ說已ニ行ハレテ人皆之ヲ奉スルヤ此說終ニ神聖ナル
 教典ト爲リ封建制度以來積ミテ平カナラサル怨恨ハ貴族等カ公然
 憲法ニ異議ヲ挾ミ此制ヲ敗壞セント欲セシヨリ更ニ一層ノ深キヲ
 加ヘタリ革命乱ノ初年ニ於テハ貴族等カ人民ノ怨ミヲ被ムリタル
 ハ唯其不法ナル特權ヲ有シタルニ由レリトス然ルニ爾後若シ貴族
 ノ言行ヲシテ人民カ深ク怨恨シテ之ヲ敵視スルノ情ヲ増サ、ルカ
 如クナラシメハ特權ノ一朝廢絶シタルト共ニ其怨恨ヲ解キタリシ
 ナラン蓋シ人民カ憲法ヲ執着スルノ心ハ日ニ増進シテ遏ム可ラス
 其已ニ眼前ニ現ハレタル利益ニ因テ惠澤ヲ被ムルノミナラス又其
 利澤ノ尙ホ一層廣大ナルヘキヲ推想シタリ之ニ反シテ從來人民ノ
 負擔ヲ重クスルヲ慣レタル諸人ハ力ヲ極メテ憲法ヲ敗壞シ又ハ

變更セシテヲ勉メタリ故ニ人民ノ憲法ヲ慕フヤ愈々甚シトス
 人權公令ハ是レ政治上ノ教典ニシテ佛國憲法ハ便チ人民カ死ヲ甘
 シテ歸向シタル激門也故ニ人民ノ熱心ハ或ハ國法ニ代リテ効用
 ヲ現ハスヲアリ國法若シ十分ニ國內ノ亂民ヲ鎮定スルヲ能ハサレ
 ハ良民タル者敢テ自ラ此亂民ヲ誅罰スルニ至ラン彼ノ移住者等ノ
 財産ハ復讎ノ念ヨリ起リタル奪掠ノ爲メニ害セラレ又曾テ輿論ノ
 譴斥ヲ被ムリ且ツ犧牲ト看做サレタル僧侶等ハ各地方人民ノ爲メ
 ニ嚴酷ナル處分ヲ受ケタルヲモ皆茲意ニ外ナラス斯ノ如ク各人カ
 利害ノ感想矛盾シテ相容レサルノ勢ハ互ニ情炎ヲ鼓シテ已マサル
 者ニ似タリ蓋シ邦國ナル語ハ人ノ空想ヲ以テ之ヲ修飾スルヲニ甘
 シ可キモノニ非ス是レ實ニ人民カ爲メニ自己ノ心カヲ費ヤン憂

虞ノ起ルニ當リテハ日ニ益々之ヲ愛重シ戒嚴ノ間ニ於テ莫大ノ勞
 カヲ以テ之ヲ開創シ之カ爲メニ費ヤス所ノモノ多ケレハ之ヨリ期
 望スル所モ隨フテ小ナラス以テ深ク之ヲ愛重スル所ノ實躰ナリト
 ス故ニ此實躰ニ對セル百般ノ攻撃ハ唯人民カ熱心ノ度ヲ高クスル
 ノ方便ト爲ルニ過キス若シ敵兵ハ外國ヨリ集マリテ内訌亦起リ互
 ニ相殺戮スルカ如キ時期ニ當ラハ此熱心ハ如何ナル高度ニ達スヘ
 キカヲ知ル可ラス是ニ於テカ國中各所ニ於テ人心ノ沸騰極メテ甚
 シク到底陛下ノ本意外ニ顯ハレテ人民厚ク之ニ信賴シ國中盡ク之
 ニ合躰スルニ非ルヨリハ其禍亂ハ潰裂四出ス可シ然レモ此信憑ハ
 決シテ一場ノ宣言ヲ以テ之ヲ確立スヘキニ非ス必スヤ實効ノ之カ
 根基ト爲ラサル可ラサルナリ

現時人民ハ皆謂ヲシ憲法ハ已ニ獨立シテ行ハル可ク又政府モ之ヲ行フニ必用ナル精力ヲ有ス可シ故ニ陛下若シ一意ニ憲法ノ大成ヲ欲スレハ直ニ行政上諸般ノ權力ヲ以テ立法官ヲ保持ス可ク且ツ凡百ノ口實ヲ設ケテ人民ノ畏怖ヲ生スルヲ罷メ他ノ不平ノ徒ヲシテ全ク將來ノ望ヲ絶タシム可シト是ヲ以テ今若シ重要ナル兩項ノ公令發行セラレントシ俱ニ國家ノ安寧及ヒ幸福ニ關係スルモノトセンニ若シ之カ裁可ヲ猶豫セハ人民忽チ疑懼ノ念ヲ生ス可シ重キテ之カ施行ノ期ヲ遷延セハ人民更ニ不滿ノ心ヲ起ス可シ臣竊カニ現時輿論ノ動靜ヲ察スルニ人心一タヒ不滿ノ心ヲ起サハ必ス不測ノ結果ヲ現ハスノ勢アリ豈寒心セサル可ン耶目今ノ形勢ハ決シテ之ヲ挽回ス可キニ非ス又一時調和ノ方便ヲ以テ功ヲ収ム可キニ非

ス革命ノ事業ハ已ニ人心ノ間ニ熟成シ鮮血ヲ注キテ之ヲ大成シ鮮血ヲ塗リテ之ヲ鞏固ニセンコトヲ欲シタリ但今ニ及ヒテ深謀遠慮以テ此禍乱ヲ未萌ニ防止スルノ事アル而已

凡ソ百事ハ非常ノ處置ヲ以テ之ヲ斷行シ若クハ鎮制ス可キハ是レ臣ノ常ニ推想スル所ナリトス然レモ萬一兵力ヲ以テ國會ヲ轉覆スルカ如キコトアリテ巴理ノ人心ハ盡ク洶々トジテ乱ヲ思ヒ怨讎ノ聲囂然トノ起ルニ至リナハ全國ノ人民皆四方ヨリ奮起シ四分五裂シテ忽チ内乱ヲ激成シ慘烈ナル志氣ノ發達ハ復タ得テ防ク可ラサルニ至ラン蓋シ此志氣タル道德ト罪惡トノ別ナク同一般ニ之カ發達ノ基ト爲ルモノト雖モ之カ發達ヲ激動シタル者ニ關シテハ往々不幸ノ結果ト爲ルモノトス國家ノ康寧ト陛下ノ尊榮トハ密著シテ分

離ス可ラス陛下ノ王位若シ憲法ノ根柢ニ立テ憲法ニ依リテ保持セ
 ル平和ヲ以テ之ヲ鞏固ニスルニ非ルヨリハ慘烈ナル禍害ト不測ナ
 ル危難ハ陛下カ王位ヲ危フスルコトアル可シ是ヲ以テ今ヤ輿論ノ
 傾向事變ノ針路一定セル政界ノ本旨及ヒ陛下ノ利益等各種ノ關係
 ヨリ之ヲ察スルニ陛下カ立法牀ト相合同シ又人民ノ志望ヲ聽納ス
 ルノ義務ハ決シテ闕如ス可ラス人民ハ唯主義ノ指定スル所ニ因テ
 其職務ヲ知リ之ヲ以テ當世ノ急務ト爲スノミ然レトモ我人民カ本
 來親愛ノ感情ニ厚キヤ此急務ノ行ハルニ於テハ固ヨリ感激ノ心
 ヲ起サ、ルヲ得ス故ニ陛下若シ斯ル感動シ易キ人民ニ對シテ自
 ラ厭忌若クハ疑惑ノ念ヲ挾ミタランニハ是レ陛下ハ實ニ欺罔セラ
 レタル者ニシテ畢竟陛下ノ舉動常ニ人民ノ疑懼ヲ招ク所以ノモノ

古今君民
 相得テ輔
 睦ハ唯之
 以ハ是レ由
 ニ是レ由
 ラサレハ
 一變シテ
 上下睽離
 シ再變シ
 テ革命顛
 覆ニ終ラ

モ陛下カ始終依違シテ人民ヲ信憑セサルニ由ルノミ伏シテ請フ人
 民ヲシテ早ク陛下カ決意ハ在ル所ヲ知ラシメ人民カ賴テ以テ其幸
 福ヲ保安センヲ欲セル憲法ハ改進ハ陛下ハ力ヲ盡シテ之ヲ助成
 スル所ナルヲ明示セヨ是ニ於テ人民ハ陛下ハ洪恩渥澤ニ感佩シ
 テ已マサル可シ
 國內各地ノ僧侶等カ舉動ト教門ニ熱中セル不平ノ徒カ口ニ藉キテ
 紛擾セル事ニ關シテハ必ス良法ヲ立テ、其暴動ヲ防制セサル可ラ
 ス國家ノ平穩ト僧侶ノ安全トハ俱ニ此處置ヲ要スレハ陛下ハ請フ
 速ニ之カ制可ヲ與ヘヨ若シ此法實効ヲ舉ケサレハ地方人民ハ暴激
 手段ヲ以テ此法ニ代用スルコト前日ノ例ノ如ク而フシテ暴徒等モ
 之ニ乘シテ兇行ヲ逞フス可シ吾人カ讎敵ノ企圖セル事件首府中ニ

起リタル騒乱陛下カ衛兵ノ舉動ニ關シ人皆非常ノ危懼ヲ抱キタル
 又陛下カ周圍ノ事情ニ對シテ誠ニ措ヲ失シタル公令ヲ發シ之ヲ
 以テ都民等ニ滿意ヲ與ヘタル一等ハ人民之ヲ記憶シテ忘レス且ツ
 巴理ノ位地ニ關シ并ニ衛兵ノ常ニ國界ニ近接セル一等ヨリシテ首
 府ノ近地ニ一兵營ヲ建設セシ一ヲ要スルニ至レリ惟フニ此處置タ
 ル府民カ皆之ヲ長策ナリトシテ之ヲ切望シ今日方ニ陛下ノ裁可ヲ
 期待スル所ナレハ陛下ハ何故ニ速ニ之ヲ處斷シテ人民ニ感佩ノ念
 ヲ起サシメス却テ躊躇遲疑ノ態ヲナシ之ヲ可認セサルノ意ヲ示ス
 平臣實ニ疑惑ニ堪ヘサルナリ此處置ニ反對セル巴理駐在ノ衛兵士
 官カ舉動ハ必ス他ニ命ヲ受クル所アリテ然ル可シトテ已ニ人民ノ
 疑念ヲ生シタリ彼ノ非常ノ損害ヲ被ムリタリト公言シテ已ニ起リ

一片忠愛
 之情ハ露
 然トシテ
 外ニ溢ル

タル人民等モ唯衛兵等カ憲法廢滅ノ事ヲ企圖セル黨類等ト合夥セ
 シナラントノ疑念ニ因リタル者也然レモ輿論ハ已ニ陛下ノ本意ト
 協和スル所アラントス若シ少シク時期ヲ遷延セハ人民皆望ミヲ失
 フテ我カ國王ハ不軌ヲ圖ルノ徒黨ト相親和セリトノ感想ヲ生スヘ
 シ豈惜ム可キノ一ニ非スヤ
 嗟呼至仁ナル昊天ヨ汝ハ漫然トノ坤輿ノ邦國ヲ破滅セントスル乎
 是等ノ邦國ハ到底禍乱ヲ免ル可キノ嘉謀良猷ヲ有スル一ヲ得サル
 乎夫レ忠言耳ニ逆フレハ國王屢之ヲ聞クコト能ハス革命乱己ニ急
 促セリトノ論陛下ノ耳ニ入ルコト稀レナルハ唯之カ爲メノミ之ヲ
 要スルニ臣カ敢テ忌諱ヲ憚カラス陛下ニ逆耳ノ言ヲ上ツル所以ノ
 モノハ唯臣カ責任タル一ヲ知レハナリ臣ハ唯國法ヲ遵奉スル良民

タルカ故ニ然ルノミニ非ス又明リニ陛下ノ信任ヲ辱フシテ執政官ノ顯職ニ上リ之カ職務ヲ擔任シタルニ由レハナリ故ニ臣カ自ラ認知セル所ノ職務ヲ竭スニ當リテハ何事モ亦之ヲ妨碍スルモノ莫キヲヲ知レリ蓋シ臣カ陛下ニ向フテ内閣中當ニ尙書ノ官ヲ置クヘキノ法律ヲ制定スルノ利ヲ説キテ之ヲ丁寧反覆スル所以ノモノモ亦以上ノ精神ヨリ起リタルニ過キス此法律一タヒ定マレハ政務ノ施行決シテ躊躇セサルノ實ヲ明示スルニ足ラン然レモ之ヲ決行スルニ臨ミテハ必ス沈重明標及ヒ熟慮ヲ盡ソ之カ討議ヲ遂クルヲ以テ最大要件ナリトス畢竟責任宰相タル者ハ當ニ其意見ヲ登録スヘキノ官職ヲ設ケサルヘカラス此制若シ己ニ行ハレナハ今日臣カ陛下ニ向フテ奏疏ヲ上ツルヲモ亦無用ナリシナラン夫レ死生モ亦大

忠臣義士ノ本懐ハ此ノ如クナルヘシ
 俯仰天地ニ愧チス
 是レ男兒ノ安心立命ノ地

矣、然、レ、モ、百、事、ヲ、抛、ウ、チ、テ、其、職、務、ヲ、竭、サ、ン、ト、ヲ、欲、ス、ル、者、ハ、生、命、ノ、輕、キ、コ、ト、鴻、毛、ノ、如、シ、且、ツ、己、ニ、之、ヲ、竭、ス、ハ、幸、福、ヲ、得、タ、ル、後、ハ、又、別、ニ、一、幸、福、ヲ、生、シ、其、誠、心、ヲ、以、テ、善、ク、之、ヲ、竭、シ、タ、ル、ト、ヲ、反、省、セ、ハ、自、ラ、愉、快、ノ、感、情、ニ、堪、ヘ、サ、ル、ヘ、シ、是、レ、實、ニ、身、ヲ、國、事、ニ、許、シ、タ、ル、モ、ノ、ニ、属、シ、タ、ル、義、務、ナ、リ、ト、ス、臣、請、フ、此、義、務、ヲ、執、ラ、ン、誠、恐、昧、死、謹、奏、

ローランド 印

自由紀元第四年即テ千七百九拾二年六月十日

巴理府ニ於テ之ヲ記ス

○第拾三回

路易ハ此奏議ヲ讀ミテ稍感悟スル所アルカ如クナリシモ女皇ト俱ニヂウモリスヲ召シテ謀ル所アルニ至リテハ中心實ニ此奏議ヲ可トシ

タルモノニ非ルヲ知ル可ク向キニ内閣ニ舉ケタル執政官セルパン、
 クラピールス及ヒローランドヲ罷メンヲ告ケシカハヂウモリスハ
 其意ヲ奉承シテ以上三執政ヲ罷免スルヲ同意シ因テ路易ニ告ケテ
 曰ク臣已ニ人民ノ望ミヲ失フタリ豈今ニ至リテ有力ナル政黨ノ首領
 タル三個ノ同僚ヲ黜ケ以テ益々輿望ヲ失フヲ意トセシ耶但之ヲ決
 行スルニ當リテ渠等カ忠君愛國ノ爲メニ罪ヲ獲タルニ非ルヲ人民
 ニ表明スルヲ可ナリトス而フシテ之ヲ人民ニ表明スルニハ彼ノ衛兵
 ト僧侶トニ關セル両公令ノ制可ヲ下スニ如クハ無シト因テ縱令此公
 令ヲ制可スルモ實際ノ施設ノ便宜ニ因リテハ敢テ政府ニ害ヲ被ムル
 所ナキヲヲ説キケレハ路易モ其言ヲ納レテヂウモリスニ兵馬ノ大權
 ヲ委任スルヲ約シ直ニ手ヲ内閣ノ更迭ニ下サシメタリ

姦相國ヲ
 誅マルノ
 議論ハ常
 ニ斯ノ如
 シ

是ニ於テヂウモリスハ王命ヲ以テ深ク民望ヲ繫キタル三執政ノ官ヲ
 罷メ更ニ己レカ同類ヲ舉ケテ其任ニ代ハラシメタリローランドハ内
 其婦人カ輔佐ヲ得テ外之ヲ事業ニ發表スルノ材幹ヲ有セシカハ職ヲ
 罷ムルニ當リテ直ニ國會ノ議場ニ上リ向キニ國王ニ上ツリタル奏議
 ヲ朗讀シテ之カ爲メニ職ヲ罷メタルヲ公言シケレハ滿堂ノ議員等
 ハ異口同音ニ其奏議ノ公正允當ナルヲ賞賛シ即時ニ之ヲ印刷ニ附
 シテ全國八拾三州ニ布達センヲ命シ且ツ此回職ヲ罷メタル三執政
 ハ人民ノ信任ヲ擔フテ政府ヲ退キタリトハ宣言セリ是時適々チ
 ウモリスハ新ニ陸軍卿ト爲リ國會ニ兵事ノ報告ヲ爲サントテ議場ノ
 演壇ニ登リケレハヂャゴビン派ノ議員ハ皆足ヲ以テ床板ヲ踏ミ鳴ラ
 シテ已マス且ツ其新ニ陸軍卿ニ任セラレタルヲ報スルニ及ヒテハ

茲ニ至リ
 テ稍ハ心
 ニ痛快ノ
 意ヲ生セ
 シム

滿場ノ議員盡ク不滿ノ色ヲ顯ハシテ嚚々ノ聲四方ヨリ起リタリシカ
 議場ノ漸ク靜肅ナルニ至リテ其報告ヲ了リケレハ詭罵ノ聲又起リテ
 少頃クモ止マスデウモリスハ始終泰然トシテ毫モ聲色ヲ動カサス徐
 カニ演壇ヲ下リ傲然濶歩シテ議場ヲ退キタリトソ
 路易ハヂウモリスカ議場ニ於テ剛愎不屈ノ氣象ヲ示シタルヲ賞揚
 シテ已マサレモ其嘗テ之ト相約シタル兩公令ノ制可ニ至リテハ茲ニ
 至リテ俱ニ之ヲ決行スルヲ欲セサルカ如クナリシカハヂウモリス
 モ其職ヲ罷メンヲ請フニ及ヘリ是ヨリ路易ハ日夜怏々トシテ樂マ
 ス甚シキニ至リテハ宮掖ノ間ニ於テモ十日間一語ヲモ發セス但食後
 皇妹イリサベスト遊戯スルニ當リテ數語ヲ發スルノミ女皇ハ深ク之
 ヲ愁悶ノ已マス或ハ怪異ノ肖像ヲ造リテ戯レニ之ヲ畏サントシ或ハ

國王及
 政治家
 通弊ノ

戀々ノ愛情ヲ盡シテ其心ヲ慰メント欲シタリ蓋シ路易カ輕シク宰相
 ヲ黜陟シテ諸政黨ノ歡心ヲ失ヒシヨリ復々國內ニ於テ恃ム可キモノ
 莫キニ由リ今後ハ己ヲ得ス外國ノカヲ假ランヲ思フタリシカ此志
 望ノ中外ニ傳聞スルニ至リテハ苟モ佛國ノ自由ニ心ヲ留ムルノ志士
 ハ之ヲ痛愛シテ已マス已レ先其禍害ヲ被ムリテ王國ハ四分五裂ノ難
 ニ罹ランヲ恐レタリシカ路易ハ毫モ之ヲ覺ラス蓋シハ己レカ進ム
 可キ針路ノ不便ニ至リテハ自ラ眼ヲ閉チテ之ヲ察セサルモノ如シ
 豈憐ムヘキトニ非スヤ是ニ於テ路易ハ使節ヲ李魯西、埃斯利諸國ニ派
 遣シテ國內ノ情狀ヲ詳説シ專ラ佛國ノ秩序ヲ保持シ又亂離ヲ鎮服ス
 ルノ旨ヲ以テ其國境ニ兵ヲ出シ以テ國王及ヒ政府ノ安全ヲ回護スル
 所アラントヲ要請シケレハ諸國ノ政府モ嚴密ナル條約ヲ立テ、其要

請ヲ納レタリトソ

路易ノ政畧已ニ斯ノ如クナリシカハ國內ノ民權黨ハ是ヨリ朝廷ヲ以テ極メテ陰險ナル強敵ナリト爲シ兵馬ノ大權ハ全ク其掌握ニ在ルカ故ニ之ヲ畏怖スルコト限リ無ク爾後君民ノ紛爭一タヒ開クルニ及ヒテハ互ニ死ヲ決シテ勝敗ヲ争ハサルヲ得サルニ至レリ是ヨリ先キ國會ノ再ヒ開クル際ラレイトレンダルハ議院ノ二局論行ハレサルヲ以テ本國ヲ去リ又マローモ久シクカヲ政治社會ニ盡サ、リシカ兩人同シクヂウボルラメスラフエツト等ト協合シテ再ヒ一黨ヲ團結シ極メテ相親和シテ主義ヲ確定シ國王ノ失措ヲ匡救シテ憲法ヲ奉持セントノ定論ヲ執リタル當時是等ノ黨類ハ皆秘密ノ運動ヲ爲サ、ルヲ得ス其事不幸ニシテ成ラサレハ終ニ陰謀ノ惡名ヲ受ケサルヲ能ハスト

雖モ有志者ハ此惡名ヲ冒スモ毫モ之ヲ意トセスヂウモリスカー一旦職ヲ罷メンコトヲ欲シタルモ尙ホ位ヲ固フシテ大權ヲ握リタルヲ以テ之ニ就キテ辯論スル所アリ共ニ力ヲ盡シテ國王ノ失政ヲ匡救センコトヲ望ミタレモヂウモリスハ固ク僻説ヲ執リテ之ニ應セス然レモラフエツトハ以上諸人カ團結セル黨派即チ立憲黨ノ間ニ立チテ專ラ秘密手段ヲ取ルコトヲ欲セス到底憲法ヲ維持シテ路易ヲ救護セントノ志ハ益々堅固ナレモ彼ノ移住諸人及ヒ朝官等ハ路易ニヂヤコビニ黨ト相合躰センコトヲ勸メテ立憲黨ト合同スルコトヲ止メ且ツ殊ニ惜ムヘキハ彼ノ立憲黨諸人カ激烈ナル他黨ニ對スルノ方略ハ極メテ薄弱ニシテラフエツトハ能ク其兵士ノ歡心ヲ得テ之カ用ヲ収ム可シト雖モ已ニ命ヲ受ケテ國境ヲ守リ敵兵前ニ遁リケレハ決シテ兵ヲ

内地ニ動カスヲ得ス良シ兵ヲ内地ニ動カスヲ得ルモ争端一タヒ
開ケハ國會ニ對シテ戰端ヲ開カサルヲ得サルニ由リ苟モ國法ノ下
ニ運動シテ誠實穩當ナル手段ヲ執ル諸人ノ決シテ爲スヲ屑シトセ
サルヲナル可シ

按スルニ皇妹エリサベスハ曾テ女皇ニラフエツトヲ信任センヲ
勸メシカハ女皇ハ之ニ對ヘテ「ラフエツト及ヒ立憲黨等ノ諸人カ救
護ヲ被ムランヨリハ寧ロ死スルニ如カサルナリ意フニ渠ハ能ク國
王ヲ救護スルヲ得ルモ終ニ王權ヲ保持スルヲ欲セサルヘシ」ト
謂フタリ蓋シミラボ―ハ曾テラフエツトト相善カラサリシ時女皇
ニ「ラフエツトハ恐クハ國王ヲ俘ニシ其幕下ニ置カレヲ欲ス可シ」
トノヲ説キタリシニ由リ女皇ハ之ヲ記慰シ「吾人再ヒ渠カカニ依

頼スルヲハ蓋シ容易ノ事ニ非ス」トノ語ヲ反覆シテ始終此思良無比
ナル雄將ヲ信任セサリシトソ

當時ラフエツトト志望ヲ一ニセル志士モ亦鮮カラス因テ相謀リテ一
書ヲ作りラフエツトノ記名ヲ以テ之ヲ國會ニ呈附セリ其書ノ要略ニ
曰ク「惟フニ佛國ノ内讎外敵ハ當ニ之ヲ殲滅スヘキモノナリト雖モ諸
君カ能ク憲法ヲ確持シ且ツ正義ヲ固守スルニ非ルヨリハ恐クハ其功
ヲ奏スルコト能ハサルヘシ眼ヲ開キテ通觀セヨ諸君ハ彼ノ一私黨即
チ「ヂヤ、ユ、ピ、ン、黨」カ國中ノ騷乱ヲ激成シタルコトヲ知ラサルカ予ハ此
私黨ヲ以テ之カ罪魁ナリト認定スルナリ此私黨ヤ國內ノ主要ナル社
會若クハ同類ノ間ニ別ニ一國ヲ建テタルカ如ク二三ノ領袖ハ深ク野
心ヲ挾ミテ放縱暴戻ヲ是レ事トシ佛國人民ノ中ニ別ニ一社會ヲ設ケ

激論敢言
唯是レ滿
腔ノ熱血
ヲ注キ來
リテ之ヲ
呈露スル
ノミ

古今東西
何世ニ
カ此迷想
謬見ヲ有
セサルモ
ノ無ラン
我邦ノ志
士タル者
ハ奮フテ
當ニ之ヲ
未然ニ防
クヘシ

テ其權力ヲ誤用シ之カ代議士ト百官トヲ壓倒セントス是ニ於テカ公
會ノ間ニ於テ國法ヲ敬重スル者ハ貴族ト呼ハレ國法ヲ破壊スル者ハ
愛國士ト稱セラレテシルスノ暗殺者ハ名譽ヲ受ケテヨルダンノ罪
惡モ賞揚セラレ血ヲ以テメツツヲ鱗シタル屠殺ハ事蹟モ世人盡ク噴
々トシテ之ヲ讚美スルニ至レリ豈慨嘆スヘキノ至リナラスヤ云云

チヨウブチヨルダンハ常ニ劊手ノ綽號ヲ受ケタルモノニシテ初メ
屠者ト爲リ鍛冶匠ノ工人ト爲リ脱稅商ト爲リ僕隸ト爲リ士官ト爲
リ終ニ憲兵ノ首領ト爲リタリシカウエルサイユノ殘殺ニ於テハ衛
兵二人ノ首ヲ斬リ又常ニ自ラフリーロン及ヒベルチイルカ心臓ヲ抽
キ出シタルコトヲ誇リシカハ是等ノ功ヲ賞センカ爲メニ國會ニ於
テ賞牌ヲ與フルニ至レリトッスノ如ク常ニ殺戮ニ從事シタルカ故

ニ其長鬚ハ端末ニハ屢々鮮血ノ班痕ヲ留メタルヲ以テ世ニ著ハレ
タリト云フ

次ニラフエツトハ人民カカヲ盡シテ國中ノ亂黨ヲ殲滅スヘキヲ説
キテ曰ク然レモ自由ヲ防護スヘキ兵士タル吾人カ國ノ爲メニ戰フテ
功ヲ奏シ若クハ死ヲ致シテ其福利ヲ與サント欲スルニハ專ラ爲メニ
カヲ竭スヘキノ人員ハ必ス敵人ノ數ニ對等セサル可ラス又吾人カ運
動ニ關セル百般ノ供給ハ益々増加セサル可ラス又兵卒ニ關セル各種
ノ準備ハ十分ニ充足セサル可ラスト滿胸ノ意見ヲ開摠シテ毫モ忌憚
スル所ナク當時ノ各種政社ノ併立ヲ非難シタリト雖モ到底一國大勢
ノ自然ニ基イスルモノナレハ之ヲ廢絶スルヲ得サル可シ然レモ國
會議場ノ左位ニ列ナリタル議員ノ盡ク默シテ一語ヲ發セサルニ拘ハ

ラス右位ノ議員ハ大ニ之ヲ賛成シ此書ノ朗讀了ルニ當リテ直ニ之ヲ印刷ニ附シ以テ各地方ニ回附セントノ議ヲ發スルニ至リシカ是ヨリ議論百出シテ此書ノラフエツトカ直接ニ國會ニ呈附スヘキモノニ非ルヲ論シ或ハ此書ノ實ニラフエツトカ手ニ成リシヤ否ヲ疑フ者アルニ至リ終ニ調査委員拾二人ヲ撰ムニ及ヒケレハ印刷ニ附シ又ハ地方ニ回附セントノ發議ハ自ラ消滅セリトソ

ラフエツトカ眞率切直ナル言論斯ノ如キヲ以テ是ヨリ名望却リテ漸ク衰ヘントスルモノ、如シギロンヂン黨ノ領袖ハ人民中ニテ稍學識ヲ具ヘタルモノ多キカ故ニ乱民等ト議論ヲ異ニスル所アリラフエツトカ力ヲ極メテ「ヂヤユピン」黨ヲ排撃シタルモ決シテ其志節ヲ變シタル者ニ非ス又佛國ニ對シテ擣貳スル者ニ非ルヲ知リタリ但當時ノ

諸政社新聞雜誌及ヒ公會場等ニ於テ其心事ヲ疑フ議論漸ク起リタルカ故無知人民ノラフエツトヲ視ルコトハ猶ホ朝官等ノ如ク是ヨリ愈々志ヲ決シテ朝廷ニ抗拒セントノ氣ヲ勵マシ其未タ發セサルニ乘シテ我ヨリ先ツ起ラントノ決意ハ復々遏ム可ラス蓋シ當時民權黨ノ勢ハ日ニ益々盛大ニシテ其間雄名ヲ鳴ラシタルノ士モ漸ク増加シ「ヂヤユピン」黨ノロベスピイル「ユルテリール」黨ノダントンヨリシテ其他サルセントバニスサンタルカーラ及ヒロシグノル等孰レモ廣ク人民ノ望ヲ繫キ一旦蹶起シテ指顧スレハ民心忽チ傾動シテ如何ナル事ヲモ成シ得サルハナシ是ヨリ先キローランドハ職ヲ退キテヨリ國事ノ日ニ陵遲スルヲ憤慨ソ已マス朝廷ハ本國ト自由トヲ外國人ノ手ニ委託スルノ意アルヲ聞キ其同志ト謀リテ之ヲ救回スルノ策ヲ立テント

大臣位ヲ去リ大ニ力ヲ盡ス事ニ盡ス事能ハス已ムヲ得スシテ新聞社ヲ起スハ亦是後世ノ模範ニ供スヘシ

欲シタレトモ黨類ヲ團結シ朝廷ニ抗拒スルノ事業ヲモ起スヲ得ス唯同志者ト共ニ力ヲ盡シテラザンチナルト呼ビタル新聞紙ヲ發行シ以テ自己ノ施政主義ヲ顯彰セントコトヲ欲シタリ其在職ノ間ハ常ニ出版事業ヲ以テ輿論ヲ開達セントノ持論ヲ執リタルヲ以テ之カ爲メニ豫メ資本ヲ儲ヘタリシカ此ニ至リテ遂ニ其志ヲ實行シタルナリ
是時巴理ニ一壯士アリ性勇敢ニシテ不撓ノ志氣ヲ抱キ最モ民主政治ノ主義ヲ確持シテ身ヲ以テ國事ニ許シタリシカ其狀貌ノ極メテ端麗ナルヲ以テ殊更世ニ稱セラレ其名ヲバルバロート云フ嘗テローランドト相見テ國事ノ日ニ危急ナルヲ慷慨シ其北部地方ニ於テ危難ノ方ニ起ラントスルノ徴已ニ現ハレケレハ共ニ南部地方ニ割據シテ別ニ一ノ合衆國ヲ起サントノ策ヲ計畫シ該地方ノ地圖ヲ披キテ境界及ヒ

有徳ベシヨシ

亦是後世改革家ノ龜鑑ニ供スヘシ

山川ノ要害ヲ知ラント欲スルニ及ヒ且ツ該地方ノ守令ト密ニカヲ合セテ大事ヲ企テント欲シタリ又巴理府尹ベシヨシハ夙ニ自由主義ヲ抱キテ當時ハ專ラギロンヂン黨ト相合躰シタレトモ亦朝廷ニ對シテ深ク敬重セラレ其常ニ方正廉直ヲ守リタルヲ以テ人民ハ皆之ヲ呼ヒテ有徳ベシヨシト稱シ朝廷ハ其心ヲ動カサントテ貨賂以テ之ヲ誘致セントシタレトモ到底其益ナキヲ覺リテ之ヲ止メタリ斯ノ如ク上下ノ信任ヲ得ルヲ深キノベシヨシナレハ常ニ國事ノ匡救ヲ以テ自ラ任シタリト雖モ朝廷カ外國ノ兵力ヲ假リテ國難ヲ鎮定セントスルノ勢アルヲ視テ爾後力ヲ盡シテ新ニ革命事業ヲ大成センヲ欲セリ但之ヲ行フニ當リテハ正理公道ヲ旨トシ飽クマテ國法ニ遵由シテ極端ニ趨ラサランヲ務メタリトソ

○第拾四回

歲月循環シテ人心ニ感觸スル所アレハ隨フテ政治上ニ激發スルノ志氣ヲ生スルコトハ是レ古今ノ常ナルヲ以テ是時適々彼ノ「テンニス」官廳ニ於テ宣誓ノ行ハレシヨリ一週歳ニ當リケレハ佛國人民ハ國會并ニ國王ニ請願書ヲ奉呈セントノ議ヲ起シ各人皆兵器ヲ執リテ都城ニ逼リ四萬ノ槍頭ヲ林立シテ其勢威ヲ示シ以テ當路者ノ心膽ヲ冷ヤサシコトヲ企テタリ然ルニ各地方官ハ概テ是等人民ノ集會ヲ解散セシコトヲ欲シ又内務執政官モ集會解散ノ議定案ヲ國會ニ出シテ其意見ヲ問ヒシカハ國會ニ於テハ議論沸騰シテ之ヲ議ス可キヤ否ノ意見分岐シタリシカ終ニ此議案ヲ採用シテ之カ布令ヲ發スルニ及ヒタリ然ルニ是時路易ハ彼ノ僧侶ヲ箝制シ及ヒ別ニ二萬人ヲ容ルヘキ兵營ヲ

辭氣凜然

建設スルノ公令ニ對シテ不制可ノ鈴印ヲ了リシカハ此處置ノ民心ヲ激動シタルコト尤モ甚シク且ツ彼ノ集會解散ノ件ニ就キテ已ニ民心ヲ失フコト多キカ故ニ人民ハ更ニ國會ニ對シテ請願狀ヲ呈シタリ其要畧ニ云ク「佛國ノ自由ハ方ニ危難ノ間ニ陷井リタリ但頼ム所ハ南部地方ノ愛國人民アリテ之ヲ回救スルノミ人民カ憤慨ヲ發表スルノ日ハ已ニ到レリ立法官ハ人民ハ權力ヲ掌握セルモハナレハ請フ此權力ヲ利用セヨ佛國ノ愛國士民ハ都府及ヒ國境ニ向フテ精強ナル兵士ノ進軍セルコトヲ卿等カ許容センコトヲ要請シテ已マサルナリ惟フニ卿等ハ國法ヲ防衛スルカ爲メ死力ヲ竭シテ悔ヒサル者ノ請願ヲ裁可スルコトヲ辭セサル可シ云々

按スルニ當時主トシテ請願者ト爲リタル人民ハマルセイユルヨリ出

一隊魔軍
ノ横行ス
ルカ如シ

テタル者ニシテ其人員ハ僅ニ五百人ナルモ隊伍ヲ作リテ巴理ニ進
ミ入リタル時ニハ府民等盡ク恐怖セサルハ莫シ請願者ハ皆四方ヲ
睥睨シテ貴族等ノ所在ヲ搜索スルモノ、如ク各人異口同音ニ唱へ
起リタル歌曲ハ其調格皆猛烈ニシテ肅殺ノ氣ヲ帯ヒ旨趣ハ盡ク國
王、僧侶及ヒ貴族ヲ怨恨スルノ意ヨリ成リタリ或ル貴女ハ之ヲ聞キ
テ人ニ語リテ予ハ從來彼歌曲ノ如ク人心ヲ激動シ若クハ畏怖セシ
ムルモノアルヲ聞カサル也ト云フニ至レリトソ

此請願狀ノ到ルヤ國會中更ニ一場ノ激論ヲ生シ右側ノ議員ハ若シ之
ヲ各地方ニ回布セハ必ス人民ノ叛乱ヲ挑撥ス可シト説キ之ヲ公令ト
シテ發表スルヲ拒ミタレ其説多數ノ贊成ヲ得シテ消滅シタリ
蓋シ當時ノ民心ハ激發ノ極度ニ達シ新ニ一大革命乱ヲ作コスニ非ル

此論頗明
先見然レ
アリ茲ニ
至リテハ
豫防策モ
亦益ナキ
ノミ

ヨリハ佛國ト自由トヲ救護スルヲ能ハストノ志ヲ決シタルニ由リ右
側議員ノ説如何ニ公正穩當ナリト雖也到底之ヲ實施スルヲ能ハサル
コソ惜ム可シ是時ニ當リテ國會ハ請願者ノ集會ヨリシテ必ス意外ノ
大事變ヲ生センヲ豫想シ爲メニ議場ヲ開キケレハ深ク事ヲ慮ル者
ハ請願者カ週歲期ノ佳辰ヲ祝スルヲ口實トシ進ミテ宮闕ヲ犯シ國
王ニ對シテ不敬若クハ危害ヲ加フルニ至ランヲ恐レ之ヲ豫防スル
ノ方策ヲ設ケサル可ラストノ説ヲ立テタレ其議論多岐ニ分レテ紛々
定マル所ヲ知ラス

是時ニ當リテ八千人ノ請願者ハ已ニ議院ノ門外ニ齧集セシカハ議員
中或ハ安寧ヲ害スルヲ勿レトノ語ヲ反覆シ其騷擾ヲ制止センヲ欲
シタレ其他ノ議員ハ之ニ抗拒シ八千人ノ請願者ハ四方ヨリ集マリ來

リテ待ツ所アルカ如シ八千人ノ良民已ニ斯ノ如クナレハ二千四百萬ノ佛國人民モ亦必ス待ツ所アル可シト説キ右側ノ議員トカヲ合セテ其意見ヲ主張セント欲シタリ然ルニ彼ノ請願者等ハ已ニ院内ニ闖入シテ暴行ヲ恣ニセントスルノ勢アリシカハ議員等モ多クハ之ヲ慣リテ已マス議長モ亦帽ヲ冠ムリテ退場セントスルニ至リシニ由リ暴民等モ院内ヲ去リテ門外ニ出テタリ今此請願書ノ要旨ヲ擧クレハ當時暴民等カ主張シタル言論ノ一斑ヲ窺フニ足ル可シ其略ニ云ク「人民等ハ唯卿等カカヲ盡サンコトヲ期待スル而已請フ人権公令中ノ第二條即チ、壓制政治ニ抗拒スルノ旨趣ヲ實施スルハ大方畧ヲ活用セヨ卿等カ最少數ノ議員中若シ吾人ト持論ヲ異ニスル者アラハ速ニ此自由ノ國土ヲ去リテコブレントニ到ラシメヨ吾人ニ禍害ヲ加フ可キ本原ヲ討

究シテ其罪魁ハ實ニ行政官ニ在ルコトヲ知ラハ何ソ斯ノ如キ行政官ヲ殲滅セサルヤ云々

斯ル請願ノ旨趣ヲ以テ議員等ヲ脅カシタルヨリ議長ハ之ニ對ヘテ議員ノ注意勉カスル所アルヘキヲ約シ且ツ國法ハ必ス慎ミテ遵奉ス可キコトヲ戒諭シ遠ク之ヲ門外ニ退ソケタリ是時亂民ノ數ハ益々増加シテ凶慮三萬人ノ多キニ至リ皆隊列ヲ成シテ前頭ニ人権公令ヲ載セタル大机案ヲ捧ケ其周圍ニハ橄欖樹ノ枝ト數條ノ槍トヲ提ケタル婦女及ヒ兒童アリテ皆蹈舞シタリ其意全ク和議ヲ結フカ若クハ戰端ヲ開クカノ兩途アルノミトノ形ヲ示シタルヲ以テ諸人大音聲ニ唱ヘ起ス所ノ歌曲モ盡ク悲壯激烈ノ意ヲ含マサルハ無ク工人役夫等總テ下賤社會ノ者ニ至ルマテ破損腐鏽セル小銃刀劍等ヲ携ヘ或ハ棍杖ノ端末

憲法ヲ守
レハ死ス
ヨ

是レ貴族
等ノ心臓
ナリ

制可權ヲ
廢ス可シ

ニ細尖ナル鐵片ヲ挾ミタル武器ヲ把リ又憲法ヲ守レ否ラヌハ死セ
 ヨト記載シタル太旗ヲ翻ヘシ或ハ小旗ノ心臓ヲ槍頭ニ貫キ其下ニ是
 レ、貴族等ノ心臓ナリトノ語ヲ記シタル小旗ヲ附シテ之ヲ觀衆ニ示シ
 ケレハ道路目ヲ以テシ皆心膽ヲ冷ヤサ、ルハナシ
 暴徒等ノ兇鋒ハ斯ノ如ク猖獗ニシテ恰モ大潮ノ洶湧タルカ如ク己ニ
 禁闕ニ逼リテ宮門ノ外ニ雲集シケレハ禁衛兵ハ堅ク門ヲ守リテ之ト
 防戦セントス然ルニ路易ハ之ヲ制シ却テ宮門ヲ洞開ス可シトノ令ヲ
 下シタルヲ以テ幾千人ノ暴徒等ハ皆吶喊ノ門内ニ亂入シ皆制可權ヲ
 廢ス可シト呼ハリ或ハ我國王ハ何故ニ謁見ヲ賜ハサルヤ吾人ハ毫モ
 之ニ害ヲ加ヘント欲スル者ニ非ルナリト叫ヒテ縱横ニ狂奔シケレハ
 地方官吏若クハ禁衛兵モ力ヲ盡シテ之ヲ防制セント欲シタレト暴徒

我國王ヲ
恭敬セヨ

ノ勢欲茲ニ至リテハ復々之ニ敵ス可ラス各所ノ宮殿概チ暴徒ヲ以テ
 之ヲ充タサ、ルハ莫ク或ハ巨砲ヲ曳キ上リテ深ク内廷ニ進ミ或ハ刀
 劍及ヒ斧鉞ヲ以テ宮殿ノ戸ヲ擊破スルニ至レリ是時路易ハ尤モ暴徒
 等カ怨恨ヲ招キタル朝官等ト内廷ノ中ニ在リシカ暴徒等ノ呼聲殿内
 ニ轟キ斧鉞ヲ以テ擊打スルノ聲漸ク近ツキケレハ先ツ朝官等ヲ退ケ
 テ難ヲ避ケシメ宮内官吏及ヒ禁衛將校等ノ尤モ信任ス可キ者數人ヲ
 從ヘテ毫モ猶豫ナク内廷ノ戸ヲ開カシメタリ是ニ於テ暴徒等ハ一時
 ニ亂入スルコト猶ホ激浪ノ岸ヲ拍ツカ如ク數千ノ槍刀劍戟ハ盡ク林
 立シテ路易ノ膽ヲ冷ヤシタリ
 路易ハ是時自若トシテ暴徒等カ前頭ニ進ミ出テ朕ハ茲ニ在リト大呼
 シケレハ如何ニ狂悖ナル諸人ト雖トモ皆我國王ヲ恭敬セヨト叫ヒテ

稍静息セルモノ、如シ然レトモ請願々々ト呼ハルノ聲ハ四方ヨリ起
 リケレハ路易ハ高脚机ト椅子トヲ重チテ之ニ乘リ周圍ニ宮内官吏及
 ヒ憲兵等ヲ備置シテ諸人ノ説ク所ヲ聞クニ制可權ヲ廢セヨ僧侶ヲ廢
 セヨ貴族ヲ廢セヨ又ハ巴理近傍ノ兵營ハ如何等ノ聲ハ再ヒ四方ヨリ
 起リテ已マス就中役夫屠者等ノ賤民ハ野鄙ナル言語ヲ以テ強テ是等
 ノ事ニ關セル公令ノ裁可ヲ要請シケレハ路易ハ色ヲ正フシテ之ニ答
 ヘテ今ハ是レ此要請ヲ爲ス可キノ時ニ非ス又其所ニ非スト告ケ且ツ
 凡ソ憲法ノ要スル所ハ朕盡ク之ヲ實施ス可シト説キケレハ暴徒等ハ
 頗ル不滿ノ色ヲ現ハシ國民萬歳ト連呼スルノ聲已マス路易モ亦之ニ
 應シテ洵ニ然リ國民萬歳朕ハ首トシテ其同志者トナランノ事ト告ケ
 シニ暴徒ノ一人ハ赤色帽ヲ槍頭ニ懸ケテ路易ノ頭上ニ出シ果シテ然

暴徒等ノ
 王ニ對シ
 テ此大不
 敬ヲ行フ
 ニ至ルヤ
 我邦ニ在
 リテハ匹
 夫匹婦モ
 此暴徒等
 ノ肉ヲ啜
 ハンコト
 欲スヘシ

此路之可也

ラハ請フ其虚實ヲ証明セヨト逼リタリ路易ハ心中此大不敬ノ舉動ヲ
 愠ホリタレモ危難眼前ニ逼リテ復々躊躇ス可キニ非ス唯隱忍シテ以
 テ暴徒ノ心ヲ安ンセントテ遂ニ之ヲ頭上ニ冠ムリケレハ歡呼ノ聲宮
 中ニ滿チタリシカ暴徒中酒ヲ被ムリテ昏醜セル一人ハ蹣跚トシテ路
 易ノ前ニ進ミ左手ニ盃ヲ把リテ右手ニ酒罍ヲ捧ケ頻ニ之ヲ傾ケツ
 ヲ乞フテ已マス路易ハ其或ハ毒酒タランコトヲ恐レテ直チニ之ヲ受ケ
 サリシカ終ニ意ヲ決シテ之ヲ一由ニ飲ミ盡シケレハ歡呼ノ聲亦大ニ
 起リタリ

按スルニ五六千人ノ暴徒等ハ皆手ニ各種ノ兵器ヲ執リ噉々狂呼シ
 テ將ニ宮殿ヲ犯サントスルニ當リテボナバルトハ觀衆ノ中ニ加ハ
 リテ之ヲ望見セシカ暴徒等ノ舉動斯ノ如キヲ視テ且ツ駭異シ且ツ

惡是レ如
何ナル狂
人ゾ
英雄ノ語
自ラ人ヲ
シテ絶快
ナラシム

憤慨シテ自ラ堪フル能ハサルカ如ク切齒扼腕シテ復ク一語ヲ發ス
ルコトヲ得サリシカ路易ノ暴徒ニ脅カサレテ遂ニ赤色帽ヲ冠ムル
ニ及ヒテハ復々其憤怒ノ情ヲ隱忍スル能ハス覺ヘス聲ヲ放チテ惡
是レ如何ナル狂人ソ渠等ヲシテ暴戻茲ニ至ラシムルハ果シテ何事
ソヤ若シ巨礮ヲ以テ一回ニ渠等四五百人ヲ擊掃シ之ヲ齧粉ニシテ
空中ニ飛進セシメハ殘黨皆星散ス可シト叫ビタリトソ
路易ノ妹エリサベスハ危難方ニ逼リタルヲ視テ路易ト其死生ヲ共ニ
センコトヲ欲シ始終相伴フタリシカ暴徒等之ヲ誤認シテ女皇ナリト爲
シ漫罵ノ聲頓ニ起リタリ是ヨリ先キ女皇ハ路易ノ安危ヲ痛愛シテ其
傍ニ到ランコトヲ欲シタレト暴徒等已ニ宮中ニ充滿シタルヲ以テ僅ニ
數人ノ王子ト共ニ離テ後宮ニ避ケタリシカ皇女ハ其傍ニ坐シ潛々涕

泣シテ已マス皇子ハ歳尙ホ幼ニノ事ヲ解セス自ラ赤色帽ヲ冠ムリテ
餘念ナク遊戯シ之ヲ女皇ニ交付シケレハ女皇モ之ヲ執リテ冠ムリタ
リト雖モ悲憤ノ情方ニ起リテ心胸寸裂セントス侍臣之ヲ視テ爲メニ
雙袖ヲ濕ホシタリ少頃アリテ國會議員等ハ宮中ノ暴行ヲ聞知シ巴理
府尹ペシヨント共ニ馳セ到リテ暴徒等ヲ鎮制シケレハ是ニ於テ諸人
モ異議ナク安穩ニ退散セシカ此暴動ハ實ニ六月廿日ノ午後ヨリ起リ
テ薄暮七時ニ熄ミタリトソ
是ニ於テ路易ハ女皇ト相會合シ其他ノ王族モ盡ク來リ集マリシカハ
相對シテ先ツ淚潜々タルノミ路易モ少頃ノ間ハ愁然トシテ愛傷シ赤
色帽ノ尙ホ頭上ニ在ルコトヲ覺ラサリシカ茲ニ至リ急ニ怒ヲ發メ之ヲ
脱却シタリ國會ノ議員ハ相更ハリテ宮中ニ到リケレハ女皇ハ逐一ニ

民主政治
ニ熱中シ
タル議員
ノ心志ハ
皆斯ノ如
シ

戸庭什器等ノ毀壞セシモノヲ指示シ頗ル人民等カ暴行ヲ憤恨スルモ
ノ、如シ適々民主政治ノ主義ヲ確持セル議員某ニ向ヒ「常ニ人民ノ康
福ヲ圖リテ怠ラサル國王ハ王族ト共ニ渠等カ凌辱ヲ被ムルヲ茲ニ至
レリ卿ハ能ク哀傷セサルヲ得ルカ」ト語りケレハ議員某之ニ答ヘテ
曰ク「洵ニ然リ臣ハ實ニ彼ノ狀貌豔麗心情順良ナル夫人ニノ一族ノ母
タル人ノ薄福ヲ悲メリト雖臣國王若クハ女皇ノ爲メニハ一滴ノ涙ヲ
モ流サハルナリ是レ臣カ常ニ國王及ヒ女皇ノ何人タルヲ問ハス之ヲ
愛敬セサルニ由ルノミ陛下請フ之ヲ諒セヨ」ト
翌日ニ至リテ朝官等ハ人民ノ暴動ヲ憤リテ已マス立憲黨ノ諸人モ亦
之ヲ以テ國法ヲ紊亂シ治安ヲ妨害シタルモノト爲シ甚シキニ至リテ
ハ此舉動ヲ以テ弑逆叛亂ヲ企テタルモノト論スルニ及ヘリ故ヲ以テ

民間ニ於テモ王族ノ凌辱ヲ被ムリタルコトヲ憤リテ專ラ彼ノ暴行ヲ
非難シ之カ首魁ヲ譴斥スルノ聲遠近ヨリ起リタリトソ此日ノ黄昏ニ
及ヒテ再ヒ暴徒ノ襲來セントノ説アリテ一時ハ戒嚴ヲ加フルニ至リ
シカ首魁等其非ヲ悟リテ諸人等ヲ制止シタルカ故ニヤ府下全ク鎮靜
スルニ至リケレハ府尹ベシヨンハ朝廷ニ到リ之ヲ路易ニ上申シタル
ニ路易ハ頗ル不滿ノ色ヲ現ハシテ曰ク「卿ノ説ク所ハ實事ニ非ス卿復
タ語ルヲ勿レ巴理ノ治安ハ卿カ頭腦ノ中ニ在リ朕ハ別ニ己レカ職務
ヲ知り當ニ之ヲ決行スヘシ卿モ亦去リテ其職務ヲ舉ケヨ」ト蓋シ路易
ハ性極メテ順良和易ナルニ似ス時トシテ不良ノ心情ヲ生スルヲアル
ニ由リ已ニ巴理府尹ト對話セシヨリ前日ノ暴動ヲ以テ其激峻ニ成ル
モノト想定シケレハ此説早クモ巴理府内ニ傳播シテ是ヨリ國王ト府

尹トノ間ニ自ラ相敵視スルノ勢ヲ生スルニ至レリ
 然レモ府尹ハ是時先ツ人民ニ專ラ安寧ヲ守リテ國王ヲ崇敬ス可キ
 ヲ命シ又國會ヲ尊重シ併セテ廣ク國民ノ尊重ヲ被ムラシメントテ要
 シ其他兵器ヲ執リテ集會スルコトハ國法ニ背クノ罪惡タルヲ以テ之ヲ
 嚴禁スルコトヲ告示シ畢竟不良ノ徒ニシテ騷亂ヲ激起スル者ト合
 躰ス可ラサルノ大意ヲ明ニシタリトソ是等ノ告諭ハ固ヨリ良民ノ堅
 ク遵奉スル所ナルヘシト雖モ朝廷ハ再ヒ人民ノ騷亂ヲ激起シ此機ニ
 乘シ巨敵ヲ以テ一時ニ之ヲ殲盡セントノ計畫アリトノ巷説紛々タリ
 シカハ都下ノ人心洶々トシテ皆亂ヲ思ハサルハナシ然ルニ路易ハ茲
 ニ至リテ斷然トシ自ラ説ヲ立テ、云ク彼ノ一群ノ暴徒カ兵力ヲ以テ
 禁闕ヲ犯スニ至リタルハ唯私黨ヲ結ヒタル諸人ノ爲メニ挑撥セラレ

此數語中
 自ラ多
 人ヲ冠
 難視スル
 ノ意ヲ含
 ミテ之ヲ
 復タ鎮撫
 スルノ志
 ヲ抱カサ
 ルカ如シ

タルニ由ルノミ此事タル唯一タヒ苦痛ヲ感シタルノ後ニ於テ佛國人
 民之ヲ覺ルニ至ルヘシ又國王カ私黨諸人ノ脅迫及ヒ凌辱ヲ隱忍ノ之
 ニ抗拒セサル所以モ豈他アラザヤ但國家永遠ノ康福ヲ知り且ツ愛ス
 ルノ深キニ由ルノミ惟フニ渠等ハ如何ナル極度ニ底止スヘキヤヲ知
 ル可ラスト雖モ其底止スル所ノ限界如何ニ拘ハラズ苟モ國王ノ自ラ
 國利民福ニ背馳セリト認定シタル事件ニ就キテハ決シ其同意ヲ得ル
 コト能ハサル可シ渠等若シ立君政体ヲ顛覆セント欲セハ必ス之カ爲メ
 ニ別ニ他ノ罪惡ヲ犯サ、ルコトヲ得ス之ヲ犯スト否ラサルトハ固ヨリ
 渠等ノ分内ニ在ルカ故ニ國王ハ毫モ之ニ管セス唯身體ト財産トノ安
 全ヲ保護センカ爲メニ行政官及ヒ地方官ト相合躰ノ力ヲ盡スヘシ云
 々

國王ノ意見斯ノ如キヲ以テ之ヲ聞知シテ全然望ミヲ將來ニ失フタル諸人ハ是ヨリ益々志ヲ一決シ心力ノ及フ所ヲ盡シテ之ニ抗拒センコトヲ欲シタリ又向キニ巴理府尹ノ公令ヲ聞キテ之ヲ守リタル諸人モ苟モ砲彈ヲ以テ一掃セラル、ニ至ラサル限りハ尙ホ力ヲ盡シテ回救ノ方策ヲ運ラサントヲ欲シ先ツ執政官ヲシテ國會ニ出席セシメ且ツ彼ノ兩要件ニ關シテ論決スル所アラントヲ企テタリ此要件ハ即チ第一僧侶等カ激成シタル教門上ノ紛亂第二巴理ノ安全ヲ圖リテ二萬人ヲ容ルヘキ兵營ヲ建築セントヲ企テ、國王ノ制可ヲ得サリシ等ノ事ナレハ各黨ノ諸人モ盡ク意見ヲ同フシ更ニ國王ニ對シテ請願書ヲ上ツルニ至リ其他數千人ノ調印ヲ以テ請願書ヲ上ツルモノ陸續トシテ絶ヘサリケレハ路易モ稍自ラ覺ル所アルカ如シ是時ニ當リテ立憲黨

ヲフエツトノ忠勇無比ナルハ千載ノ下ニ至ルマテ頑廉懦立ノ功アリト謂フヘシ

ノ諸人ハ十分力ヲ盡シテ回救ノ策ヲ建テントヲ欲シタリシカ就中ヲフエツトハ宮中ノ暴動ヲ聞キシヨリ憤慨ノ情自ラ已ムコト能ハス幕下ノ將士等モ同シク發憤シテ議論沸騰シケレハ斷然志ヲ決シテ親ヲ巴理ニ到ラントヲ欲シタレモ宿將老兵等ハ危難ノ身ニ及ハントヲ憂ヘテ皆之ヲ諫止シタリ然ルニラフエツトカ誠忠國ニ許シタルノ志ハ萬死固ヨリ辞スル所ニ非ス危難ヲ冒シテ其志ヲ成スコト却テ本懐トスル所ナレハ兵營ノ事務ヲ諸將ニ委任シテ單身巴理ニ赴キタルハ忠勇無比ノ舉動ト知ラレタリ

既ニシテ巴理ニ到リケレハ巷説嘖々トシテ諸人皆眼ヲ其言論舉動ニ留メサルハ莫キモラフエツトハ毫モ之ヲ意トセスシテ先ツ國會ニ出席セシニ右側ノ議員ハ之ヲ歡迎セシモ左側議員ハ皆之ヲ默視シタリ

ラフエツト
トカ三六
要件ノ請願

是ニ於テラフエツトハ自己カ巴理ニ到リタルノ本意ヲ陳ノ遂ニ左ノ諸件ヲ滿場ノ議員ニ請願シタリ(第一)六月廿日ノ暴動ヲ主唱セシ首魁ヲ處刑セサル可ラス(第二)一國ノ主權ヲ專握シ公會ニ於テ唯其姦謀陰圖ヲ成就セシトテ企テタル私黨ヲ撲滅ス可シ(第三)人民ヲノ官吏及ヒ議員等ヲ尊敬セシメ又外ニ在リテ血戰スルノ間ハ内ニ於テ憲法ノ毫モ毀害ヲ被ムラサルトテ兵士等ニ保証ス可シ以上三件ハ當今ノ急務タルトテ説キケレハ議長之ニ答ヘテ議員ハ會テ宣誓シタル國法ヲ確守セルトテ示シ且ツ其請願スル所ノ要件ハ必ス討論審査ヲ遂ク可シトノ意ヲ開告シタリ是ヨリラフエツトハ更ニ朝廷ニ到リテ國王ニ謁見ヲ請ヒシニ朝官等ハ往々之ニ對シ頗ル不敬ノ意ヲ示シ國王及ヒ女皇ニ至ルマテ復々之ヲ優待セサリシカハラフエツトハ毫モ之ヲ意ニ

ラフエツト
ト萬歲

○第拾五回

介セス但身ヲ抛ウチテ王事ニ勤勞スルノ人ヲ容レサル王族ノ末路ハ果シテ如何アルヘキソト痛愛自ラ己マスノ朝廷ヲ退キタリシカ路傍ハ諸人ハ之ニ逢フテラフエツト萬歲ト呼ハルノ聲遠近ニ絶ヘス

大厦ノ將ニ覆ラントスルヤ一木ノ能ク支フ所ニ非スラフエツトノ孤忠ハ天地ヲ動カシ鬼神ヲ泣カシムルモ闇主之ヲ察セサレハ復々之ヲ如何セン且ツ其主トシテカヲ盡ス所ハ當時方ニ至烈至盛ナル「ヂヤコピン」黨ヲ撲滅スルノ「ト」ニ在ルカ故ニ之カ爲メニ激徒ノ暴勢ヲ煽起シテ却テ王家ノ不利ヲ招クニ至リタルハ殊ニ惜ムヘキノ至リナラスヤラフエツトハ既ニ全ク國王ノ爲メニ疎斥セテ去ラリト雖モ尙ホ力ヲ盡シ之ヲ救護セン「ト」ヲ欲シ可及的ハ之ヲシテ安全ニ巴理ヲ去ラシメ

ンヲヲ圖リタリ因テ國會ニ復タ書ヲ呈シテ從來自ラ私黨ト呼ヒ爲シ
 タルモノヲ撲滅センヲ欲シカヲ極メテ之ヲ排撃セシカハ民權黨ノ
 諸人ハ是ニ於テ却テ益々朝廷ヲ攻撃ノ已マス其他國ノ兵力ヲ藉リテ
 國內ノ諸黨ヲ鎮服セントノ政略ヲ疑フテ抗拒ノ念日ヲ逐フテ愈々深
 カラントス路易及ヒ女皇ハ是時已ニ孛魯西ノ兵力ヲ藉ラントノ策ヲ
 定メ數千人ノ兵ハ國境ニ到レリトノ說中外ニ傳ハルニ至リケレハ二
 三地方ノ人民ハ巴理ト聯合シテ二萬人ヲ容ル可キ兵營ヲ其近地ニ設
 置シ未タ國王ノ制可ヲ經サルモ敢テ之ヲ實施シ以テ自衛ノ道ヲ立テ
 ケレハ各地方モ此例ヲ逐フニ至リ全國舉テ騷擾ノ端緒ヲ開キタル
 カ如シ

斯ノ如クシテ人民ハ皆兵力ヲ以テ自衛ノ道ヲ立テタリト雖トモ從來

各所ニ屯營セル軍隊ハ未タ盡ク人民ノ信任ス可キモノニ非ス殊ニ

校ノ如キハ位階愈々貴クシテ愈々其權力ヲ失ハサランコトヲ欲スル
 カ如シト雖トモ遽カニ盡ク之ヲ黜斥ス可キニ非ス因テ五萬人以上ノ
 住民アリ土地ニ屯在セル軍隊ノ將校ハ盡ク之ヲ改撰スルニ至リタリ
 此改撰ニ就キテハ國會中ノ右側議員ト朝官等ト共ニ異議ヲ狹ミタレ
 正終ニ之ヲ斷行セシカハ再撰ニ當リタル將校ハ盡ク民權黨ニシテ民
 主政治ノ主義ヲ抱カサル者莫ク人民ハ勢力ハ是ニ於テ頓ニ旺張スル
 ニ及ヘリ是時ニ當リテ孛魯西ノ兵四萬人其他埃斯利ノ兵隊等方ニ國
 境ニ近ツキケレハ朝廷ハ之ト謀リテ先ツ國王ノ制可權ヲ強固ニシ以
 テ立法官ノ權力ヲ壓倒セントシ其他人民ニ對シテ朝廷ノ威權ヲ擴張
 スヘキ將校等ヲ撰用シケレハ人民之ヲ聞キテ皆深ク危懼ノ念ヲ生セ

軍隊ノ將
 校概テ民
 權黨ニ至
 リテハ國
 勢重ナラ
 ソハ偏重
 ラサルヤ
 得ンヤ

國家ノ危
難方ニ逼
レリ

サルハ莫ク遠近到處ニ國家ノ危難方ニ逼レリトノ聲ヲ聞カサルハ莫シ然レモ各人カ此危難ノ原因ヲ歸スル所皆其意見ヲ異ニシ或ハ之ヲ以テ「ヂヤコピン」黨ノ馴致スル所ナリト爲シ或ハ之ヲ朝廷ニ歸シ禁闕行政權又ハ制可權等ノ異稱ヲ以テ紛々之ヲ非難シケレハ國會議員等ハ是ヨリ先キ急ニ十二名ノ委員ヲ特撰シ國難回救ノ方策ヲ講究セシメタリ

委員等ハ反覆審議ヲ盡シタル後國會ニ其方案ヲ報答シ若シ非常ノ危難己ニ逼ルニ至ラハ立法官ハ當ニ法式ニ據リテ國家ノ危難方ニ逼レリトノ公布ヲ全國ニ發行スヘントノ旨趣ヲ開告シタリ蓋シ斯ノ如キ公布ノ一タヒ發行セラレタル上ハ國會ハ固ヨリ官廳ノ首位ニ立チ各地方大小ノ議會及ヒ官廳等モ皆永久不易ニシテ始終集會セサルコト

ヲ得ス且ツ人民中苟モ兵器ヲ所有スル者ハ盡ク之ヲ官廳ニ納附シテ應分ノ本務ヲ盡シ之ヲ怠ル者ハ嚴罰ニ處セラレヘク諸人長幼ニ論ナク兵役ニ堪ユル者ハ盡ク軍籍ニ上ラサル可ラス其他糧餉器仗及ヒ旗幟等モ新ニ之ヲ準備調製シテ全ク叛亂ノ形狀ヲ示サ、ル可ラス又全國ノ人民ハ皆隨意ニ兵器ヲ執リテ自ラ防衛シ何等ノ土地ト時期トヲ問ハス自在ニ集會討論シ且ツ戰鬪攻伐スルヲ得テ復タ現時政府ノ必要ヲ感セサルノミナラス其無用ナルカ故ヲ以テ之ヲ改革センコトヲ是レ勉ムルニ至ルヤ必セリ斯ル人民各所ニ群ヲ成シテ蜂起スルニ至ラハ必ス規律ヲ立テ、之ヲ統制セサル可ラス萬一人民等大事ヲ誤マルニ至レハ國會ハ復タ是等ノ人民ニ對シテ功業ノ大成ヲ期スルコト能ハサル可シ此公布發行ノ影響ハ斯ノ如クニシテ議員諸人ノ容易

ニ豫想シ得ル所ナリシカハ委員ノ方案ニ對シテ滿場ノ發議ハ紛々ト
 ノ涌キ起リ何時果ツヘクトモ見ヘサリケリ
 時勢ノ危急ナルコト茲ニ至リタリト雖モ議員中ニハ尙ホ穩當順正ノ
 持論ヲ主張シ若クハ專ラ朝廷ニ加擔シテ王權ノ強大ナランコトヲ希望
 セル者アリシカハ他ノ激烈躁急ナル議員等ハガヲ極メテ當時ノ國情
 ヲ詳説シ奪發興起以テ自由ノ額瀾ヲ將ニ倒レントスルニ挽回セサル
 可ラサルコトヲ痛論シタリ就中ベルギーヨ一ノ如キハ懸河ノ雄辯ヲ揮
 フテ議員等カ尙ホ志氣ヲ一定セサルモノヲ提醒センコトヲ欲シ堂々
 數千言ノ論辯ヲ盡シ請フ平心坦懷ヲ以テ予カ言論ヲ聽取セヨ予ニ將
 ニ説カントスル所ヲ急疎ニ概想スルコト勿レト呼ハリテ先ツ滿場ノ
 注意ヲ喚起シ來リ而後説キ出シテ云ク夫レ歐洲數國カ吾人ニ對シテ

兵ヲ動カスニ至リタル所以ノモノハ何ソヤ我國王ノ名ヲ以テ之ヲ勝
 起シタル也ホンガリイホヘミア及ヒ李魯西ノ軍隊カ我國境ヲ侵シテ
 吾人ト戰端ヲ開カントスルニ至リタルハ唯國王ヲ救護セント欲スル
 ニ由ル而已予ハ今憲法ノ明文ヲ朗讀センニ若シ國王自ラ軍ヲ帥井テ
 國民ニ抗拒スルコトアルカ或ハ國王ノ名義ヲ以テ之ヲ實施ス可キ事業
 ニ就キ式ニ依リタル舉動ヲ以テ之ヲ反對セサル時ハ國王ヲ以テ當ニ
 其王權ヲ棄却シタル者ト看做スヘシトアリ然ルニ今國王カ式ニ依リ
 タル反對ノ舉動ハ果シテ如何云々ト斯ノ如ク總テ公平精確ノ意見ヲ
 執リテ毫モ動カサリシカハ議員諸人モ往々之ニ對シテ十分ニ異議ヲ
 陳スルコトヲ得ス演壇ヲ下ルニ及ヒテハ數百ノ聽衆ハ聲ヲ放チテ之ヲ
 贊稱シ皆其傍ニ群集シタリトソ

其平生養
フ所ノ素
アルコト
ヲ知ルニ
足レリ

按スルニベルギーヨ一ハ性疎懶ニシテ他ノ刺戟ヲ假リ便チ能ク志
氣ヲ激昂スル人ナリト雖モ其一旦發憤シテ意見ヲ立ツルニ至リテ
ハ飛辯豪談混々トシテ源泉ノ盆涌スルカ如ク尤モ其眞實強剛透徹
等ノ氣象ニ富々コトヲ以テ稱セラレタリ路易カ處刑ノ宣告ヲ受ク
ル時ニハ審官ノ列ニ加ハリテ死刑ノ發議ヲ爲シタレモ其後形勢一
變セシヨリギロンダン黨員タルノ故ヲ以テ亦死刑ニ處セラレタリ
刑ニ就クハ前夜ニハ從容トシテ友人ト共ニ革命及ヒ政治上ノ事ヲ
論談シテ毫モ悲傷ノ態ナシローランド夫人ハ曾テ其人ト爲リヲ評
シテ云クベルギーヨ一ハ平素簡傲ニシテ人ト事ヲ謀リ其力ヲ竭サ
ス國事ニ熱心ナル者若クハ事業ニ耐忍スル者ニ對シテモ之カ爲メ
其才智ヲ展フルコトヲ吝ミタルカ故ニ予ハ之ヲ好マスト其他人ノ

後世辯士
ノ鑑ニ
供スヘシ

親愛ヲ得サルコト斯ノ如シト雖モ公會ニ於テ演說スル所アルニ當
リテハ必ス先ツ十分心ヲ用井テ豫メ論旨及ヒ語法等ヲ鍊磨シタル
ヲ以テ人皆之ヲ聞キテ激動セサルハ莫ク英名ハ遠近ニ傳ハリタリ
トワ
斯ノ如ク滿胸ノ持論ヲ陳述シ盡シタル後國王ニ對シテ更ニ奏議スル
所アリ務メテ其議論ヲ精確ニシテ文辭ニ恭敬ヲ盡シ國王ヲシテ他國
ノ兵士ト内國ノ人民ト孰レカ尤モ頼ム可キカヲ察セシメ且ツ佛國人
民ハ憲法ト存亡榮辱ヲ同フセンコトヲ決セリトノヲ知ラシメントノ
意見ヲ立テタリ蓋シ王位ノ廢立ニ就キテハ全國人民皆自ラ其意見ヲ
抱キタリト雖モ之ヲ初メテ公會ノ言論ニ發シタルハ唯ベルギーヨ一
アルノミ然ルニ其說ク所ハ盡ク虛構假想ノ法ニ從ヒ言語ノ如キモ當

時一般ニ行ハル、所ニ比シテハ頗ル恭敬謹慎ノ意ヲ用井タルカ故ニ却テ聽衆ノ感動ヲ惹キタリトソ是ヨリ他ノ議員等モ此說ニ對シテ可否交々錯雜シタルノ後終ニ十二名ノ委員ヲ撰ミテ奏議ノ起稿ヲ任セシメ更ニ本案ニ就キテ國家ノ危難方ニ逼レリトノ公令ヲ議シ國王ノ制可ヲ經テ之ヲ發行スヘキカ又ハ之ヲ要セサルカノ要項ニ關シ一場ノ議論ヲ生シタレト到底其制可ヲ要セストノ發議多數ヲ占メタルノ勢アリトソ

當時執政官ヨリ國會ニ報告セシ所ニ據レハ歐洲諸國ノ佛國ニ對シテ敵意ヲ表シ移住貴族ヲ保護センコトヲ欲シタルモノ鮮カラヌ埃斯利及ヒ李魯西ハ已ニ公然トシテ兵ヲ出シ露西亞モ隱然トシテ之ニ同意シ瑞典ハ未タ其方向ヲ決定セス匈株ハ局外中立ヲ主トシ伊太利ハ稍心

國會初メ
テ戒嚴ノ
公令ヲ發
行ス

心ヲ敵對ニ傾ケタルモノ、如ク西班牙ハ他國ノ内亂ニ關涉スルコトヲ欲セサルカ如ク英吉利ハ確乎トシテ局外中立ヲ執リ米國ハ一意ニ兵ヲ出サンコトヲ望ミタレト人口稠密ナラスシテ海洋ヲ臨テタルノ故ヲ以テ其意ヲ果スト能ハス斯ノ如ク内外ノ形勢已ニ定マリケレハ國會ハ是ニ於テ彼ノ戒嚴ノ公令ヲ發布センコトヲ決定シ更ニ之ヲ朗讀シタルニ議員肅然トシテ少頃ノ間ハ一語ヲ發スル者ナク滿場但慘澹タル景象ヲ現出シタルノミ因テ議長ハ起立シ式ニ據リテ自ラ戒嚴ノ公令ヲ宣言シ人民ヨリ國家ハ危難ハ方ニ逼レリト呼ハリタリ此公令一タヒ發行セシヨリ國會ハ永久其集議ヲ繼續スヘキコトヲ公布シ各地ノ都府ニハ頻リニ警砲ヲ發スルノ聲已マス地方議會モ其集議ヲ永續スヘキコトヲ常備兵ハ盡ク戒嚴シテ進軍ノ令ヲ待チ且ツ各地方官ハ

漸ニ公會場ヲ設ケテ遠近ヨリ義勇兵ノ來集スルヲ待チ一々其姓名ヲ
登録シタリシカ一日間ニ一萬五千人ノ精兵ヲ得ルニ及ヒタリトソ
按スルニ此戒嚴令ハ委員ヨリ各地方ニ發布シ以テ民心ヲ提醒シケ
レハ都府ノ内ニハ必ス警砲ヲ連發シテ國家ノ爲メニ身ヲ致シカヲ
盡スノ諸人ヲ喚起シタリ且ツ來集ノ諸人中小銃ヲ有セサル者ニハ
一條ノ槍ヲ交付シ已ニ隊伍ヲ編制シタル義勇兵ノ聯隊ハ十字街頭
ニ屯營シテ人民ヨ國家ノ危難方ニ逼レリト大書シタル軍旗ヲ樹テ
ケレハ之カ爲メニ國民カ革命ノ精神ヲ激發シタルコト極メテ甚シ
ク各地方ニ於テハ其官廳ヲ蔑視シテ自ラ隨意ニ兵營ヲ設クルニ至
リ彼ノ王家ヲ覆滅セル革命ノ大亂ハ是ニ至リテ初メテ其端ヲ開キ
タリトソ

是ヨリ先キベルギーローカ假想ノ議論ヲ以テ王位廢絶ノ事ヲ説キ又
人民ノ心中ニモ竊ニ此意見ヲ懷抱シ苟モ佛國ノ危難ヲ免カレント欲
スレハ唯國王ヲシテ其位ヲ去ラシムルニ在ルノミト想定シタレモ未
タ之ヲ公言スルコトヲ敢テセス然ルニ此ニ至リテ議員中ニモベルギー
ヨロカ發議ヲ實施センコトヲ希望スル者アリ人民モ亦之ヲ贊成スル者
多クノ各地方ヨリ請願書ヲ國會ニ呈附スル者日ニ絶ヘス皆輿論ノ勢
カヲ假リテ此大事ヲ實行センコトヲ切望シタリ就中マルセイユルノ有志
者ハ元來激烈暴戾ノ言論ヲ首唱スル者ナリシカ是時亦請願書ヲ出シ
テ先ツ斷然當時ノ王統ヲ廢絶シ之ニ代フルニ撰立ノ國王ヲ以テシテ
之ニ制可權ヲ與ヘス猶ホ共和政府ニ於ケル行政官ノ如キ者ヲ立テン
トハ意見ヲ主張シタリ此請願書ノ議案ト爲ルヤ議員中可否ノ論交錯

マルセイ
ル人民ノ
請願要旨

シテ起リタレハ到底之ヲ是認シタル者多キカ如ク但此論ノ憲法ニ抵
 觸スル所アルヲ以テ更ニ十二名ノ委員ヲ撰ミテ之カ審議ヲ遂ケシメ
 ントス。
 國會ノ輿論ハ已ニ此極度ニ達シケレハ朝廷ハ之カ爲メニ震動シ又公
 正ナル愛國家諸人モ之ヲ痛愛シ已マズ是ヨリ先キ路易ハ彼ノ宮掖ノ
 暴行ヲ以テ弒逆ヲ企テタルノ舉動ナリト爲シ且ツ民間ノ議論茲ニ至
 ルハ唯己レカ一身ニ害ヲ加ヘント欲スルニ外ナラスト断定シケレハ
 先ツ宮中ニ於テ毒殺ノ害ヲ免レンコヲ欲シ王族ノ食膳ハ女皇ノ最モ
 信任セル宮人ヲ之ヲ宮中ノ官局内ニ調理セシメタリ又女皇ハ同盟
 週期ノ會期近キニ在レハ國王之ニ臨御セサルヲ得ス此際或ハ匕首ヲ
 以テ暗撃ヲ企ツル者アラントヲ恐レ國王ノ胸都ニ著クハキ衷甲ヲ新

路易自
 其運命ヲ
 豫知シタ
 ルカ如シ

知リ唯公然タル審理上ヨリ其罪犯ヲ断定セラレテ害ヲ受クルニト猶
 ホ彼ノ英國王查禮斯一世カ如クナラントヲ恐レタリトソ
 ラフエツトハ已ニ朝廷ノ爲メニ疎斥セラレタリト雖且其誠忠君ヲ愛
 スルノ熱情ハ毫モ之カ爲メニ衰ヘス一死以テ力ノ在ル所ヲ竭シ路易
 ヲ救護センコトヲ決シタリ因テ先ツ路易ヲシテ安全ニ巴理ヲ逃脫セ
 シメンコトヲ圖リ腹心ノ將校ルツクチルトカヲ協セ同盟週歲ノ會期ニ
 當リ其會同ヲ要スルノ口實ヲ以テ路易カ兩人ヲ巴理ニ召還センコト
 ヲ要シ會期ノ當日ニハ兩人共ニ路易ヲ護衛シテ暴徒ノ害ヲ豫防シ當
 日ノ儀式已ニ終ラハ別ニ口實ヲ設ケテ公然巴理ヲ去ル可シ此際若シ
 之ヲ抑留スル者アルモ腹心ノ將士十五騎ヲ以テ之ヲ護衛シテ脱走ス

猜疑ノ念
一タヒ生
スレハ同
胞モ難敵
ノ如シ況
ヤ君臣ノ
間ヲヤ路
易カ此答
語ハ唯此
一ハ念ヨ
根因シタ
ルノミ

レハ直チニ路易ヲ其軍營内ニ迎へ入ル、コト難カラス此策已ニ成レ
ハ自ラ路易ヲ擁護シテ恢復ノ業ヲ企ツルコト唯己レカ一片忠愛ノ熱
情ニ在ルノミ萬一不幸ニシテ此策全ク成ラサレハ自ラ其全軍ヲ帥
テ直チニ巴理ヲ擣キ暴徒等ヲ撃破ノ國王ノ安全ヲ圖ラントノ意見ヲ
立テタリ然ルニラフエツトノ忠勇無雙ナル能ク此大事ヲ行フニ勝エ
タリト雖モ孱弱ナル路易ハ之ニ當ルニ足ラス且ツ女皇カ嘗テラフエ
ツトヲ猜疑セシヲ以テ其救護ニ依ラサルヘキコト路易ニ勸メタルニ
ヤ路易ハ復タラフエツトノ請フ所ヲ容レスノ極メテ冷淡ナル答語ヲ
下シタリ今其一斑ヲ舉クレハ「ラフエツトニ與ヘテ最モ其身ニ益アル
ヘキ規誨ハ常ニ徒黨ノ爲メニ一俸ノカヲ盡シ以テ能ク將軍タルノ職
務ヲ盡スヘシト云フニアル、ハ、ミ、ト

○第拾六回

同盟誓約二週歳ノ大期方ニ近キニ在リケレハ國會ハ此期日ニ先チテ
路易カ親ヲ各地方人民カ議決セシ諸件ニ可否ノ意見ヲ公示セシコト
ヲ欲シ日ニ之ヲ要請シタリ路易ハ本來之ヲ可否スルノ責任ヲ國會ニ
委子テ己レハ之ヲ免レント欲シタレトモ己ムコトヲ得ス期日ニ先ツ
コト二日ニシテ終ニ地方人民カ議決セシ諸件ノ廢停ヲ命シケレハ爲
メニ民心ヲ激動シタルコト極メテ大ナリ既ニシテ千七百九十二年七
月十四日トナリケレハ例ニ依リテ誓約式ヲ執行スルノ當日ナレモ是
時一般ノ景象ヲ視テ之ヲ千七百九十年ノ當日ニ比較スレハ僅ニ二週
年ヲ隔テタレモ其時勢ハ變遷シタルコトハ果シテ幾許ナルヤヲ知ル可
ラス月卿雲客ノ朱ヲ曳キ紫ヲ纏フテ曾テ四方ヨリ來集セシモノ今安

政治世界
事物ノ變
遷ハ常ニ
斯ノ如シ

クニ在ルヤ數百萬ノ觀衆ハ踊躍抃舞シテ佳辰ヲ祝シ盛典ヲ慶シタル者復タ之ヲ觀ルヲ得サルナリ眼ヲ舉ケテ會場ノ光景ヲ看來レハ百事全ク一變シ人民ハ互ニ相憎怨シテ殆ント戰亂ヲ潰裂セントスルノ徵候ヲ現ハシ滿場八拾三所ノ幕舎ハ各地方人民ノ休憩場ニシテ其舎頭ヨリハ各々三色ノ旗幟ヲ翻ヘシ他ノ二大幕舎ハ國王國會議員及ヒ巴理府廳官吏ノ休息所ト爲シタレハ佛國一般ノ人民ハ宛モ敵國ト對陣シテ屯營セルモノ、如シ又曾テ誓約ニ供用シタル大机臺ハ初回ノ會期以來永ク鍊兵場ニ曝露セシヲ以テ盡ク毀壞シタリシカ其傍ニハ曾テ國境ニ於テ他國ノ兵ト戰フテ命ヲ致シ又此戰爭ニ於テ將ニ死セントスル諸人ノ爲メニ紀念碑ヲ建テ他ノ一方ニハ一大樹ヲ植テ、之ヲ封建樹ト名ツケ其枝頭ニハ王侯貴族及ヒ僧侶等カ曾テ服用セシ冠

冕裝飾爵號及ヒ器具等ヲ懸ケ當日國王ヲシテ之ニ火ヲ點シテ燧キ業テシメントノ趣向ヲ立テタリ
 既ニシテ當日ノ正午トナリケレハ路易ハ徐々進ミテ式場ニ臨ミ神色殊ニ從容タリ女皇ハ自ラ愁悶ノ情ヲ掩ハント欲スレトモ掩フコト能ハス王族等モ盡ク路易ニ隨フテ場内ニ入りケレハ奇モ情感アル者ハ之ヲ觀テ潛然涙ヲ流サ、ルハ莫シ是ヨリ儀仗ノ諸人ハ盡ク場内ニ入りケレハ極メテ曠濶ナル鍊兵場モ殆ント充滿シテ餘地ヲ殘サス觀衆ハ雲霞ノ如ク集マリ湫隘喧騰ノ復々制ス可ラス路易ハ棧臺ノ上ニ座ヲ占メタリシカ男女兒童混合シ極メテ爛醉セル一群ノ暴徒ハ棧臺ノ下ヲ過キル時永クベシヨシヲ黜クルヲ勿レ、ベシヨシナクンハ死センノミト呼ハリテ此數語ヲ各人ノ帽子ニ記シ以テ其志望ヲ表明シタリ次

ニ諸軍隊ヨリ文吏ノ官吏及ヒ國會議員等盡ク參場シケレハ路易モ恭シク當日ノ誓約儀式ヲ畢リタルヲ以テ王族等モ稍心ヲ安ンシタルモ、如シ然ルニ人民等ハ誓約式ノ終ハルヲ見テ直チニ國王カ單身ニシテ彼ノ封建樹ヲ燬キ棄テンヲ要請メ已マサリシカハ路易ハ辭色自若トメ之ヲ慰諭シ目今己ニ封建制度ノ跡ヲ絶チタレハ此要請ハ無用ナルヘシト説キテ終ニ式場ヨリ退キケレハ兵士等ハ無難ニ當日ノ式ヲ畢リタルヲ慶ヒテ國王萬歳ト唱フルノ聲起リタレハ人民ハ茲ニ至リテ復タ此語ヲ發スル者ナシ是ニ於テ路易ハ安全ニ宮中ニ還ルコトヲ得テ豫想セシ所ノ危難ヲ逃レ殆ント虎口ヲ脱シタルノ思アリシモ當日ノ景象ヲ目撃セシヨリ深ク國情ノ一變シタルコトニ駭キテ益々自ラ警戒ヲ加フルニ至レリ

按スルニ當日國王カ初メテ會場ニ臨ミタル時ニハ觀衆中苟モ思慮

アル者ハ深ク佛國當時ノ形勢ヲ察シテ殆ント悲酸ノ情ニ堪ヘサリシトソ路易ハ古代ノ官服ヲ著ケテ風姿殊ニ質素ナルカ如ク途上暴徒等カ凌辱ヲ避ケンテ精悍ナル護衛兵之ヲ圍繞シ路ヲ紆回シテ會場ニ入りタリシカ己ニ高臺ニ上リテ儀式ヲ行フタル時ニハ觀衆之ヲ以テ宛モ神前ニ供シタル犧牲ト爲スカ如キ念ヲ生シタリ女皇ハ之ヲ觀テ殆ント悶絶シタレハ王子等ハ獨リ自ラ國王萬歳トノ語ヲ呼ハリシトソ蓋シ路易ハ是時一タヒ公衆ノ前ニ出テシヨリ他日斷頭臺ニ上ルニ至ルマテハ復タ公衆ト相見ルヲ能ハス哀シイカナ是時ニ當リテ國境ヨリ急報ノ巴理ニ達スルモノ櫛ノ齒ヲ挽クカ如ク填字諸國ノ兵ハ佛國ノ王族及ヒ移住貴族等カ爲メニ國中ニ侵襲セン

兵馬ノ大
權全ク國
會ニ屬シ
テ王室ノ
勢終ニ孤
ナリ佛國
ノ王威ハ
已ニ茲ニ
於テ廢滅
セリト云
フヘキノ
ミ

トスルノ勢ハ方ニ迫リケレハ國會ハ益々力ヲ盡シテ義勇兵ヲ四方ヨ
リ招募シ且ツ朝廷ニ隸屬シタル諸軍隊ヲ解キテ新ニ隊伍ヲ編製シ之
カ總督ノ大權ヲ收攬シテ内外ノ讎敵ニ備ヘンコトヲ決シケレハ兵馬
ノ大權ハ是ニ至リテ復々國王ノ掌握ニ屬セサルニ至レリ路易之ヲ聞
キテ其處置ノ悖戾ナルコトヲ憤ホリ斷然制可權ヲ以テ之ヲ廢絶セン
コトヲ欲シタルハ憐ム可シ時勢茲ニ及ヒテハ復々之ヲ決行スルノ實
力ナク本分ハ王權ハ全ク地ニ墜チタルモノ、如シ國會已ニ此處置ヲ
斷行スルニ至リケレハ爾後國內ニ行ハル、諸般ノ處決請願及ヒ冒論
等ハ盡ク速ニ革命亂ヲ潰裂セントノ兆候ヲ現出セサルハ莫シ當時民
間ニ頤角ヲ顯ハシタル「ギロンヂン黨」ハ固ヨリ此亂ノ避ク可ラサルヲ
前知シテ且ツ之ヲ熱望シタリト雖モ未タ判然トシテ之ニ處スルノ手

國難方ニ
眼前ニ迫
リテ志士
ト人民ト
ノ結合未
タ親密ナ
ラサルハ
果シテ何
故ナルカ
下文ヲ讀
ミテ之ヲ
審ニスル
コトヲ得
謀叛委員

段ヲ決定スルヲ得ス姑ク時勢ヲ觀望スルモノ、如クナリシカハ人
民ハ皆口ヲ極メテ其優柔無爲ナルコトヲ非難シ時變ニ應シテ活潑タ
ル舉動ヲ爲スヲ能ハサル者ナリト稱スルニ至レリ蓋シ政黨政社ヲ諸
領袖ハ是ヨリ先キ驟然奮起シテ激論雄辯ノ力ヲ竭シ以テ諸人カ協同
合躰ノ方向ヲ決シ衆力ヲ聚メテ活潑勇壯ナル舉動ヲ勉メンコトヲ戒
告シタルコト幾百回ナルヲ知ラスト雖モ尙ホ十分ニ其實績ヲ收ムル
コトヲ得ス然ルニ人民ハ空シク嗷々トシテ志士ヲ非難スルニ至ルハ
蓋シ志士ト人民トハ結合未タ親密ナラサルニ由ル可シ
「ヂャコピン黨」中ノ諸人ハ銃意激勵以テ速ニ大事ヲ決行センコトヲ欲
シケレハ黨中ニテ議定セル諸件ヲ隱密ニ實行シ且ツ強固ナランコト
ヲ要シテ五名ノ主任者ヲ撰舉シ之ヲ謀叛委員ト名ツケテ要務ヲ擔當

セシメタリ此委員ハ皆黨中ヨリ精選シタル者ニシテ概テ新聞記者若クハ武官等ヲ以テ之ヲ構成シ其間ニ在リテ最モ勢力ヲ振ケタル者ハマニウルカミールデスモリン及ヒダントン等ナリトス此諸人ハバルパロート相約シテマルセイノ人民ヲ誘致シ又巴理府尹ペシヨント相結納シテ其叛亂ヲ妨害セサルヘキヲ約シ且ツ之ヲ報酬トシテベシヨシカ邸宅ヲ保護シテ亂民ノ害ヲ防ク可キヲ承諾シタリ斯ノ如クシテ内外ノ畫策已ニ成リケレハ一舉シテ宮中ニ亂入シ直ニ國王ヲ廢センコトヲ欲シタレヒ之ヲ舉行スルニハ必ス非常ノ事ヲ以テ先ツ人民ヲ煽動セサルコトヲ得サルカ故ニ黨議紛々トシテ方ニ之ヲ討論シタリ

按スルニカミールデスモリンハ天稟ノ才智衆ニ超出シタルヲ以テ

深ク教育ヲ被ムラスト雖モ大ニ推想ガニ富ミタリ其口辯ハ溢シタ

リト雖モ善ク亂民ノ志氣ヲ激動スルニ足リ其言語ノ極メテ暴烈ナルヲ以テ間諺諺ヲ加ヘサルモ頗ル聽者ヲ感發スルニ至レリ性極メテ放蕩嬉逸ニ耽リテ百般ノ遊戲一トノ之ヲ好マサルハ莫シロベスピイルト交リテ心誠ニ其人ト爲リニ服シケレハロベスピイルモ亦深ク之ヲ親愛セリトソ

當時國會議員中ノ志士ハ人民カ善ク一致合夥セサルコトヲ非難シタリト雖モ人民ハ却リテ議員等カ各自ニ孤立スルコトヲ論斥シ到底結合夥ヲ統率スヘキ首領ヲ缺キタルヲ以テ適當ノ首領ヲ得ンコトヲ欲スルノ論ハ到處ニ藉々タリ然ルニ議員中ニ於テハ其人物概テ伯仲セサル者多クシテ拔群ノ英材ヲ發見スル能ハス且ツ其人多クハ學士社

一個ノ辯士ハ能ク

セシメタリ此委員ハ皆黨中ヨリ精選シタル者ニシテ概テ新聞記者若クハ武官等ヲ以テ之ヲ構成シ其間ニ在リテ最モ勢力ヲ振ケタル者ハマニウルカミールデスモリン及ヒダントン等ナリトス此諸人ハバルバロート相約シテマルセイノ人民ヲ誘致シ又巴理府尹ペシヨント相結納シテ其叛亂ヲ妨害セサルヘキヲ約シ且ツ之カ報酬トシテペシヨンカ邸宅ヲ保護シテ亂民ノ害ヲ防ク可キヲ承諾シタリ斯ノ如クシテ内外ノ畫策已ニ成リタレハ一舉シテ宮中ニ亂入シ直ニ國王ヲ廢センコトヲ欲シタレト之ヲ舉行スルニハ必ス非常ノ事ヲ以テ先ツ人民ヲ煽動セサルイヲ得サルカ故ニ黨議紛々トシテ方ニ之ヲ討論シタリ

按スルニカミールデスモリンハ天稟ノ才智衆ニ超出シタルヲ以テ

深ク教育ヲ被ムラスト雖モ大ニ推想力ニ富ミタリ其口辯ハ澁訥ナリト雖モ善ク亂民ノ志氣ヲ激動スルニ足リ其言語ノ極メテ暴烈ナルヲ以テ間諺諺ヲ加ヘサルモ頗ル聽者ヲ感發スルニ至レリ性極メテ放蕩嬉逸ニ耽リテ百般ノ遊戲一トソ之ヲ好マサルハ莫シロベスピイルト交リテ心誠ニ其人ト爲リニ服シケレハロベスピイルモ亦深ク之ヲ親愛セリトソ

當時國會議員中ノ志士ハ人民カ善ク一致合躰セサルコトヲ非難シタリト雖モ人民ハ却リテ議員等カ各自ニ孤立スルコトヲ論斥シ到底結合躰ヲ統率スヘキ首領ヲ缺キタルヲ以テ適當ノ首領ヲ得ンコトヲ欲スルノ論ハ到處ニ藉々タリ然ルニ議員中ニ於テハ其人物概テ伯仲セサル者多クシテ拔群ノ英材ヲ發見スル能ハス且ツ其人多クハ學士社

一個ノ辯士ハ能ク

大事ヲ成
スニ足ラ
ス一般人
民ト地位
相懸絶ス
ルモノモ
亦然リ豈
後世ノ般
鑑ニ非ス
ヤ

冷腸寡慾
ニシテ匹
夫ノ勇ヲ
尙フノ政
治家ハ是
レ眞成ノ
政治家ト
爲ルニ足
ラス

會ヨリ起リタルヲ以テ謀叛人ト稱センヨリハ寧ロ唯一個ノ辯士タル
ニ過キス且ツ其生計ノ度ハ極メテ高ク共ニ事業ヲ經畫スヘキ一般人
民ノ地位ト頗ル相懸絶スルヲ以テ未タ親密ノ結合ヲ爲スコトヲ得スロ
ーランドセルパン等ノ諸名士ハ其智勇餘リアリト雖田人民ノ地位ニ
對シテ其品格ノ餘リニ高貴ナルヲ以テ終ニ相合夥協力スルコトヲ得サ
リシトソ府尹ペシヨンノ如キハ其職務上ヨリ常ニ人民ト相親和シ易
キモノナリト雖田其志情本ト冷澹ニシテ慾炎ヲ闕キ事業ヲ大成セン
ヨリハ寧ロ唯一死ヲ惜マサルノ人ナルカ故ニ未タ十分ニ人民ノ望ミ
ヲ繋クニ足ラス是ニ於テ人民ハ頻リニ其首領ヲ要スルノ情切ナリト
雖田其同類中ヨリ之ヲ推立スレハ統御ノ勢力ヲ有セサルヲ以テ之ヲ
好マス故ニ是際若シ他類ノ人アリテ首領ノ地位ニ立チ飽クマテ暴激

新聞記者
ニノ雷名

ナル民心ヲ挑撥スルノ資質ヲ有シタランニハ手ニ懸シテ大功ヲ收ム
可キ勢アルカ如シ
時勢茲ニ至リテハ政黨政社及ヒ革命ヲ希圖スル新聞雜誌ノ專業ト言
論トハ靡然トシテ其戰場ヲ洞開シタルヲ以テ苟モ志氣アル諸人ハ爭
フテ顯著ナル聲望ヲ收メンコトヲ欲シタレトモ何人モ未タ出類拔萃ノ
功名ヲ顯ハシタル者アラスカミールテスモリンノ如キハ氣力強健精
神活潑ニシテ果敢ノ膽氣アリ殊ニ革命ノ事業ニ就キテ躊躇スルカ如
キ者アレハ直チニ之ヲ排撃シテ餘力ヲ遺サ、ルヲ以テ廣ク下流社會
ニ其名ヲ轟カシタリト雖田元來雄辯家タルノ資質ヲ具ヘス又一黨ノ
領袖ト爲リテ士氣ヲ鼓舞獎勵スルノ勢力ヲ有セサルニ由リ未タ其任
ニ當ルニ足ラス是際新聞記者ニシテ大ニ雷名ヲ一世ニ轟カシタル壯

ヲ稱カシ
タル壯士
マラー

士アリ其名ヲマラート云フマラー風ニ人民ノ友ト名ツケタル綽號ヲ
得テ廣ク世人ニ知ラレ其曾テ殘殺屠戮ヲ教唆シタルノ言論ヲ發行シ
タルヲ以テ苟モ優柔苟且ノ議論ヲ唱フル者ハ何人ヲ問ハス皆其名ヲ
聞キテ畏怖ノ念ヲ起サ、ルハ莫シ幼時深ク心ヲ窮理學ニ潛メテ又醫
學ヲ講習シ卓然一家ノ新說ヲ立テ、從來堅定セル諸論ヲ駁撃シ心智
ノ活潑ナルハ人皆之ヲ驚異セサルモノナシ革命亂ノ方ニ起ルヤ醫師
ト爲リテ職業ヲ營ミシカ一朝驟然刀圭ヲ抛チテ身ヲ政治世界ニ委子
諸黨ノ間ニ馳騁セシヨリ幾クナラスシテ自己ノ黨中ニ其名ヲ知ラル
、ニ至レリ其軀幹ハ極メテ高カラサレテ頭顱頗ルニシテ勇氣顔面
ニ溢レ爛々タル眼光ハ人ヲ射テ容貌魁偉ナル一男子ナリ殊ニ平素毫
モ其態度ヲ修飾スルヲ莫ケレハ人一見シテ之ヲ畏懼セサルモノアラ

此氣象ト
勇斷トヲ
以テ革命
ノ大事ヲ
成シタル
ノミ

マラートノ
性質及ヒ

ス居常人ニ語リテ曰ク「苟モ自由ハ發達ヲ障礙セル貴族等諸人ハ盡ク
之ヲ殲滅シ數千ハ首級ヲ斬馘セサル可ラス是レ實ニ現時ノ急務ナリ
ト其持論斯ノ如キヲ以テ當時自由ノ爲メニ狂奔喧嘩セル人民等ハ翕
然脚下ニ雲集シ争フテ其教誨ヲ奉セン」ヲ欲セサルハ莫シマラーモ
已ニ稍學識經驗アルヲ以テ是等ノ人民ヲ駕馭スルニ於テ頗ル好方略
ヲ施シタリ
爾後マラーハ其新聞紙上ニ於テ暴戾激烈ナル持論ヲ發布スルコト極
メテ甚シク其國法ニ觸レシコトヲ避ケンカ爲メ常ニ身ヲ隱匿シテ之
ヲ發行シケレハ滿腔ノ熱情ハ吐露シ盡シ毫モ餘力ヲ遺サ、ルカ故ニ
公衆ノ之ヲ購讀シテ感動激發スル所ハ底止スル所ヲ知ラス其持論ニ
據レハ苟モ人民ハ容儀閑雅ナルコトハ民主政治ハ平穩說ニ反對スル

持論ヲ察
スレハ佛
國革命家
ノ殊性ヲ
概想スル
ニ足ルヘ
シ

モ、ハ、ナ、レ、ハ、之、ヲ、惡、德、ナ、リ、ト、稱、セ、サ、ル、ヲ、得、ス、且、ツ、自、由、ヲ、障、碍、ヲ、掃、蕩、セ、
ン、ト、ノ、熱、情、其、極、度、ニ、達、シ、タ、ル、ヤ、唯、之、ヲ、殲、盡、ス、ル、ノ、手、段、ヲ、除、キ、テ、ハ、復、
タ、他、ニ、方、略、ヲ、知、ラ、サ、ル、カ、如、シ、其、曾、テ、醫、學、ヲ、講、習、シ、テ、病、理、ヲ、診、視、ス、ル
ニ、慣、レ、タ、ル、ヤ、如、何、ナ、ル、苦、痛、ノ、狀、態、ヲ、觀、ル、モ、毫、モ、其、心、ヲ、動、カ、サ、ス、其、熱、
情、ハ、始、終、沸、騰、シ、テ、已、マ、サ、ル、ヲ、以、テ、天、性、ノ、感、覺、力、ハ、之、カ、爲、メ、ニ、作、用、ヲ、
制、限、セ、ラ、レ、タ、ル、モ、ノ、如、ク、數、條、ノ、血、路、ヲ、開、キ、テ、轟、然、一、直、線、ニ、其、目、的、
ヲ、達、セ、ン、コ、ト、ヲ、欲、シ、タ、リ、故、ニ、全、然、社、會、ノ、事、物、ヲ、破、壞、シ、去、リ、テ、功、業、ヲ、
大、成、セ、ン、ト、ノ、方、案、ハ、漸、ク、已、ニ、其、頭、腦、中、ニ、熟、シ、タ、ル、ニ、由、リ、主、ト、シ、テ、先、
ツ、統、理、官、ナ、ル、モ、ノ、ヲ、置、カ、ン、ト、ノ、論、ヲ、立、テ、タ、リ、該、官、ヲ、置、カ、ン、ト、ノ、本、意、
ハ、己、レ、其、任、ニ、當、リ、テ、大、權、力、ヲ、掌、握、シ、富、貴、榮、達、ノ、快、樂、ヲ、享、ケ、ン、ト、欲、ス、
ル、ニ、非、ス、但、此、地、位、ニ、立、チ、テ、社、會、ノ、事、物、ヲ、自、在、ニ、掃、蕩、シ、以、テ、之、ヲ、淨、潔、
ニ、セ、ン、コ、ト、ヲ、望、ミ、タ、ル、耳、其、志、望、斯、ノ、如、キ、ヲ、以、テ、己、レ、カ、進、路、ヲ、遮、欄、ス、
ル、者、ニ、對、シ、テ、ハ、之、ヲ、貴、器、ス、ル、ヲ、要、セ、ス、唯、一、刀、兩、斷、ニ、之、ヲ、殲、盡、セ、ン、
ト、ヲ、期、シ、タ、ル、而、已、又、平、素、人、ニ、語、ル、所、ヲ、聞、ク、ニ、佛、國、人、ハ、實、ニ、賤、斥、ス、ヘ、
キ、革、命、人、民、ナ、リ、ト、相、定、シ、タ、ル、モ、ノ、如、ク、一、身、ヲ、以、テ、革、命、事、業、ヲ、專、任、
シ、自、在、ニ、國、中、ヲ、橫、行、シ、テ、殘、殺、屠、戮、ヲ、行、ハ、ン、ト、ノ、志、ハ、勃、々、ト、ノ、禁、ス、ル、
ヲ、能、ハ、ス、其、最、モ、敵、視、ス、ル、所、ハ、唯、貴、族、諸、人、ニ、在、ル、ヲ、以、テ、國、會、ヨ、リ、公、令、
ヲ、發、シ、テ、貴、族、カ、皆、其、標、章、ヲ、著、ケ、以、テ、他、人、ニ、別、異、セ、ン、ト、ヲ、要、シ、三、人、以、
上、同、行、ハ、貴、族、ニ、逢、フ、タ、ル、者、ハ、何、人、ニ、問、ハ、ス、皆、之、ヲ、斬、殺、ス、ル、ヲ、得、ル、ト、
ハ、國、法、ヲ、立、テ、ン、コ、ト、ヲ、望、ミ、タ、リ、ト、マ、ラ、一、ノ、視、テ、以、テ、貴、族、ノ、稱、號、ヲ、
下、ス、所、ノ、者、ハ、勤、王、黨、立、憲、黨、及、ヒ、ギ、ロ、ン、ヂ、ン、黨、ノ、諸、人、ヲ、概、括、ス、ル、カ、故、
ニ、時、々、之、ヲ、判、別、ス、ル、ニ、困、難、ヲ、覺、ヘ、サ、ル、ヲ、得、ス、斯、ル、時、ニ、ハ、マ、ラ、一、直、チ

ニ、時、々、之、ヲ、判、別、ス、ル、ニ、困、難、ヲ、覺、ヘ、サ、ル、ヲ、得、ス、斯、ル、時、ニ、ハ、マ、ラ、一、直、チ

玉石ヲ混
同シテ之
ヲ敵視ス
ルハ古
今一轍ナ
リ

ニ判断ヲ下シテ曰ク凡ソ車馬ニ駕シ僮僕ヲ從ヘ絹服ヲ著ケテ劇場内
ヨリ出ツルハ諸人ハ概シテ正ニ貴族タルヲ以テ是等ノ諸人ニ逢ハ
猶豫ナク之ヲ襲撃スヘシ何ソ之ヲ判別スルニ苦ムコトノアラスヤト
當時暴烈ナル人民ノ方ニ其領袖ヲ得ンコトヲ望ムハ大旱ノ雲霓モ音
ナラス而シテマラーノ性質ト言論トハ已ニ斯ノ如クナレハ其一旦起
チテ指顧スルノ後チハ四分五裂シテ雜然沸騰セル亂民等ヲ糾合スル
コトハ猶ホ囊中ノ物ヲ探ルカ如シ是ヨリ先キロベスピイルハ他ノ政
論家諸人ニ比シテ言論ノ最モ激烈ナルニ由リ「ヂヤコピン」黨中ニ於テ
頗ル衆望ヲ收メ以テ能ク人民ヲ合衆スルコトヲ得タリト雖トモ其資
性尙ホ十分ニ之カ任ニ勝ユルコト能ハス危難方ニ一身ニ逼ラントス
ル時ニ及ヒテハ逡巡シテ之ヲ回避セシメテ欲スルモノ、如ク其平素

後世政論
家ノ章
ニ供スヘ
シ

最モ心ヲ用井ル所ノモノハ如何セハ能ク方正廉直ナル愛國士タルノ
聲譽ヲ得ヘキカ又蓋世ノ雄辯家ト稱セラルヘキ方便ハ果シテ如何ト
常ニ意ヲ世上ノ毀譽ニ留メテ專ラ外部ノ觀容ヲ修飾シタレハ蓋シ善
ク大事ヲ成就スヘキ政論家ニ非ルカ如シマラーハ已ニ統理官ノ設置
ヲ切望セシヨリ若シロベスピイルニシテ其職ニ勝ユ可クソハ之カ任
ニ當ラシメンコトヲ欲シ一日偶其家ヲ訪ヒシニロベスピイルハ方ニ
講學ニ耽リテルーソーノ著書ヲ熟讀シ以テ辯説ノ思想ヲ鍊磨シタリ
マラー一見シテ其材器ノ小ナルヲ知リ復々共ニ大事ヲ謀ルニ足ラス
ト爲シケレハ退キテ人ニ告クルニロベスピイルカ細人ニノ敬重スル
ニ足ラサルヲ以テソ國運ヲ挽回スルノ大任ニ勝ヘスト明言スルニ
至レリ因テ爾後復々國中ニ一人ハ英材偉器ナキヲ自認シ獨リ他日

宇宙ニ傲
睨シ乾坤

ニ向フテ大ニ期望ヲ懷抱セリトソ

第拾七回

世亂レテ忠臣ヲ知り時窮マリテ傑士輩出スルコトハ是レ古今ノ常ナ
 レハ當時佛國ノ形勢方ニ危急存亡ノ秋ニ於テ諸黨中ヨリ著名ノ士ヲ
 出シタルコト幾人ナルコトヲ知ル可ラスマラーロベスピイルバルバ
 ローフレロンブリソーパニス等ノ諸人ハ皆善ク人民ノ望ミヲ繫キテ
 政治上運動ノ機軸ト爲リシカ其間ニ於テマラーハ獨リ衆ニ抜キテ頭
 角ヲ顯ハシタルカ如シト雖モダントンモ亦黨中ノ領袖諸人ノ間ニ尤
 モ善ク民心ヲ服シタルコトヲ以テ稱セラレタリ少時ハ狀師ト爲リテ
 職業ニ就ギタレド其志ヲ得サルヲ以テ之ヲ罷メタリシカハ孤貧落魄
 ニシテ依ル所ヲ知ラス性尤モ情慾ニ耽リ易キヲ以テ益々産業ヲ治ム

狀貌ノ奇
 偉ナルハ
 政治家及
 ヒ辯士等
 カ須要ノ
 資格ト云
 フヘシ

ルヲ能ハス因テ斷然意ヲ決シテ身ヲ政治世界ニ抛ウチ頗ル自ラ將來
 ニ望ミヲ屬シタリ幼時教育ヲ被ムラサルヲ以テ不學無術ナリト雖モ
 善ク事理ヲ了解シ又廣大ナル推想力ニ富ミタルノ天資アルニ由リ自
 ラ衆ニ超絶セルノ品格ヲ有セリ其狀貌ハ醜陋ニシテ額面濶大稍亞非
 利、駕、人、ノ、如、ク、音、吐、ハ、極、メ、テ、大、ニ、シ、テ、雷、ニ、似、タ、リ、其、風、度、斯、ノ、如、キ、ヲ、以、
 テ、黨、社、中、ニ、テ、辯、說、ヲ、爲、ス、ニ、當、リ、テ、ハ、諸、人、皆、爲、メ、ニ、意、ヲ、留、メ、テ、之、ヲ、傾、
 聽、セ、サ、ル、ハ、莫、シ、其、面、色、ハ、或、ハ、極、メ、テ、猙、惡、ノ、相、ヲ、現、ハ、セ、シ、モ、或、ハ、愉、悅、
 溫、良、ノ、氣、象、ヲ、發、シ、且、ツ、性、人、ヲ、猜、忌、シ、若、ク、ハ、怨、恨、ス、ル、ヲ、ナ、キ、モ、一、旦、憤、
 激、ス、ル、ニ、及、ビ、テ、ハ、其、猛、威、當、ル、可、ラ、ス、故、ニ、極、メ、テ、激、發、シ、タ、ル、キ、ニ、於、テ、
 ハ、マ、ラー、ノ、殘、暴、ナル、心、性、能、ク、之、ヲ、覺、知、シ、得、ヘ、キ、コ、ト、ヲ、ハ、獨、リ、悉、ク、之、
 ヲ、實、行、ス、ル、ヲ、得、タ、リ、ト、ソ

總跡ト一
個人ト一
關シテ寬

足實ルヘシニ

此是ダン
トシノ本
領

按スルニローランド夫人カ掌記中ニ錄スル處ニ據ルニ曰ク予ハ彼ノ暴烈ナル情炎ヲ發シ或ハ驚クヘキ豪膽ヲ現ハシ又寛大ナル愛情ヲ起シ或ハ單純ナル情態ヲ作スコトダントンノ如キモノヲ見サルナリダントンハ千七百八十九年ノ頃ニハ一時大ニ名望ヲ收メテ多ク諸人ノ囑托ヲ受ケタル狀師ナリシト雖モ一身ニ擔當スル所ノ責任ハ訴訟事件ヨリハ負債却テ多キニ至リシカハ後チ産業ヲ回復セントラ十五萬八千三百三十三磅金ノ財産ヲ有スヘキ權利ヲ争ヒ力ヲ竭シテ之ヲ所有シ以テ逸樂ヲ極メタリシカ當時適々國亂ノ際到處ニ死屍累々タリシカハ其間ニ睡眠シ顔色常ノ如クナリシ云々又史家ヨギーノ記スル所ニ據レハダントンハ人ヲ殲滅スルヲ旨トスルモノニシテ殘殺ヲ嗜ムモノニ非ス讎敵ハ總跡ニ對シテハ毫モ寛恕スル所ナシト雖モ一個人ニ向フテハ仁慈ヲ加ヘ寛大ヲ主トシタリ曾テ同類中ニテ大殘殺ヲ企テントシタル時ニモ其己レカ所ニ來リテ救ヲ乞フタル者ハ盡ク之ヲ殺サス又ヂウボルバルナープ及ヒシヤールラメス等ノ諸人ハ己レカ一身上ノ讎敵ナリト雖モ毫モ之ヲ意トセス自ラ囹圄ヲ開キテ諸人ヲ放チ以テ之ヲ助命シタリトソ

故ヲ以テダントンハ當時公會ノ辯說ヲ以テ民心ヲ收メ且之ヲ提起シタル諸黨中ノ領袖ニ於テ尤モ拔群ナリト稱セラレタル者ナリト雖モ百事豪膽ヲ以テ果敢斷行スルヲ旨トシ持重沈靜專ラ規程ヲ守ルヘキ事業ヲ成スコト能ハサルカ故ニ縱令黨中諸人ノ間ニ於テ大ニ勢力ヲ有シタリト雖モ常ニ善ク之ヲ統御スルコトヲ得ス但諸人ノ事ヲ行フ

ニ當リテ躊躇スルキニハ之ヲ鼓舞策勵シテ其目的ニ達スルコトヲ得
セシメタルノミ

佛民政社

經費ヲ要
スルヲ多
クシテ勢
力モ振

民間黨派ノ勢力ハ日ニ益々強盛ナリト雖モ彼ノ謀叛委員等ノ議論ハ
常ニ分裂シテ一致セザリシカハ朝廷ハ此情勢ヲ察シテ更ニ自ラ防衛
スル所ノ方策ヲ立テ彼ノ外國兵士ノ到達マテハ其安全ヲ保持シテ激
徒ノ暴撃ヲ避ケンコトヲ勉メタリ因テ勤王家ノ同志者ハ相團聚シテ
一鉢ヲ成シ之ヲ佛民政社ト名ツケテ常ニ宮闕ノ傍ニ會同シタリシカ
其會員ハ技術家及ヒ衛兵等ヨリ構成シ會場ノ中ニハ密ニ武器ヲ藏置
シ危急ノ際ニ臨ミテハ直ニ之ヲ執リテ宮中ニ馳セ到リ以テ王族ヲ保
護センコトヲ約シタリ此社員ノ會同ニ就キテハ一日ニ一萬フランニ一
ラソハ廿錢許ノ經費ヲ要シ其他此同類ノ爲メニ多少ノ經費ヲ以テ專

一般ト同

ヲ王家ノ尊榮ヲ圖ランコトヲ企テタレモ元來同志者ノ人員極メテ寡
クシテ廣ク之ヲ散布スルコトヲ得ス且ツ衛兵中ノ同志者等モ漸ク他
黨ノ爲メニ志ヲ變シテ勇氣ヲ墜スニ至リケレハ此同志者ノ計畫スル
所如何ニ拘ハラヌ十分ノ效績ヲ収メ難キカ如キハ尤モ惜ムヘキコトナ
リトス

然レモ從前遠ク離レテ外ニ在リタル勤王忠誠ナル諸臣ハ是ニ至リテ
國王ノ所ニ詣リ身軀ヲ以テ之カ堡壁ニ供シ飽クマテ之ヲ防衛センコ
ト誓ヒ常ニ宮中ニ會合シテ其人員亦多カリケレハ之カ爲メニ民心ヲ
激動シタルコト淺々タラス又已ニ解隊スルモ尙ホ始終俸給ヲ受ケタ
ル兵士等ニハ密ニ書ヲ覆シテ之ヲ招聚シケレハ一時宮中ニ集合セル
諸人ノ數モ頗ル多ク人員多クテハ隨フテ各種ノ議論ヲ紛起シ國王一

某黨員タ
リトノ名
ヲ以テ併
モテ其人
ノ言論ヲ
取舎スル
是レ古今
ノ通弊ナ
リ戒メサ
ルヘケン
耶

身ノ安全ニ關シテ策ヲ建ツルモノニシテ足ラス優柔不斷ナル路易
ニ取リテハ是ヨリ却テ一身ノ禍害ヲ胎胎スルノ基ヲ成シタリトソ
諸臣中各般ノ方策ヲ建ツルニ當リテ智慮明達ナルマルサーズハ主ト
ノ遜位ノ説ヲ立テタレト他ノ立憲黨ノ過半ハ逃奔ノ策ヲ可トシケレ
ハ路易ハ依違シテ決スル所ヲ知ラス從來ヂウボルノ人ト爲リヲ信シ
ケレハ之ニ就キテ其得失ヲ決定センコトヲ欲シベルトランドニ命シテ
其任ニ當ラシメタリ然ルニベルトランドハヂウボルカ立憲黨ノ一人
ナルコトヲ以テ斯ノ如キ者ト交通スルコトヲ欲セサリシカハ終ニ之ヲ果
スコトヲ得ス是ヨリ先キノルマンヂーノガイロン城ハランユールト侯
之ヲ守リ該侯ハ元來深ク路易ノ信任ヲ得タル人ナレハ該城ニ到リテ
其安全ヲ謀ラントノ議ヲ決スルニ至レリ該侯ハ曾テ六月廿日ノ暴動

ヲ非難シ王族ハ總テガイロン城ニ迎ヘ入レ次ニ之ヲラフエツトノ軍
營ニ衛送シテ十分ノ安全ヲ謀リ且ツ自己ノ生命財産ヲ以テ全ク之ヲ
此事業ノ爲メニ竭サンコトヲ明言シタリ此方案ハ國王ヲ以テ直ニ移住
貴族ノ手ニ托附スルニ非スシテ結局該侯トラフエツトノ保護ニ托
センコトヲ旨トスルカ故ニ立憲黨ノ諸人ハ概テ之ヲ賛成シタリト雖
ト女皇及ヒ路易ハ已ニラフエツトヲ忌ミタルヲ以テ之ヲ採用スルコ
ト能ハス蓋シ此方案ヨリ生スル所ノ利益ハ頗ル多ク先ツガイロン城
ハ海洋ヲ離ルコト遠カラサルヲ以テ一旦急變アルニ當リテハ安全
ニノルマンヂーヲ經テ終ニ容易ニ英國ニ逃走スルコトヲ得ヘシトス
又巴理ヲ距ルコト數里ナルヲ以テ瞬間ニ之ニ到達スルコトヲ得ヘシ
且ツ此方案ヲ實施スルハ國王ヲシテ憲法ニ觸レシムルニハ至ラサレ

路易ハ此際深ク疑懼ノ念ヲ抱キタルニ由リ之ヲ以テ或ハ公然タル刑辟ニ罹ランコトヲ恐レ尙ホ顧慮シテ決セス國難已ニ迫リテ路易ノ意向一決セサルコト斯ノ如クナリシカハ重子テ各種ノ方策ヲ建ツルモノ相踵キテ起リ數端ノ議論ハ可否相奪フテ定マル所ヲ知ル可ラス曾テ執政官ト爲リタルネツケルノ女子ニスタール夫人ハ主トシテ逃走ノ計ヲ立テタレハ移住貴族等ハ之ニ反對シケレハ路易カ優柔不斷ナル孰レニ適從ス可キカヲ知ルコト能ハス躊躇ノ間ニ時機ヲ誤マリ終ニ復々回救スルコト能ハサルニ至ラントス豈惜シカラスヤ

按スルニヂニスタール夫人ハ其父ノ名譽ヲ承ケタルヲ以テ夙ニ世ニ顯ハレ風致及ビ主義ノ高尚ナルヲ以テ稱セラレタリ就中革命亂ノ起ルニ及ヒテハ其言論舉動ノ頗ル觀ルヘキモノアルヲ以テ聲譽

一時ニ喧傳スルニ及ヘリ平素政治上ノ主義ヲ以テ交ハル所ノ諸黨員ト文學社會ニ於テ往來スル所ノ諸名士トハ皆嘖々トシテ之ヲ稱揚セサルモノ莫シ後チロベスピールノ死スルニ及ヒテハ巴理ニ留マリテバナバルテト相交ハリ深ク其推擧ヲ被アリタリシカ故アリテ之ト爭論ヲ生シ爲メニ佛國ヨリ追放セラル、ニ至レリ因テ之ヨリコーペットニ到リテ父ノ喪ヲ眼シ幾クナラスシテ亦死シタリ其著書中ニ於テ「コリン」ト稱スル稗史ノ如キハ最モ世人ノ爲メニ愛讀セラレタルモノナリト云フ

是時ギロンダン黨ハ回救ノ策ヲ建テ、云ク今日ノ急務ハ唯善ク形勢ヲ察シテ果斷ノ處置ヲ下シ以テ人民ノ信ヲ固クスルニ如クハナシ其一端ヲ舉クレハ國中何人モ皆國王ノ權力能ク外國ノ兵ヲ遠サク可キ

コトヲ知リテ頻リニ之ヲ希望シタレハ國王ハ今ニ及ヒテ斷然志ヲ決シテ速ニ外國ノ兵ヲ罷メ還ヘシ且ツ忠誠ナル諸人ヲ撰舉シテ新ニ内閣ヲ構成スヘシラフエツトノ如キハ目今已ニ人望ヲ失フテ國王ノ爲メニ大用ヲ勅サ、ルモノナレハ直ニ之カ職ヲ罷ムルヲ可トス又憲法ニ據リテ皇太子教育ノ法規ヲ一定シ王室費ノ如キハ公然出納ノ計筭表ヲ明示シ凡ソ自由ニ國民ノ承賂ヲ經ルニ非ルヨリハ國王ハ復タ毫モ權力ノ増加ヲ認許セストノ公令ヲ發行セサル可ヲス果シテ能ク斯ノ如クナラハ國內ノ紛擾ハ漸ク熄ミ時ヲ積ミ月ヲ累テ一意ニ此政策ヲ固持セハ國王ノ全ク人民ノ信用ヲ回復スルコト決シテ難キニ非ルヘシ云々

此方策頗ル取ル可キモノアリト雖モ開劣懦弱ナル路易カ遲疑メ之ヲ

採聽セサルノ間ニ彼ノ謀叛委員等ハ既ニ請ヲ定メテ直ニ宮闕ニ迫リ國王ニ要請スル所アラントヲ欲シ人民ノ隊列ニ向フテ放射スル者ハ何人ニ論ナク直チニ之ヲ死刑ニ處スヘシトノ數語ヲ赤色ノ旗ニ記載シ諸人ノヲ立テ、宮闕ニ到リ先ツ國王ヲ擒ニシテ之ヲ幽閉セントノ趣向ヲ立テケレハマルセルノ人民ニモ此旨ヲ傳ヘテ來會セントヲ請ヒ相合シテ進行セントヲ企テタリ此計畫ハ極メテ秘密ニ之ヲ行ヒタレモ朝廷ニ於テハ早クモ之ヲ探知シケレハ宮中ノ周章錯愕ハ大方ナラス王族ハ皆一所ニ會シテ防禦ノ計ヲ議シ勤王家ハ四方ヨリ來集シテ宮中ニ充滿セリ又市街ノ間ハ人心洶々トシテ戰亂ノ方ニ起ラントスルモノ、如ク警鐘ヲ連打スルノ聲ハ終夜已ムキナシ殊ニ一層民心ヲ激發セントノ意ニテ兵器已ニ宮中ニ山積シタレハ人民ハ先ツ之

ヲ強奪セサル可ラストノ風説ヲ傳フル者アリシカハ老幼婦女ノ別ナク皆大舉シテ宮殿ニ亂入スヘキ勢ヲ爲シタリ府尹ベシヨンは是レヨリ先キ人民ノ計畫スル所ヲ知リタレハ敢テ之ヲ制セス但或ハ暴動ノ極終ニ大事ヲ誤マランコトヲ恐レタルニ由リ意ヲ決シテ此暴動ヲ鎮制シ多少ノ困難ヲ極メテ姑ク人民ノ會合ヲ解散スルコトヲ得タリ然レモ民心ノ激發スルコト已ニ此極度ニ達シケレハ各所ニ於テ民權家ト王權黨トノ小紛争ハ常ニ絶ニルモ殊ニマルセイノ市民五百人ハ隊伍ヲ爲シテ巴理ニ到着シ其諸人等ハ盡ク殷阜繁盛ナル港頭ニ生活シテ活潑ナル商業ヲ營ミ南部地方ニ於テ最モ激烈暴戻ヲ以テ著ハレタル者トモナリシカハ巴理人民ノ激發ハ更ニ一層ノ高度ヲ加ヘ王民兩黨間ノ争鬭ハ益々各所ニ行ハレ已ニ相殺傷スルニ至リタル

フランス
ウ井ク侯
ノ檄文要
旨八條

ヲ以テ國會ニ向テテマルセイノ人民ニ退去ヲ命センコトヲ請願スル者アルニ至リタレハ議員ハ之ヲ省ミス然ルニ此際又一公書ノ民間ニ流布スルモノアリ書中ニハフランスウ井ク侯ノ署名鈐印アルヲ以テコブレントツニ駐留セル諸人ノ發意ニ係リ字魯西軍隊中ヨリ之ヲ出シタルヲ証明スルニ足レリトソ今其檄文ノ要領ヲ略載センニ先ツ前段ニ於テ日耳曼皇帝ト字魯西國王トハ該公ニ命シテ兵ニ將トシ佛國ニ入ラシメタルノ大意ヲ明示シ次ニ左ノ條件ヲ擧ケテ曰ク

(第一) 時勢已ムヲ得スシテ兩國同盟ノ兵ハ佛國ニ入ルト雖も本ト其幸福ヲ圖ルノ目的ニ外ナラサレハ征服ニ因リテ兩國自ラ私利ヲ謀ルノ意ハ毫モ之ナキヲ明カニセンヲ要ス

(第二) 兩國同盟ノ兵ハ佛國ノ内治ニ關涉セントノ意ニ非ス但國王

女皇及ハ王族カ其本分ニ復セラルトヲ得テ殊更聖教ヲ奉シタル國王陛下カ危難ト障碍トヲ免レテ自ラ允當ナリト認定セル所ニ從ヒ議會ヲ招聚シ又陛下ノ約束ニ從ヒ及ヒ陛下ニ服從シタル臣民ノ幸福ヲ圖ルニ當リテ陛下ニ必要ナル安全ヲ保持セント欲スルナリ

(第三) 聯合ノ軍隊ハ都府市邑及ヒ郡村ヨリ其他國王ニ服從セル諸人ノ身軀及ヒ財産ヲ保護スヘシ佛國ニ通シテ秩序ト警備トノ一齊ニ再復スルニ及ヒテハ直ニ此事ヲ實施セントス

(第四) 同盟兩國ノ軍隊已ニ到著シ又ハ別ニ設置スル所アルニ至ルマテノ中間ニ於テハ佛國ノ常備兵ハ人民ノ身体及ヒ財産ノ安全ヨリ都府及ヒ地方ノ靜謐ヲ守護スヘシ其責任ハ各人ノ一身上ニ在ルモノトス若シ常備兵ニノ兩國聯合ノ兵士ト戰端ヲ開キ若クハ之ニ

對シテ兵器ヲ執リタル者アルハ直ニ之ヲ讎敵ト認定シ國王ニ對シテ叛逆ヲ謀リ又國安ヲ妨害セル者トシテ嚴刑ニ處スヘシ

(第五) 佛國中他ノ軍隊ハ將校士官及ヒ兵卒ノ別ナク總ヘテ國王ニ忠誠ナルコト往時ノ如ク正當ノ主權者タル國王ニ對シテハ爾後永ク服從セントヲ要ス

(第六) 都鄙各地方ノ官吏職員ニシテ其管内ニ起リタル放火殺害掠奪等ノ諸兇行ヲ禁制スルヲ能ハス或ハ暴激ナル舉動ヲ鎮定スルヲ能ハス或ハ之ヲ防制セサルノ形跡顯然タル者ハ生命及ヒ財産ニ對シテ自ラ其實ニ任ス可シ又是等ノ諸人ハ此間ニ於テ聖教ヲ奉シタル國王陛下カ十分ニ其自由ヲ回復シ今ヨリ一層ノ準備ヲ整ヘ或ハ陛下ノ御名ヲ以テ事ヲ確定スルニ至ルマテノ間ハ總テ從前ノ如ク

其職務ヲ執ルヘシ

(第七) 都府、市邑及ヒ郡村ノ住民ニシテ皇帝陛下ノ軍隊ニ抗シテ敢テ自ラ防衛ヤシトテ金ヲ郊野窓間、兵隙及ヒ其他總テ家宅中ヨリ放射シタル者ハ直チニ軍法ニ照シテ嚴刑ニ處シ其家屋ハ之ヲ毀壞シ若クハ燒却スヘシ又之ニ反シ都府、市邑及ヒ郡村ノ住民ニシテ容易ニ其國王ニ服從シ門戸ヲ洞開シテ陛下ノ軍隊ヲ迎ヘ入ル、者ハ即時ニ其保護ヲ被ケルコトヲ得テ其身軀、財產及ヒ勞作ハ總テ國法ノ保護ヲ受ケ一般諸人ハ勿論諸人各個人ノ安寧ニ就キテモ相當ノ準備ヲ施スヘシ

(第八) 巴理ノ市民ハ何等ノ住民タルコト間ハス毫モ顧慮スル所ナク當ニ速ニ國王ニ服從シ之ヲ十分完全ナル自由ノ地位ニ置キ兼テ本

分ノ權利ヲ享ケシメ苟モ自然法ト萬國公法トニ據リテ臣民タル者ノ其國王ニ對シテ盡スヘキノ崇敬尊重ハ盡ク之ヲ盡スヘシ凡ソ帝王及ヒ國王陛下ハ百事ニ關シ其生命ヲ以テ之カ責ニ任シ國會議員ヨリ各地方官ニ至リ其他國安ヲ保持セル巴理ノ鎮衛兵等ニ對シテハ毫モ寬貸スル所ナク軍法ニ從テ其罪犯ヲ論ス可シ又陛下ハ其本分ノ地位ニ由リ信實ト勅語トヲ以テ廣ク公諭スル所アリ若シ宮殿ニ對シテ不敬ヲ加ヘ暴行ヲ爲シ又ハ些少ナル暴動若クハ兇行ヲ以テ國王、女皇陛下及ヒ王族等ニ之ニ加フルモノアルカ又ハ國王及ヒ女皇ノ安寧、尊榮及ヒ自由ニ關シテ急切ナル準備ヲ成サ、ル者アルハ陛下ハ直ニ英斷ヲ以テ非常ノ處置ヲ下シ武斷政事ヲ以テ巴理ノ全都ヲ破壊シ去リ苟モ兇暴ノ罪ヲ犯シタル者ハ嚴刑ニ處セラ

レテ道ル、コトヲ得サラシムヘシ又陛下ハ巴理府民等ニ對シテ約
束スル所アリ府民カ其聖教ヲ奉シタル王家ニ對シテ忠誠ナル勸勞
ヲ竭シ以テ從前ノ錯誤ヲ寬恕セラレシコトヲ期シカハ在ル所ヲ盡シ
テ國王等カ身軀財産ノ安固ヲ圖リ以テ能ク速ニ前段ニ説示セル告
諭ヲ奉セシコトヲ望ム

之ヲ要スルニ我帝王及ヒ國王陛下ハ凡ソ完全ナル自由ヲ享ケタル
國王ヨリ發セサル法律ハ之ヲ佛國ノ國法ト認許スルコト能ハサル
カ故ニ苟モ國王、女皇及ヒ王族等カ神聖ナル身軀ノ未タ實ニ安寧ノ
地位ニ達セサル限りハ國王陛下ノ名ヲ假リテ發布シタル諸公令ヲ
以テ其効力ヲ有セサルモノト断定セサルコトヲ得ス是等ノ公令ヲシ
テ盡ク効力ヲ有セシメシカ爲メニ我帝王及ヒ國王陛下ハ先ツ聖教

ヲ奉シタル國王陛下カ其國境ニ接近セル都邑中苟モ女皇及ヒ王族
ト謀リテ適當ナリト認メタル地方ニ駕ヲ枉ケラレシコトヲ請ヒ之カ
爲メニ忠誠ニシ且ツ安全ナル護衛兵ヲ出スニ及ヒタリ其主旨タル
他ナシ唯聖教ヲ奉シタル國王陛下カ自ラ信任セル宰相及ヒ議官等
ヲ擧用シ之ヲ左右ニ置キ以テ十分ニ其安寧ヲ保持シ自ラ適當ナリ
ト判定シタル議會ヲ招集シ以テ再ヒ國家ノ秩序ヲ建立シ且ツ王國
ノ政務ヲ規定セシコトヲ要スルニ過キサルナリ
結末ニ於テ余ハ一個人ノ名義ト前段ニ舉示セル性格トヲ以テ公言
シ且ツ約束スル所アリ苟モ余カ陛下ニ屬シタル兵士等ハ必ス順良
ニシテ且ツ嚴格ナル節制ヲ受ケシメ平和ヲ尙ヒ服從ノ意ヲ示シタ
ル諸人ニ對シテハ務メテ親切温和ヲ以テ之ニ接セシコトヲ要シ但

抗拒若クハ敵意ヲ以テ罪ヲ犯シタル者ニ向フテハ兵力ヲ以テ之ニ
 加フルコトアルニ止マラシメントス
 是故ニ余ハ最モ力ヲ極メ且ツ深ク熱心ヲ以テ國內遠近ノ諸住民ニ
 要望シ又請求スル所アリ余カ麾下ノ兵士カ行軍若クハ運動ニ對シ
 テハ毫モ之ニ抗拒スル所ナク沿道到處却リテ之カ爲メニ路ヲ開キ
 事情ノ要スル所ニ隨フテハ之ニ好情助力及ヒ救援ヲ與ヘラレシ
 ヲ希望シテ已マサルナリ
 千七百九十二年七月二拾五日コブレンツノ本營
 ニ於テ之ヲ發布ス

ブラジンスウイクルチバルダ侯

チャールレスウァルリアムフェルサナンド印

此檄文ハ
 是レ油ヲ
 注キテ以
 テ烈火ヲ
 滅サント
 欲スルモ
 ノ如シ
 人民激發
 セサラン
 ト欲スル
 モ豈得可
 シヤ

第拾八回

此檄文ノ巴理ニ達スルヤ直チニ之ヲ王權黨ノ新聞紙上ニ登載シケレ
 ハ荷モ之ヲ一讀スルモノハ皆其語氣ノ傲慢無禮ニシテ其恐嚇手段ノ
 尤モ惡ムヘキコトニ驚カサルハ莫ク民權黨ノ諸人ハ相約シテ共ニ此
 外國ヨリ來侵セル敵人ニ抗拒センコトヲ決心シタリ蓋シ此檄文ハ本
 ト他國人ノ手ニ成リタリト雖モ國王及ヒ朝臣等カ新ニ此處置ヲ決行
 スルニ參涉シタラントノ疑念ハ自然ニ人民ノ胸裏ニ起ラサルヲ得ス
 然ルニ路易ハ人民ノ誤認スル所アラフヲ恐レ直チニ使ヲ出シテ此檄
 文ニ同意スルノ誓約ヲ取消シタリ其仔細ハ此檄文ノ旨趣ハ當初路易
 カ其意見ヲ示シテ協議シタル所ト頗ル相異同スル所アルニ由リ之カ
 爲メニ人民ヨリ意外ノ怨恨ヲ受ケンコトヲ恐レタルニ在リト雖モ時

勢此ニ至リテハ何人モ亦路易カ辯解スル所ヲ信スルモノ莫ク殊ニ國會議員ノ如キハ直ニ此檄文ヲ印刷シテ廣ク之ヲ人民ニ蒸讀セシメ國王カ言辭ト舉動ノ間ニハ如何ニ相表裏スル所アルカヲ知ラシメントノ發議ナシタリ且ツ此時地方ヨリ急報ノ達スルモノ櫛ス齒ヲ挽クカ如クサルチニヤノ軍隊五萬人ハ已ニ國境ニ近ク進ミ來レリト云ヒ或ハ數人ノ民權家ハ已ニ敵人ノ爲メニ毒殺セラレタリト説キ街説紛々トシテ人皆畏懼ノ念ヲ懷カサルハナク禍乱潰裂ノ兆全ク茲ニ現ハレタリ

按スルニ史家アリソン氏カ彼ノ檄文ニ就キテ當時ノ形勢ヲ評セシ言ヲ聞クニ若シ此檄文ノ語氣ヲシテ務メテ穩當平和ノ言辭ヲ用非シメ而フシテ軍隊ノ運動ハ星馳電奔直ニ國內ニ進入シ所謂疾雷耳

ヲ掩フニ及ハサルノ舉ニ出テシメハ外國兵士ノ期スル所モ蓋シ其志ヲ得タルトナルヘシ然ルニ事茲ニ出テス國內ノ民心方ニ激昂スルノ時ニ當リテ軍隊ノ運動ハ極メテ薄弱遲緩ナルニ由リ遂ニ時機ヲ失ヒ之ヨリ却テ革命乱ノ潰裂ヲ促カシ以テ王位廢滅ノ禍ヲ激成セリ豈之ヲ惜マサルコトヲ得ンヤ云々

是時巴理ノ人民ハ毎日各所ニ集會ヲ開キテ遂ニ府尹ベシヨニ請疏スル所アリ其名義ヲ以テ斷然國王ノ廢位ヲ發議センコトヲ欲シタリ因テ府尹ハ自ラ國會ニ出席シテ巴理四拾八區ノ總代ト爲リ廢位ノ請願書ヲ國會議員ノ前ニ呈附シ且ツ當時内外ノ國情ヲ陳疏シテ之ヲ決行スルニ非ルヨリハ國民利福終ニ之ヲ全フスルヲ得ス其關係スル所實ニ至重至大ナルヲ以テ議員等カ一層力ヲ盡シテ之ヲ審議センコ

巴理人民
終ニ府尹
ニ依リテ
國王廢位
ノヲ請願
會ニ請願
ス

トヲ要ストノ旨ヲ述ヘケレハ滿場ノ議員等之ヲ聞キテ概テ驚愕セサルハナシ蓋シ國王廢位ノ論ハ決シテ此時ニ當リ初メテ之ヲ發シタルニ非スト雖田其行ハル、所ハ唯政社中ノ議論若クハ小議會ノ間ニ止マリテ未タ廣ク社會ニ發表スルニ至ラス然ルニ今マ卒然トシテ巴理人民全体ヨリ之ヲ請願シ府尹之ヲ總代スルニ至リテハ其關係極メテ大ナルカ故ニ當初之ヲ受理セシキニハ人々意外ノ感アリシモ議論漸ク起ルニ及ヒテハ平素激論ヲ主唱スル數人ノ議員ハ毫モ猶豫スル所ナク大ニ氣勢ヲ勵マシテ之ヲ贊成シタルヨリ之ニ反對説ヲ立テタル議員等ハ十分ノ勢力ヲ張ルユトヲ得ス但之ヲ受理シタルノ當日即チ七月廿五日ヨリ決議ヲ遷延シテ八月九日ニ至リ尙此議ヲ確定スルニ至ラスト雖田其前後ニ當リテ議員ノ多數ハ已ニ府尹ト其意見ヲ同フ

國會議員

ニ決定ス

シ之ヲ熱望スルハ精カニ至リテハ更ニ一層ノ高度ヲ加フルニ及ヘリ按スルニ廢位論ノ問題一タヒ議場ニ出ツルヤ滿堂ノ議員ハ殆ント狂癡セルモノ、如ク各人皆口角沫ヲ生シテ互ニ相討論シ敢テ一步ヲモ讓ラサリシカ反對論者ハ深ク各員ノ爲メニ凌辱セラレテ議場ニ本分ノ地位ヲ保ツコトヲ得ス甚シキニ至リテハ暗擊手段ヲ以テ脅迫セラル、ニ至レリ故ニ自ラ其意見ヲ立テントスルキニハ一議一説盡ク他ノ攻撃ヲ被ムラサルハ莫ク愈々其勢力ヲ失ヒケレハ其家宅ニ於テモ夜中安眠スルヲ能ハス常ニ惴々トシテ僅ニ其身ヲ全フセシトソ

當時激論ヲ主唱スルモノ多シト雖田モ一コンシイルノ人民ノ如キハ最モ其極度ニ達シ唯々國王ノ廢位ヲ熱望スルノミナラス復々國王ノ

權カヲ認許スルヲ欲セス路易拾六世ハ己ニ佛國ノ君王ト認ムヘキ者ニ非レハ目今佛國ノ艱難ヲ匡救スヘキ者ハ唯國會アルノミト公言シ且ツ全國ヲ幾區ニ別チテ復々之ヲ帝國ト稱セサルヲ望ミタリ然ルニ國會ニ於テハ激論家ノ議員ニ乏シカラスト雖且暴戾悖逆ノ議論ヲ唱フルヲ斯ノ如キニ至ラス從來國法ヲ保持スルヲ以テ其專務ト爲シタレハ國法ヲ尊重スルヲ務メテ言論ヲ其間ニ制限シタルニ由リ之カ爲メ人民ノ望ミニ反スルヲナキニ非ス時勢已ニ急迫セルヲ斯ノ如クナリシカハ勤王家ノ諸人ハ會議ヲ開キテ路易ヲ救護スルノ方策ヲ講シタリシカ到底逃脫ノ難ヲ避クルノ外復々奇策ナキヲ以テ專ラ之カ準備ヲ計畫シタレハ旅資闕乏シテ途ニ上ルヲ能ハス是ヨリ先キペルトランド、チユ、モレピルハ帝室費中ヨリ勤王家ハ政社若クハ論

官費ヲ以

クハ一箇人ヲ庇護スルノ成績ハ常ニ此類ナリ

客辯士等ニ贈與スル所アリ殊ニ他ノ賄賂ニ供用スルノ口實ヲ以テ賞ハ一人ノ私利ニ供セシコト鮮カラサルニ由リ之カ爲メニ冗費ヲ爲シタルコト多ク遂ニ茲ニ至リケレハ路易ハ己々得ス臨時ニ篤志家ヨリ公債ヲ募ラシメタリ篤志家ノ諸人ハ囊底ヲ叩キテ財資ヲ納附シ且ツ王族ト共ニ脱走シテ之ト死生ヲ同フセンコトヲ約シタリトソ斯ノ如クシテ準備已ニ整頓シケレハ勤王家ノ諸人ハ之ヲ路易ニ奏上シ路易モ直ニ意ヲ決シテ逃脫ノ事ヲ允諾セシニ由リ諸人ハ大ニ悦ビテ其志ノ成ルヲ遠キニ非ストナシタリシガ天未タ路易ニ福祿ヲ降シテ佛國ノ危難ヲ靖ニスルヲ欲セサルニヤ百般ノ準備已ニ竣ルノ翌日ニ於テ情勢全ク一變シ路易ハ更ニ志ヲ動カシテ巴理ヲ去ルヲ欲セス若シ一タヒ巴理ヲ去レハ内乱ノ起ルヤ立チテ待ツヘシト爲シ

此變心即
チ是レ自
ヲ王權ヲ
棄却シテ
終ニ斷頭
架ニ上ル
ソ期ヲ促
カシタル
基ナリ

堅ク執リテ移ラザリシカハ諸人ハ之ヲ聞キテ恰カモ晴空ニ雷電ヲ觀
ルノ感ヲナシ皆愕然トシテ一語ヲ發スルコト能ハス蓋シ路易ノ心志茲
ニ至リタル所以ハ内ヨリ之ヲ變動シタルニ非ス但先ツフランスウ井
ク侯ノ到著已ニ近クシテ人民ノ叛乱未タ潰裂スルニ至ラス而フシテ
女皇ハ從來立憲黨ノ諸人ヲ信任セス若シ逃脫シテ渠等カ手ニ落チン
ヨリハ寧ロ死スルニ如カスト説キタルヨリ諸般ノ事情湊合シテ以テ
其志ヲ變セシムルニ至リシナリ
路易ノ決心茲ニ至リテハ忠誠無比ナル立憲黨諸人カ晝夜辛楚艱苦ヲ
嘗メテ計畫シタル事モ一朝ニシテ水泡書餅ニ属シ殊ニラフエット等
カ世上ノ毀譽ニ關セス一身ノ安危ヲ顧ミス唯一意ニ王家ヲ累卵ノ危
キヨリ救ヒ出シ之ヲ泰山ノ安キニ置カント欲シ百方術窮マリテ僅ニ

激徒陸梁
スルノ時
勢ニ至リ
テモラフ
エツトカ
人望未タ
去ラサル
ヘシ見ル

逃脫ノ計ヲ立テタルノ衷情モ是ニ於テカ全ク心ト違フニ及ヒテハ其
愁悶ノ情ハ定メテ如何ソヤ是ヨリ先キルツク子ルハラフエットノ腹
心ト爲リテ專ラ勤王ノ事業ニ關シタリシカ國會ハ之ヲ探知シテ其實
否ヲ質サンカ爲メ之ヲ招喚シテ究問スル所アリシニルツク子ルカ輕
躁懦劣ナル盡ク事情ヲ陳シテ密計ヲ明ニシタリト雖同シク其麾下
ニ属シタル他ノ勇將アリテ盡ク之ヲ辯疏シタルヲ以テ議員等カラフ
エツトニ對スルノ嫌疑ハ幾分カ之ヲ減スルコトヲ得タリ然レモ幾クナ
ラスノ議員中ニラフエットカ罪ヲ論センコトヲ發議スル者アリ可否相
駁論スルノ後チ二百八拾名ノ投票ニ對シテ四百四拾六名ハ盡ク其無
罪ナルコトニ同意シケレハ遂ニ之カ決議ヲ取ルニ及ヒタリ然レモ此報
ノ世上ニ達スルヤ人民群ヲ成シテ議事堂ノ門外ニ蟄集シ當時議場ノ

右極ニ属シタル議員即チホーブランギラルヂンヂウマ等ノ諸名士ニ
 對シテ頗ル不敬ヲ加フルニ至リ且各地方ヨリ議員ヲ誹謗スルノ聲頗
 リニ起リ荷モ叛逆人タルヲフェットヲ回護スルカ如キ國會ハ決シテ
 國家ノ安寧ヲ圖ルヲ能ハスト公言セシトツ
 民間ノ激烈ナル論者ハ上ハ速ニ國王ノ位ヲ廢センコトヲ熱望シ下ハ
 國會カラフェットノ罪ヲ論セスシテ之ヲ回護セシコトヲ憤ホリ激昂
 煩悶シテ自ラ已ムヲ能ハス是ニ於テ巴理滿街ノ人心ハ俄ニ動搖シテ
 急鼓ノ聲各所ヨリ起リ謀叛委員等ハ各々團集ノ各所ニ散在シ人民中
 荷モ熱心ニシテ志氣アル者ハ皆家ヲ出テ、群ヲ成シタリ就中ダント
 シカミールデスモリン及ヒカラールバルバロー等ハ盡ク計ヲ定メテ急
 ニ大事ヲ舉ケント欲シタリロバスピイルハ當時何處ニ在ルカヲ知ル

可ラスシテダントノ獨リ非常ノ勢望ヲ有シタリシカハマラーカ罪ヲ
 獲テ公然事ニ與カル能ハサルニ由リ之ヲ害中ニ匿シ他人カ稍躊躇ス
 ル所アルカ如キノ際ニ於テ悍然自ラ奮フテ目今大事ヲ舉クルノ已ム
 可ラサルヲ辯說シ先ツ朝廷ノ罪蹟ヲ舉ケテ其憲法ヲ奉スルコトヲ
 欲セサルコトヲ明シ又其常ニ詐偽輕躁ニシテ盲行ノ盡ク一致セサル
 ヲ示シ終リニ外國ノ兵ヲ延キテ内國ノ人民ヲ暴制セントスルノ惡
 意ヲ責メ以テ人民ノ奮起セサル可ラサルコトヲ說キテ曰ク方今人民
 ハ唯當ニ自ラ恃ムヘキノミ復タ他ニ憑依ス可ラサル也憲法已ニ完全
 ナラスシテ國會又ラフェットヲ回護セリ故ヲ以テ卿等ハ唯自ラ力ヲ
 出ノ救護スヘキノミ他人復ターモ之ヲ救護スヘキモノナキナリ請フ
 時機ヲ失フヲ勿レ憶フニ今夜必ス宮中ニ集合セル諸人ハ先ツ突出シ

卿等ヲ掩撃シ屠戮ヲ極メテ終ニ巴黎ヲ去リコブレンツニ到ルヘシ卿等請フ自ヲ救護セヨ又自ヲ兵器ヲ執レ兵器ヲ執レ云々是時銃聲一發街衢ノ間ニ響キケレハ兵器ヲ執ルヘシトノ叫聲各所ヨリ起リテ叛亂ノ勢已ニ發露シタリ是レ實ニ九月十日ノ夜十一時半ナレハ激徒等ハ暗ニ乘シ各所ヨリ兵器ヲ執リテ馳セ集マルモノ雲霞ノ如シカミールデスモリン等ハ諸人ニ號令ノ先ツ連リニ警鐘ヲ打タシメントシ且ツ官廳ヲ劫奪ノ權力ヲ專有セントヲ欲シタリ壯士等令ヲ奉ノ進ミテ官廳ニ入り遂ニ鐘樓ニ登リテ警鐘ヲ連打シケレハ夜闌ニ人定マリタルノ際鐘聲遠ク街衢ノ間ニ徹シ諸人ノ眠ヲ覺破シケレハ國會議員地方官吏及ヒ市民等ハ叛亂ノ遂ニ破裂シタルヲ知リテ遠近ヨリ馳セ來リ各其持場ニ集マリタリ又宮中ニテハ遂ニ此聲ヲ聞キテ

王家存亡ノ機ハ實ニ今夜ノ間ニ迫リタリト爲シ朝官等ハ胆奪ハレ氣索キテ復々爲ス所ヲ知ラス少頃アリテ外ヨリ來リ報スルモノアリ亂ノ勢已ニ眼前ニ迫リテ復々避ク可ラス臣等激徒ノ首領等カ説ク所ヲ聞クニ今回ノ舉ハ彼ノ六月廿日ノ事ノ如ク空シク勢威ヲ示サント欲スルモノニ非ストト公言シタレハ其意蓋シ若シ前日ノ舉ヲ以テ恐嚇手段ニ止マルモノトセハ今回ノ事ハ即チ斷然實効ヲ舉ケント欲シタルモノナルヤ明ケン朝廷請フ速ニ戒嚴セヨト述ヘケレハ朝官等之ヲ聞キテ益々愕然トシテ周章シ滿廷方ニ震動セリ國王女皇及ヒ王族等ハ此夜尙ホ寢ニ就カスシテ議官及ヒ將官等カ會議ニ出席シ共ニ逃脫ノ計ヲ議シタリシカ諸官等カ心ヲ苦シメ思フ焦カシテ激徒等ヲ鎮制セント欲シタル方略ハ一モ取ルニ足ルモノナク

國會ヨリ出シタル公令ト朝廷ノ失計トニ依リテ朝廷ノ勢力ハ全ク衰
 廢シ衛兵ハ國會ノ公令ニ因リテ千數百人ヲ減スルニ至リシカハ瑞西
 ヨリ來リタル兵士僅ニ八九百人ニ止マリタルノミ又常備兵ノ如キモ
 向キニ士官等ノ變更セシヨリ將校等ハ心ヲ激徒ニ歸スルモノ多ク殊
 ニラフエツトノ都督ヲ罷メシヨリ勤王ノ士氣ハ全ク瓦解シ幸ニ剛毅
 方正ナル老將マシマツド之カ後任ヲ受ケタリト雖也從來立憲主義ヲ
 抱持シタルヲ以テ朝廷ニ容レラレス然レモマシマツドカ深ク其職務
 ヲ重ニスルヤカノ及フ所ヲ盡シテ兵士等ヲ統率シ瑞西ノ兵トカヲ合
 セテ宮闕ノ諸門ヲ護衛シタリ是等諸兵ノ外ニ舊臣等ノ赴難セルモノ
 亦鮮カラス此諸人等ハ當初貴族等諸士ト共ニ移住スルニ至ラス或ハ
 危難方ニ迫リタルヲ聞キ直ニ之ニ赴キテ二心ナキヲ明カシ或ハ君

側ニ在リテ殉難死節セントノ志ヲ決シケレハ各人皆兵器ヲ執リテ專
 ラカヲ防禦ニ盡サントス

第拾九回

是時朝廷ニテハ議論紛々トシテ決セス或ハ堅ク防守シテ激徒等ノ動
 靜ヲ伺ハント云ヒ或ハ叛民等カ未タ全ク集合セサルニ乘シテ奮撃突
 出以テ王族ノ逃路ヲ開カント説キタリシカ少頃アリテ宮闕ハ殆ント
 合圍セララル、モノ、如ク乱民等ハ四方ヨリ蟬集シテ時々銃砲ヲ放チ
 或ハ恐嚇ノ意ヲ示シタル歌曲ヲ唱ヒテ其兇鋒益々猖獗ナリシカハ路
 易ハ身親ヲ宮中ヲ防衛セル諸臣等ヲ訪問シ毎夜深更ニ至ルマテ會議
 ノ席ニ臨ミ其間餘暇ヲ以テ天ニ向ヒ暫ク祈禱シ深ク王族等ノ事ヲ憂
 ヒテ其福祿ヲ求メタリ、女皇ハ叛民等ノ舉動ヲ惡ミテ憤慨ノ情自ラ已

マスト雖正亦愁悶ノ意終ニ禁スルコト能ハス唯漣然トシテ流涕スル
 ノミ路易ハ本ト毫モ一身ノ安危ヲ以テ意トナサ、ルカ如ト雖正唯王
 族等カ事ヲ憂ヘテ爲メニ思ヲ焦シタルニ其高臺ニ上リテ宮門外ノ
 叛民等ヲ下看スルニ當リテハ幾門ノ巨砲各所ニ横ハリテ將ニ放發セ
 ントスルノ勢ヲ示シタレ正叛民中路易ノ面貌ヲ觀ルモノハ尙ホ時々
 國王萬歳ノ聲ヲ舉ケタリ然レ正他ノ多數ノ叛民等ハ愈々四方ヨリ馳
 セ集マリ其勢漸ク強盛ナリシカハ路易ハ頻リニ宮中ノ諸臣等ヲ獎勵
 慰諭シテ其力ニ頼ランコトヲ求メタルヲ以テ士氣頗ル振興シテ皆爲
 メニ死力ヲ效サンコトヲ欲セリ故ヲ以テ路易若シ更ニ勇氣ヲ鼓シテ
 親ヲ馬ニ騎リ諸臣ヲ率弁テ直チニ宮門ヲ出テ以テ叛民等ヲ鎮制セハ
 其成功ハ尙ホ期ス可キモノアルカ如シ

是時重臣等ハ宮中ノ混乱シテ計ノ一途ニ出テサルヲ見ルヤ到底自ラ
 防衛ス可ラサルヲ知リ路易カ宮中ヲ去リテ身ヲ國會議員ノ保護ニ
 托センコトヲ欲シ之ヲ以テ路易ニ奏請シ事若シ茲ニ出テナハ君民ノ
 戰乱全ク熄ミ宮闕乱民ノ手ニ落チテ王族皆其禍ニ罹ルノ患ヲ免ルヘ
 シトノ議ヲ唱ヘシカハ女皇ハ之ヲ聞キテ大ニ悦ハス然ルニ路易ハ之
 ヲ嘉納シタルヲ以テ終ニ此議ヲ一決セシカハ王族等ハ直チニ宮中ヲ
 去リテ國會ノ議場ニ赴カントス此時諸臣等ノ隨行セシコトヲ望ム者
 多アリシモ之カ爲メニ暴徒ノ心ヲ激起シ又議員等ノ感情ヲ害センコ
 ヲ恐レ唯一隊ノ兵士ト數人ノ親隨トノミ隨行シテ終ニ議場ニ到着シ
 タリ

按スルニ女皇ハ國會議場ニ身ヲ投スルヲ拒ミテ謂ラク從來此集

女皇ノ志
望常ニ如シ故
ニ路易ハ
已ニ單身
等ト相接
シ以テ其
本懷ヲ開
布スルヲ
ヲ得ヌ又
已ムヲ得
スノ身ヲ
國會ニ托
スルニ至
レリ是皆
女皇ノ爲
メニ事ヲ
誤マリタ
ル者ト云
フヘシ

合躰ハ王族ノ利害ニ關シテ毫モ其意ヲ留メサルモノナリ然ルニ今
ヤ相率井テ自ラ之カ保護ヲ乞フニ至ルハ其醜辱タル之ヨリ大ナル
ハ莫シト又此議ヲ承諾スル前當リテ諸人ニ謂テ云ク余ハ此身ヲ
宮中ノ壁間ニ釘附シテ留メラレンコトヲ望ムト然レモ路易ノ之ヲ
嘉納セシヨリ電勉シテ同シク隨行セシカ途上ニ於テ暴民等ノ爲メ
ニ其時辰器及ヒ錢囊ヲ盜ミ取ラレタリトシ
既ニシテ王族等ハ皆國會ノ議場ニ到リケレハ路易先ツ議員等ニ告ケ
テ曰ク朕ハ人民カ大罪科ヲ犯スコトヲ制止センカ爲メニ茲ニ到リタ
ルナリ滿場ノ紳士ヨ朕ハ卿等ニ一身ヲ托シテヨリ其安全ヲ覺フルコ
トニ如クモノ莫シ是時議長ベルギヨ一ハ徐ク起テ答辭ヲ呈シ臣ハ
唯國會全躰ノ鞏固ナルヲ特ニ其議員等カ死力ヲ竭シテ此躰ヲ構成セ

ル權カヲ防衛セントノ誓約ヲ成シタルコトヲ信スルノミト謂フタリ王
族等ハ議長ノ傍ニ座ヲ占メタリシカ議員中ヨリ議事ニ障害アリト發
言シタル者アルニ由リ更ニ座ヲ報告官ノ席ニ遷シケレハ宮中ヨリ隨
至セシ親臣等モ其傍ニ座シテ議員等ニ事情ノ委曲ヲ報告シ先ツ暴徒
等カ兇鋒ノ極メテ猖獗ナルコトヲ説キ且ツ宮殿及ヒ内廷等ノ暴徒カ
爲メニ劫略セラレテ王族朝官等カ大ニ危難ヲ被アリタルコトヲ語リケ
レハ議員等ハ直チニ二拾名ノ委員ヲ撰ミテ暴徒等ヲ鎮制セントノ任
ヲ托シタリ
委員等議場ヲ出テ、未タ幾クナラサルニ砲聲頻リニ起リケレハ議員
等之ヲ聞キテ頗ル駭キタリシカ路易ハ獨リ泰然トシテ諸人ニ告ケテ
曰ク朕ハ已ニ瑞西ノ兵士ニ發砲セサルコトヲ命シタレハ交戦ハ速ニ止

國民、自由、平權、皆萬々歳

ムヘシト頻リニ耳ヲ欬テ、之ヲ靜聽セシニ砲銃亂發ノ聲ハ益々盛ニ急報陸續トシテ議場ニ達シ委員等モ一タヒ退引シタリトノ説アリシカハ議長ハ帽ヲ穿テ起テ議員等モ將ニ相率井テ朝廷ニ到リ諸人力ヲ合セテ暴徒ヲ鎮撫セントスルニ至リシキ暴撃ノ勢稍鎮靜シタリトノ報アリシヲ以テ議員等モ始メテ心ヲ安ンシ皆異口同音ニ國民、自由、平權、皆萬々歳トノ聲ヲ唱ヒ起シタリ然ルニ此時暴動ノ實況ハ決シテ全ク鎮定シタルニ非ス國王已ニ宮中ヲ去リテヨリ守衛ノ兵士等ハ忽チ瓦解シテ四散ス可キニ似タリト雖モ兵士及ヒ諸人等ハ概テ國王カ身ヲ國會ニ托シタルコトヲ知ラス又之ヲ知ルモ未タ退去ノ命ヲ奉セサル上ハ輕シク宮殿ノ守衛ヲ撤スルコトヲ敢テセサルニ由リ乱民等ニ向フテ奮戰決闘スル者極メテ多ク假令退去セント欲スルモ其逃路

吾門ニ王宮ヲ交付セヨ

ヲ發見セサルニ由リ防戰頗ル激烈ナリ暴徒等モ亦多クハ國王ノ退去ヲ知ラスシテ暫ク宮門ノ内ニ乱入セサリシカ防戰ノ極メテ烈シキヲ以テ忽チ意ヲ決シテ門内ニ乱入シ隊伍ヲ成シテ戸庭ヲ毀テ牆壁ヲ破リ當ルヲ幸ニ斫リタテ薙キタテ終ニ内廷ニマテ進入シ皆吾門ニ王宮ヲ交付セヨト大呼シタリ暴徒ノ兇饒斯ノ如クニ熾ナルヲ以テ守衛兵モ死力ヲ竭シテ防戰シ殺場相當互ニ雌雄ヲ爭フニ至リケレハ路易ハ之ヲ聞キ再ヒ使者ヲ以テ瑞西ノ兵士ニ發砲ノ禁止ヲ命シタルヨリ其過半ハ直チニ命ヲ奉シテ宮中ヲ退去シタリ然ルニ未タ其命令ヲ聞カサルモノハ尙ホ宮中ニ留マリシカハ暴徒等ハ忽チ之ヲ掩撃シ刀槍斧斤等ヲ以テ之ヲ乱斫シタルニ由リ殆ント爲メニ殲盡セラル、ニ至レリ因テ暴徒等ハ更ニ王宮

悲酸ノ情
人ヲノ雙
袖ヲ濡ホ
サシム

官女等ノ
勇烈ト暴
徒ノ義ヲ
守リ廉ヲ
尚フノト
ハ俱ニ嘉
稱スルニ
足ル

ニ火ヲ放チケレハ烟焰地ヲ卷キテ諸人號哭ノ聲ハ四モニ起リ朝官及
ヒ宮嬪等ノ災福ニ罹ルモノ幾人ナルコトヲ知ル可ラス金殿玉樓モ概
チ一朝ニシテ劫塵ニ委スルニ及ヘリ此間數人ノ官女アリ皆跪キテ劔
ヲ舉ケ死ヲ決シテ抗戰セントスル者ノ如クナリシカハ暴徒ノ一人進
ミ出テ、衆ヲ制シ婦人ヲ殘害シテ國人ノ汚辱ヲ招クト勿レト告ケ終
ニ之ヲ救解シタリ又内廷ノ幣藏ニ貯ヘタル貨幣等ハ毫モ之ヲ盜奪ス
ルコト莫ク盡ク之ヲ國會ニ納附セシトソ

按スルニ史家アリソン氏當時ノ情況ヲ紀シテ曰ク暴徒ノ宮中ニ亂
入スルヤ全ク是レ爭鬪ニ非スシテ實ニ殘殺ナリ苟モ暴徒ノ手ニ掛
ルモノハ盡ク屠戮セラレサルハ莫ク内廷ノ園中ニ匿レタル者ト雖
田樹下池畔若クハ肖像ノ下ニ殺サレタリ數人ノ殘卒アリ園中ニ巍

慘狀中ノ
美談

然トノ壯觀ヲ粧フタル大理石ノ標碑上ニ攀チ登リ僅ニ難ヲ免レン
コトヲ欲シケレハ殘酷ナル暴徒ト雖モ之ニ向フテ銃ヲ放チ併セテ
標碑ヲ毀害セルコトヲ敢テセス因テ銃槍ヲ以テ之ヲ突キ墮シ終ニ
之ヲ殺シタリトソ蓋シ美術ヲ愛護スルノ雅趣ヲ害セスシテ革命亂
ハ慘毒ヲ極メタルハ世界ノ歷史上ニ於テ空前絶後ノ事蹟ト云フヘ
シ云々

國會ハ頻リニ焦思シテ暴徒等ノ動靜如何ヲ知ラント欲シタリシカ幾
回カ凱歌ヲ舉クルノ聲遙ニ聞ヘテ暴徒等已ニ議事堂ノ門外ニ到リケ
レハ直ニ之ヲ議場ニ延キ入レタリ暴徒等ハ王宮ヨリ齎ラシ來リタル
鹵掠品及ヒ俘囚等ヲ出シテ其功勞ヲ誇示スルモノ、如ク恰モ遠征ノ
勇將本國ニ還リテ其偉績ヲ國王ニ奏上スルト同一般ナリ路易及ヒ王

國會終ニ
廢位ノ事
ヲ決議ス

族等ハ皆身ヲ報告官ノ座席中ニ潜メ親シク其實況ヲ目撃シケレハ其
之ニ對シテ悲傷憤悶セルコトハ果シテ如何ソヤ是ニ於テ議長ベルギ
ヨ一ハ起テテ別室ニ入り自ラ國王廢位ノ公令ヲ起艸シ席ニ復リテ之
ヲ議案トナセシニ滿場ノ賛成ヲ得千七百九十二年八月十一日ヲ以テ
終ニ左ノ決議ヲ成シタリ

路易拾六世ハ自今暫ク王權ヲ中止セラル可キ事

皇太子カ教育ノ方案ヲ立ツル事

國民議會ヲ更ニ招聚スル事

惟フニ國王カ權カヲ中止ノ皇太子ノ教育方案ヲ立ツルニ至レハ其ノ
全ク君主政体ヲ顛覆スルノ計畫ハ未ダ曾テ之ヲ講セサルモノ、如シ
ト雖モ其如何ハ決メ之ヲ知ル可ラス又古來連綿タル王權ニ對シテ全ク

前代數王
ノ罪障積
累シテ其
子孫ニ及
フ天道脩
環シテ應
報ノ理自
ラ存スル
ヘシ知ル

之ヲ廢滅スルコトヲ敢テセザリシハ果シテ何ノ疑懼スル所アリテ然
ルヤ且ツ此王權ハ古來佛國人民カ之カ下ニ立チテ休戚利害ヲ被ムリ
タルコト一ナラスト雖モ畢竟幾世ノ間之ヲ仰キテ生榮シタルモノナ
ルニ由リ茲ニ至リテ斷然一朝ニシテ之ヲ廢絶スルヲ能ハサルハ如何
ニ乱世危邦ノ人心ニ於テモ亦稍忍ヒサル所アルニ由ル乎然レモ王權
中止ノ議已ニ行ハレ幾クナラスシテ終ニ之ヲ顛覆スルニ至リ而フシ
テ其顛覆モ前王路易拾一世查禮斯九世及ヒ路易拾四世ノ時ニ在ラス
シテ方正淳良ナル良主路易拾六世ノ身ニ屬シタリ豈千古ノ一大遺憾
ナリト云ハサルヲ得ンヤ
路易拾六世已ニ位ヲ去リテ佛國ノ行政權ハ全ク暫ク廢絶スルモノ、
如ク唯巴理ニ在リテ政權ヲ有シタルモノハ國會ト地方民會トアルノ

ミ而フシテ各地方等ニ於テハ激徒概テ州郡ノ官吏ヲ逐斥シテ自ラ其
 權力ヲ奪有シ彼ノ叛乱ヲ企テタルコト等モ全ク此舉動ヲ以テ之ヲ決
 行シタルノ勢ナルカ故ニ政治上運動ノ實權ハ總テ是等ノ激徒カ手ニ
 落チタルカ如シ渠等ノ已ニ自ラ其志ヲ達シテ漸ク勢力ヲ増スニ至ル
 ヤ外ニ在リテハ恣ニ暴行ヲ逞フシテ價ル所ナク内ニ於テハ國會ノ議
 場中ニ新ニ革命家ノ一黨派ヲ成シ他ノ智慮深遠ニシテ言行ノ稍不活
 潑ナルカ如キ議員ニ對シ常ニ論争シテ己マサリシトソ
 又激徒等ハ先ツ舊政府ニ屬シタル文武大小ノ官吏ヲ罷免シ府尹ベシ
 ヨン等ヲ初メトシ其他苟モ民權家ノ諸官ヲシテ益々其勢力ヲ擴張セ
 シメ而フシテ會議堂ニ安置シタル路易十六世、バイレイ及ヒラフエツ
 ト等ノ半身像ヲ撤去シ以テ新ニ革命事業ヲ更始スルノ意ヲ示シタリ

地方民會中ニハ激論家多クシテ國會議員カ信託ノ因循ナルヲ責メ甚
 シキニ至リテハ目シテ勸王黨ナリト謂フニ至リタレモ當時國會ハ全
 國ノ主權ヲ專有スルノ地位ニ立チタレハ地方民會モ常ニ之ト交通シ
 テ其管制ヲ受ケタリ斯ノ如クシテ大小議會ノ立法權ハ已ニ成立スト
 雖モ王權已ニ廢絶スルカ如キノ際ニ當リテハ必ス之ニ代リテ行政事
 務ヲ執行スルモノヲ置カサルヲ得ス因テ執政官ハ行政議會ノ名ヲ以
 テ假リニ法律ノ實行事務ヲ擔任シ司法總裁官ハ官印ヲ管掌シテ諸般
 ノ公令ニ之ヲ鈐シ且ツ立法官ノ名ヲ以テ之ヲ國中ニ宣布スルノ職ヲ
 執リタリ然レモ内閣ヲ組織シテ之ヲ構成スルノ諸人ヲ撰用スルハ極
 メテ當時ノ急務タルヲ以テ先ツローランドクラピール及ヒセルバン
 ノ三人ヲ舉ゲテ之ニ其職ヲ授ケントノ論ハ蓋シ首トシテ諸人ノ腦裏

時勢反動
ノ機ハ常
ニ斯ノ如
シ

名士ロー
ランド等
新ニ内閣
ヲ組織ス

革命ノ新
事業ヲ企
圖スルニ
當リテ尙
ホ是等ノ
庸才ヲ内
閣ニ登用
ス何ソ況
ンヤ勳閥
相倚ルノ
政府ニ於
テヲヤ

ニ生シタルノ威觸ナルヘシ此三人ハ曾テ相位ニ在リタレモ唯其主義
ノ自由民權ヲ重ニスルトノ故ヲ以テ一朝官ヲ去リテ野ニ立チタル者
ナレハ革命事業更始ノ時ニ當リテハ首トシ之ヲ登用スルコト固ヨリ
當然ノ事ナリ
故ヲ以テ三人ハ輿望ニ由リ再ヒ内閣ニ入リローランドハ内務卿セル
パンハ軍務卿クラピールハ大藏卿ト各其職任ヲ定メタリシカ司法外
務及ヒ海軍ノ諸長官ハ未タ其人ヲ得サルニ由リダントンヲ擧ケテ司
法卿ト爲サントノ議ヲ起スニ至レリダントン己ニ一般人民ニ對シテ
大ニ聲望ヲ收メ且ツ激徒中ニ於テモ常ニ領袖ノ地位ニ立チタル者ナ
レハ假令ギロンダン黨員ニ對シテハ頗ル歡心ヲ失フタレトモ擧
投票ニ於テ二百八拾四人ノ總數中二百二拾二人ノ同意ニテ終ニ其職

ニ就キタリ又海軍卿ニハ學識深遠ノ人ヲ得ントノ論アリシカゴンド
ルスノ門下ヨリ出テタル著名ナル數學家モンギーハ其師ノ推薦ヲ以
テ此官ニ上リケレハ朝野皆其人ヲ得タルコトヲ祝シタリ獨リ海軍卿
ト爲リタルレブロンハ從來深慮家ナリトノ稱ヲ得タレモ其實ハ毫モ
熱切ノ志情ヲ有セス又能者ナリトノ評アレモ稍刀筆ハ才アルハミニ
シテ全ク氣力材智及ヒ果斷ヲ闕キタル人ナレハ唯前任者ノ勵精シテ
百務ヲ整理シタルノ後ヲ承ケ僅ニ能ク其職ヲ持チタルノミ
行政官ノ組織己ニ斯ノ如ク成リケレハ國會ハ更ニ曾テ議定セシ所ノ
諸公令ニ對ノ路易カ之ヲ認可セサリシモノハ此ニ至リテ法律ノ効力
ヲ有ス可キヲ公布シ其他巴理ニ於テハ中央政府ノ改革略ハ行ハレ
タルニ由リ是ヨリ地方政務ノ改革ヲ行ヘ各地ニ派遣セシ將校兵士等

讀テ玆ニ
至リ誰カニ
酸鼻セサ
ルモノア
ラシ

ノ黜陟ヲ決行スルニ及ヒタリ殊ニ王家ノ爲メニ死力ヲ盡シタル瑞西
ノ軍隊等ハ必ス嚴刑ニ處セラルヘシトノ論四方ヨリ起リテ之ヲ請願
スルモノ陸續トシテ國會ニ集マリタリ故ヲ以テ國會ニ於テハ朝廷カ
陰圖ノ在ル所ヲ論シテ罪ヲ王族ニ歸スルノ議方ニ盛ナリシカ路易ハ
尙ホ議場ノ傍ナル報告官ノ座席ニ在リテ始終之ヲ聞知シタリ其初メ
テ此席ニ就キシヨリ已ニ拾數時間ヲ經タルヲ以テ困倦自ラ堪ユルコ
ト能ハス議員等ニ請フテ僅ニ王族等ト數時間ノ休憩ヲ取リタレト王
子等ハ皆疲困シテ頻リニ熟睡シエリサベス夫人ハ女皇ノ傍ニ在リテ
潜々涕泣シ眼睛爲メニ赤色ヲ帶ヒタリ

第二拾回

人ノ情炎益々激スルニ及ヒテハ寸ヲ增シ尺ヲ伸ヘテ終一底止スル所

ヲ知ラス此性之ヲ善道ニ利用スレハ其功績ハ測ル可ラスト雖也若之
ヲ惡徳ニ及ホスニ至レハ幾何カソレ豺狼厭クナキノ兇行ニ陥井ラサ
ルモノソ佛國當時ノ暴民等ハ業已ニ國王ノ位ヲ廢シテ尙ホ自ラ滿意
スルヲ能ハス更ニ永ク王權ヲ全廢セントノ議論愈々熾ナリシカハ國
會ニ向フテ之ヲ請願スルモノ日ニ絶ヘス國會ハ未タ之ヲ議定スルニ
至ラサルモ其ノ新ニ國民議會ヲ開クノ期已ニ遠カラサルヲ以テ先ツ
王族等ヲ禁錮スルノ所ヲ定メ之ヲ國會ノ議場ヨリ他地ニ移シタリ斯
クシテ國王ハ實ニ囚虜ノ身ト爲リ三大臣ハ再ヒ其職ニ復シダント
顯官ニ昇リテペシヨン益々民望ヲ收メ人民ノ父親トノ稱ヲ受クルニ
至リマラーハ公然マルセルノ人民ヲ率井テ巴理ヲ橫行スルニ至リ
ケレハロベスピールモ「ヂヤコピン」社中ニ於テ現時ノ國會ヲ解散シ且

人民ノ父
親

「ヂヤコ
ヒン」政
社ノ空想
暴論此ニ

ツラフエツトカ罪ヲ彈劾セントノ計畫ヲ務メタリトソ
 是時國會ノ議論ハ全ク民間政社ノ希望スル所ト相背馳シ國會ハ自ラ
 時ヲ期シテ王權ノ中止ヲ議定シタレモ政社ハ廢位論ヲ主唱シ又甲ハ
 王權永續ノ意見ヲ立テ、皇太子ノ傳官ヲ撰任シタレモ乙ハ全ク民主
 政治ヲ熱望シ其他外國ノ兵ニ對シテハ唯之ヲ防禦セントノ論國會ニ
 於テ過半數ヲ占メタレモ政社ニ於テハ苟モ内地ニ入リテ人民ニ抗拒
 シタル外國ノ兵ハ盡ク之ヲ峻刑ニ處スヘシトノ議ヲ確持シテ動カス
 斯ノ如ク政社ノ論愈々激烈ヲ加フルニ及ヒケレハ新ニ議會ヲ構成ス
 ルニ當リテモ撰舉躰ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ要セス人民一般盡ク
 發言ノ權利ヲ有セントノ說ヲ立ツルニ至レリ殊ニ「ヂヤコヒン」社中ニ
 於テハ婦女子ニ參政權ヲ附與セントヲ發議シ甚シキハ人民若シ立法
 官ニ對シテ其志情ヲ陳述セントスルモハ當ニ兵器ヲ執リテ議場ニ
 上ルヘシトノ暴論ヲ起シ羣々トシテ頻リニ之ヲ唱說シタリトソ
 既ニ前回ニ說キタルカ如ク「マラト」ハ夙ニ暴烈ナル方略ヲ尙ヒテ佛國
 ヲ掃蕩シ以テ汚穢ヲ滌除センコトヲ望ミタルカ故ニ務メテ民心ヲ煽
 起シ復讐ノ念ヲ抱カシメンコトヲ期シタリシカロベスピドルハ之ト
 異ニシテ全國ヲ掃蕩スルノ志及ヒ斬殺屠戮シテ目的ヲ達スルノ念ヲ
 有セス但現時ノ國會議員ヲ嚮劣無氣力ナリ又ハ王權主義ナリト誅毀
 シテ自ラ之ニ代ハランコトヲ望ミタルカ如ク且ツ向キニ社中ニ於テ
 政府ノ總理官ニ舉ケントノ論ヲ唱フル者アルニ至リシカハ其民望ヲ
 繫ク一益々深ク此ニ至リテ雄辯家ヲ以テ稱セラレ又方正潔白ナル民
 權家ナリトノ譽ヲ受ケタルハ復々其右ニ出ツルモノナシ然ルニダシ

兩政治家
ノ本領全
ク相異ナ
ル所ハ實
ニ茲ニ在
リニ者相
混和シテ
善ク之ヲ
節制セハ
便チ完全
無缺ナラ

是レ政治
家カ自ラ
戒飭セサ
ル可ヲサ
ル所以ニ
シテ又古
今嘆ヲ同
フスルモ
ノナリト
ス

トシハ名譽利達両ツナカラ全ク意ニ介セサルカ如ク但當時ノ行政官
ヲ制御シテ自ラ大權ヲ左右シ國會議員等カ議論ノ如何ハ毫モ之ヲ意
トセスシテ深ク心ヲ下等庶民ノ歡情ヲ得ルヲニ用非之ヲ以テ實ニ全
ク革命ノ事業ヲ保持シ又ハ大成スルノ用ニ供セントス諸士各斯ノ如
クシテ世ニ顯ハル、ニ當リベシヨシハ概テ穩當ノ説ヲ持テ暴激ノ言
行ヲ是認セサリシモ亦之ヲ救済スルノ勢力ナキニ由リ此間ニ立チテ
漸ク其聲望ヲ失ハントスルニ至レリトソ
是時ヨリシテ「ヂヤコピン」政社ト「巴理民會」トハ常ニ聯立シ革命ノ機關
ト爲リ先ツ政府ノ要務ハ概テ「ヂヤコピン」社中ノ發及ヒ論定ヲ經サル
モノ莫ク社中ニ於テ審議駁論ヲ盡シタルノ後チ同一ノ社員自ラ政府
ニ立チテ之ヲ決行スルニ至レリ又民會ノ如キモ其體段ハ殆ント國會

ロバスピ
ルカ如ク
望ルカ如
ルカ如ク
見ルカ如
シルカ如

ト同一ニシテ論客辯士ノ調敷ト爲リロバスピトル之カ領袖ト爲リテ
獨リ大權ヲ專有セリ何ヤ「八月十日」ノ變亂ニ當リテ全ク之ヲ關係
スルモノ一旦來リテ國會ニ加ヘリヨリ其驕傲自矜ナルヲ却テ諸人
ノ激進ヲ致スニ足ル敏才廉正及ヒ忍耐セリトノ譽譽日ニ隆起シ會員
等ハ他表ニ向フテ之ヲ諷稱スルニ至リケレハ國會新ニ開ケルニ及ヒ
テハ其本ニ加ハルモノ期シテ待ツヘク且其間ニ立チテハ會中社中
ニ在リテ言論上ノ勢力ヲ有スルニ止マラス必ズ其實權ヲ掌握スルヤ
固ヨリ自ラ期スル所ニシテ他人亦之ヲ認許セシナラズ
是ヨリ先キ國內警察ノ政務ヲ治安裁判所ノ管掌スル所ニ爲リ頻リニ
都部中ノ頭角ヲ顯ハシタル論客辯士等ヲ繁獄成刑セシヲ以テ輿論ハ
大ニ之ヲ非難シタルニ由リ該裁判所ハ終ニ廢絶スルニ至リケレハ國

巴理民會
警察權ヲ
掌握セシ
トス

警察權強
大ナルノ
成績ハ此
極度達セ

ノ般鑑ニ
非スヤ

内多事ノ際警察事務ノ須要ナル全ク之ヲ忽諸スルヲ得本因テ巴理
民會ハ首トシテ此權ヲ掌中ニ收メシテハ務ハナリシカ國會ハ此事
務ノ名稱ヲ變シテ一般ノ安寧ヲ保持セル警察ト爲シ之ヲ各地方官ニ
委任セントス其職務タル先ツ内外ノ安寧ヲ監護シ國民中苟モ其言論
舉動ハ嫌疑ニ觸ルルモノハ豫メ其名簿ヲ作り置キ時々或ハ之ヲ拘引
シ或ハ其集會ヲ解散シ或ハ其武器等ヲ沒收シ以テ大ニ人民ガ政治
ハ運動ヲ限制シタリ其權力ノ強大ナルコト斯ノ如キヲ以テ常備兵ハ
常ニ其用ニ供スルヲ準備スナシ地方官ノ之カ職務ニ關スルモノニ其
人々多クニ至レリ此強大ナル警察權ノ威力ハ日ニ益々擴張シテ廢止
スル所ヲ知ラズ幾クナラカシテ殘忍酷烈ナル處刑ヲ斷行スルニ及
爲メニ曠古ノ禍害ヲ醸成スルノ基ヲ開キタリシカ國會ハ當時之ヲ前

知スルヲ得サリシトユリ惜ムヘキナリ

巴理民會ハ是ヨリ此警察權ヲ掌有シテ先ツ嫌疑アルモノノ數人ヲ逮捕
シ益々其權力ヲ振興セントス殊ニ其會員中ニハ極メテ狂暴ナル者多
クハ特務委員ト爲リマラーノ如キハ其委員長ト爲リテ職權ヲ振ヘケ
レハ諸人皆憚々トシテ其怒ニ觸レシコトヲ畏レサルハ莫ク又此委員
ノ外ニ各小區ニ他ノ委員ヲ置キ苟モ旅行ニテ府外ニ出ヅル者ノ通行
券ハ小區會議ニテ之ヲ認許スルニ非レハ交付スルヲ得ス己ニ之ヲ
交付シタル上モ二名ノ保證人アリテ之ニ同伴シ以テ都門ニ到ルニ非
レハ之カ通行ヲ許サ、ルノ制ヲ立テ此嚴則ヲ以テ嫌疑ニ觸レタル諸
人カ逃脫ヲ防キタリ其他曾テ革命ノ事業ニ反對ノ意見ヲ立テタル者
ノ名簿ヲ造リ以テ漸ク其罪ヲ論定セントシ且ツ向キニ王權主義ヲ奉

シタル新聞記者ヲ逮捕シ其印刷器械ハ盡ク之ヲ民權記者ニ付與スヘ
 シトハ令ヲ布キケレハマラーハ直チニ四種ノ印刷器械ヲ所有スルヲ
 得テ是レ叛逆人ヲフエツトヨリ余ニ附與シタルモノナリト謂ヘ之
 ヲ諸人ニ誇示シタリトソ又委員等ハ言論ヲ以テ朝廷ノ忌諱ニ觸レ爲
 メニ囹圄ニ繫カレタル諸人ヲ解放シ其他力ノ及フ所ハ百事ニ干涉ス
 ルノ意ヲ以テ人ヲラフエツトノ本營ニ遣ハシ其將士等ガ志ヲ變セン
 一ヲ望ミタリ
 然レモ民會カ最モ意ヲ留メタルコトハ王族護衛ノ件ニ在リ而フシテ
 警察ノ事務ハ其自ラ專撥スル所ナルヲ以テ苟モ王族カ安全ヲ圖ラシ
 ト欲セハ之ヲ一寺院ニ遷スニ如クハナシトノ議ヲ主唱セシカハ國會
 モ之ヲ承認シタルニ由リ終ニ之ヲ決行シタリ此寺院ニハ拾二名ノ委

員宿衛ノ晝夜間斷ナク之ヲ監護シ又門衛アリテ嚴ク出入ヲ檢核シ地
 方官ノ許可ヲ得セレハ何人モ復タ内ニ入ルコトヲ許セス又國會ハ次
 回新ニ議會ヲ招集スルマデハ五拾萬「フラン」ノ財資ヲ以テ王族ノ用度
 ニ供センコトヲ公布シタリ民會ノ職權ハ斯ノ如ク廣大ニシテ百事ニ
 干涉シ苟モ中央政府ノ事業ニシテ稍緩慢ニ涉リ若クハ滿意セサルコ
 アルニ當リテハ直チニ自ラ進ミテ急ニ之ヲ蠶食スルノ勢ヲ爲シケレ
 ハ國會ハ此非常無限ノ權力ヲ節制スルノ必要ヲシ感シ別ニ地方議會
 ヲ設置シ以テ權力ヲ分タシテ欲シタリ民會ノ委員等ハ此說ヲ聞キ
 テ大ニ異議ヲ主張シ先ツ已ニ著手シタル地方議會ノ撰舉ニ中止ヲ命
 シ且ツ國會ニ向フテ論シテ曰ク巴理府民ノ代議員ハ必ス無限ノ權力
 ヲ有セサル可ラス若シ此代議員ト國會トノ間ニ別ニ新權力ヲ創置ス

ルニアラハ適々以テ四分五裂ノ禍ヲ臨胎スルニ足ルノミ人民若シ自
 己カ主權ヲ破壊スヘキ權カヲ制服セント欲セハ焉ソ尙ホ益々氣力ヲ
 勵マシテ自ラ勢威ヲ振張セサルコトヲ得ンヤト其勢儀ノ猖獗ナルコ
 ト斯ノ如クナリシカハ國會ハ之ヲ制御スルノ實力ヲ闕キタルカ又ハ
 暫ク其銳鋒ヲ避ケテ爭端ヲ生スルコトヲ好マサルニヤ終ニ其說ヲ容納
 シテ大ニ地方議會ノ權カヲ限制シ唯財務出納ノ事件ノミヲ管掌スル
 ノ職權ヲ授ケタリトソ

是ヨリ先々八月十日ノ暴動ニ當リテ瑞西ノ兵士等ハ王宮ヲ護衛シテ
 人民ニ抗戰シケレハ民會ハ之ヲ叛逆人ト爲シテ罪ヲ論セント主張シ
 國會ハ之ニ異議ヲ唱ヘケレハ民間ノ議論ハ概テ民會ノ論ヲ贊成シ嗽
 ヲトシテ彼兵士等ヲ嚴刑ニ處センコトヲ望ミ八月十日ノ謀叛人若ク

民會ノ志
 望ハ唯罪
 犯ノ區域
 ヲ廣メシ
 ヲ欲スル
 此區域一
 タヒ廣マ
 リテ巴理

ハ國事犯人ト公言シテ民會ノ議ヲ支持シケレハ民會ハ是ニ於テ非常
 審院ヲ設ケテ之カ判決ヲ執行セシコトヲ要シタレト國會ハ之ヲ承認セ
 ス唯八月十日ノ罪犯ヲ審理スルノ通常審廳ヲ新置セシコトヲ許シタ
 ルノミ因テ民會ハ更ニ委員ヲ國會ニ出シロハスセイイル之カ主任ト爲
 リ議場ニ到リ大ニ激論シテ云ク凡人民ノ安寧ハ唯罪犯者ヲ誅罰スル
 ニ依リテ之ヲ得ヘキノミ然ルニ今ヤ卿等ハ毫モ此事ニ就キテ力ヲ盡
 サス卿等カ公令ハ其目的ヲ達スルニ足ラス罪犯ノ性質ト區域ト已ニ
 明白ナラスシテ唯八月十日ノ罪跡ノミヲ特舉セリ是レ果シテ何事ソ
 ヤ革命ニ反對セルモノハ罰犯ハ唯八月十日ト巴理トニ於ケルモノニ
 止ヤラサルナリ請フ吾人自ラ主權ヲ有シテ罪犯者ヲ審理シ其控訴ヲ
 許サスシテ國家ノ叛賊ヲ誅戮セン云々

市街ハ骨
ヲ積ミ血
ヲ漲ラス
ニ至レリ

國會ハ此暴烈ナル議論ニ對シテ毫モ持説ヲ動カサス非常審院ヲ設ク
ルトハ唯擅制政治ニ適スルコトニシテ自由人民ノ之ヲ實施スヘキモ
ノニ非スト公正無偏ノ議ヲ立テ、之ヲ峻拒シタレハ民會ハ却リテ益
々其激論ノ熱度ヲ高クシ動モスレハ唯警鐘ヲ擊テテ再ヒ騷乱ヲ起サ
ンコトヲ欲シタルモノ、如シ因テ民會ノ一委員ハ再ヒ國會ニ出テ、
陳説シテ云ク余ハ人民ノ理事者タリ又府民タルノ資格ヲ以テ卿等ニ
申報スル所アリ今夜十二時ヲ以テ警鐘ヲ連打スヘキニ由リ府民等
之カ爲メニ動搖スルコトナカラシム望ム此際人民ハ自ラ記者ヲ審理ス
ルノ務ヲ執ラントスルカ故ニ卿等モ此旨ヲ諒シテ各區ニ公令ヲ布キ
刑事審院ヲ創置シテ府民等ニ其職任ヲ授ケンコトヲ要ス下其語氣斯
ノ如クニシテ非常審院ノ創設ハ己ニ自ラ確定シタルモノ、如クナリ

非常審院
ノ創置ヲ
議決ス

八月十七
日ノ審院

シカハ議員等カヲ極メテ之ヲ排撃シタル者アリ議論沸騰シテ決セザ
リシカ其間最モ激論ニ熱中セル議員等ハ終ニ此要請ヲ容レテ公令ヲ
發スルコトニ同意シケレハ結局非常審院ヲ創置スルノ議ヲ定メ八月十
日ハ犯罪及ヒ之ニ連係セル他ノ犯罪ト事蹟トハ總テ該院ニテ之ヲ審
理スルコトシ、該院ヲ二局ニ分テテ終決ノ宣告ヲ下シ之カ審理ニ對シ
テハ控訴上告ヲ許サス下ノ制ヲ立テタリ是即チ革命審院ノ萌芽ト爲
リ他日暴虐無道ノ審判ヲ決行スルノ基ヲ開キタルモノニシテ當時ハ
之ヲ八月十七日ノ審院ト稱シタリトソ
巴理ノ動靜ハ己ニ斯ノ如クニ革命土ニ新面目ヲ成シタリシカ國境等
各地ニ屯戍セル軍隊ハ八月十日ノ公令ヲ聞知セシヨリ如何ナル情態
ヲ現ハシタラント云フニ從來國境ノ屯戍兵ハ北部中央部及ヒ南部ノ

三營ニ分レルツツチルヲフエツト及ヒモンテスキャウノ三將各逐次ニ
 之カ總督ト爲リシカ近來戰鬪ヲ休メテ曠日彌久ノ勢ヲナシタルニ由
 リ各人唯日ニ巴理ノ情況如何ヲ想望スルノミ就中ヲフエツトハ一旦
 宮闕ヲ辭シ遠ク身ヲ邊塞烽火ノ間ニ置キシヨリ國家ノ危難日ニ迫ル
 ヲ聞キ毎ニ國王カ安否如何ヲ痛憂シ日夜縫紉ノ情ニ堪ヘサルヲ以テ
 自ラ巴理ニ接近セル北部ノ總督ト爲ランヲ欲シタレハ兵士等ノ深
 グ心ヲ歸シテ信服セルヲ以テ之ヲ離ル、ニ忍ヒス此際偶々八月十日
 ノ變起リテ國會ヨリ委員ヲ派出シ國王廢位ノ事ヲ報告シテ將士等カ
 新ニ誓約ヲ立テシテ要シケレハラフエツトハ先ツ其地方官ニ命ジ
 直チニ委員等ヲ逮捕セシメ且ツ之ヲシテ先ツ當日ノ情況等ヲ委曲ニ
 尋問シ終ニ左ノ命令ヲ下サシメテ云ク王權中止ハ公令已ニ行ハレタ

令然ト命
 シテ犯ス
 可ラス

ル上ハ國會ハ復タ本分ノ自由ヲ有スヘキモノニ非ス其委員等ハ唯是
 レ一黨派ノ諸人ヨリ派出シタルモノト認ム可シ故ヲ以テ委員等ハ當
 ニ國憲ノ名ヲ以テ直ニ禁錮ヲ命スヘシト因テ委員等ヲ獄中ニ投シ且
 ツ是等ノ處置ニ就キテハラフエツト獨リ自ラ其實ニ任センコトヲ決
 シタリ是ヨリ幾クナラスシテラフエツトハ麾下ノ兵士ニ國法及ヒ國
 王ニ對シテ忠誠無貳ナリトノ誓約ヲ再宣セシメ其他苟モ指令ヲ奉シ
 タル諸人及ヒ七拾餘ノ州郡ヲシテ盡ク心ヲ屬セシメケレハ此勢ニ乘
 シテ自ラ八月十日ノ舉動ニ反對セル事業ヲ舉ケント欲シタリシカ將
 校中ニテ共ニ心カヲ竭サンコトヲ欲シタルモノハザロン等ニシテザ
 ウモリスノ如キハ幡然志ヲ改メテ激徒等ト相合跡シ專ラ八月十日ノ
 舉動ヲ贊成スルニ至レリ既ニシテ非常審院ノ設立モ遠近同時ニ行ハ

ラフエツトノ罪ヲ論シテ國事犯トナス

レ激徒等ハ是ヨリ方ニ且ツ其兇行ヲ逞フセントスルノ際ニ當リラフエツトノ軍營ニテ委員等ヲ逮捕セリトノ報アリ國會ノ權力ハ復々實際ニ行ハレストノ旨ヲ傳ヘケレハ國會議員等ハ勃然トシテ大ニ怒リラフエツトヲ彈斥スルノ聲四隅ヨリ起リテ直チニ其大罪ヲ論セントノヲ發議セシカ先ツ新ニ委員ヲ遣ハシテ前委員ノ繫獄ヲ解放セントノ議ヲ決シ次ニラフエツトノ罪ヲ論シテ國事犯ナリト爲シタリ

第廿一回

國會中ノ民主政黨ハ已ニラフエツトヲ叛逆人ナリト公言シラフエツトハ王權ノ停止ヨリ眼中復々國會ナシト断定シ麾下ノ立憲黨諸人ト力ヲ合セテ恢復ノ事業ヲ興サンコトヲ欲シケレハ彼此相分離ノ爲メニ内訌ヲ生シ革命ノ事業モ中道ニシテ墮壞シ境外ノ敵兵ハ此機ニ乘シ

孤忠天地
レニ容レテ
轉刺茲ニ

孤忠天地
レニ容レテ
轉刺茲ニ

テ内地ニ進入セントスルノ勢ナリシカラフエツト己ニ内外ニ敵ヲ受ケテ之ヲ防禦スルコト極メテ困難ナルノミナラス麾下ノ兵士ハ縱令素ヨリ死力ヲ竭サントノ志ヲ懷ケリト雖も人々自ラ一定ノ意見ヲ立テタル者ニ非ス但命令ヲ奉シテ進退スルモノナルニ由リ一旦激烈ナル變乱ニ際シテ敵ノ兵鋒銳利ナレハ幡然志ヲ變シテ才ヲ倒ニスルニ至ルヘシ内外ノ情勢斯ノ如キヲ以テ勇武絶倫ナルラフエツトト雖も輕シク事ヲ舉クルヲ得ス稍躊躇スルモノ、如クナリシニ國會ハ之ニ反シテ頻ニ委員ヲ派シ兵士等ニ向フテ利害ヲ説キ專ラ其心ヲ動かサント欲シケレハ兵士等モ漸ク異圖ヲ抱キテラフエツトニ叛キ往々委員等ノ説ク所ニ從ヘ營中ヨリ逃脫スル者多キニ至リタルヨリ營中ニ留マリタルモノハラフエツトカ親任セル將校及ヒ立憲主義ヲ執リタル

至ル其心
事ヲ察ス
ハ離レ
カ痛哭長
嘆セサラ

危難ノ際
尙ホ用意
ノ厚キヲ
知ルニ足

數人兵士アルハミ

是ニ於テヲフエツトハ國會ノ委員ニ抗拒セシキ共ニカヲ盡シタル地
方官等ニ書簡ヲ留メテ自ラ之カ責ニ當ルノ意ヲ表明シ終ニ意ヲ決メ
同志ノ將士等數人ト八月廿日ヲ以テ兵營ヲ出テ營中ノ殘兵ニハ後事
ヲ整頓スヘキ令ヲ下シ各人僅ニ一ヶ月ノ俸給ヲ懐ニシテ營中ヨリ軍
馬等ヲ牽キ去ラス危急ノ際ト雖モ自ラ廉潔ヲ守リタルノ意ヲ示シタ
リ翌日ハ馬ニ跨リテ路ヲニイザラントニ取り行クテ數里ニシテ埃
斯利ノ軍營ニ達シタリシニ守兵ハ直チニヲフエツト等ヲ囚虜ナリト
爲シ極メテ不敬ノ待遇ヲ爲シタリ是等ノ舉動ハ苟モ國民ノ權利ヲ重
ンスル者ノ尤モ愼ム可キ所ナルニ拘ハラス同盟兵ノ營中ニテヲフエ
ツトカ貴族黨諸人ノ爲メニ囚虜ト爲リシトヲ聞キシヨリ大ニ之ヲ悅

滿腔子唯
是レ忠義
ト自由ト
ヲ愛重ス
ルノ熱血
ヲ以テ之
ヲ填充ス

ヒタリシカラフエツト等ハ自由ニ旅行スルコトハ本分ノ權利タルコトヲ
説キテ頻リニ不敬ノ待遇ヲ責メタレモ同盟兵等ハ之ヲ承認セズ但若
シ平素ノ持論ヲ改メ彼ノ貴族ヲ廢除セントノ説ヲ取消シタランコトハ
直チニ解放ヲ命スヘシトテ百方之ヲ威迫シタレモヲフエツトハ毫モ
之ガ爲メニ心ヲ動カサス如何ナル辛楚ヲ嘗ムルモ固ク大節ヲ守ラシ
コトヲ決シタリ故ヲ以テ此際自ラ自由ノ眞理ハ内外諸國ノ間ニ煙滅シ
タリト念フタリト雖モ其精神ノ堅確ナルヲ舊時ノ如ク自由ヲ以テ最
大幸福ト爲シ既ニ己レヲ囚圍ニ投シタル諸人ニ向フテ之ヲ呪々スル
ノミナラス又本國ノ舊友等ニ書ヲ裁シテ云ク「國家艱難ノ際ニ當リテ
モ請フ永ク自由ヲ愛重シ以テ國家ニ忠誠ヲ竭セヨ」ト其忠肝義膽國家
ヲ愛シ自由ヲ重ンスルノ大節ハ凜々トシテ秋霜烈日ノ如シ之ヲ彼ノ

國ヲ去リテ身ヲ敵人ニ委子又ハ志ヲ變シテ激徒等合夥セル狗鼠輩ニ
 比スレハ百歳ノ後青史ノ上ニ於テモ其榮辱果シテ如何ソヤ嗟乎大丈
 夫ノ尤モ重ンスヘキ所ノモノハ唯志操ノ森フ可ラサルニ在ル耳
 是時ニ當リテ孛國等聯合ノ諸軍ハ八月十日ノ變ヲ聞キ又氣候漸ク寒
 冷ナラントスルヲ以テ大舉シテ入寇セントヲ欲シタレモ歐洲諸邦ノ
 情勢ハ舊時ノ如ク英吉利荷蘭匈抹瑞士瑞甸伊太利西班牙等ハ盡ク局
 外中立ヲ守リタルモノ、如ク但露西亞孛魯西埃士利ノ三國ニ對ノ敵
 意ヲ挾ミ殊ニ孛澳兩國ハ已ニ久シク兵ヲ境外ニ出シ常ニ乘スヘキノ
 勢ヲ伺フニ當リ内地ノ兵備ハラフツトカ本營ヲ去リシヨリ大ニ其勢
 カヲ墮シケレハ若シ一朝聯合軍ノ大舉入寇スルヲアラハ巴理ハ瞬息
 ノ間ニ敵ノ有ト爲リ中央政府ハ必ス地位ヲ他ノ地方ニ遷サ、ルヲヲ

得ス且ツ聯合軍ノ兵鋒漸ク強ケレハ勤王黨ノ再燃ノ勢力ヲ振フイ是
 レ自然ノ數ニシテ民權黨ハ之カ爲メニ危急ノ情態ヲ現ハス二期シテ
 待ツヘシ是ニ於テカ巴理ノ民心ハ日ニ益々洶々トシテ危難ノ勢愈々迫
 ルヲ聞ク毎ニ狂奔激發スルヲ日ヲ遂フテ熾シテ殆ント底止スル所ヲ
 知ル可ラス國境ニ於テハ將士等ハ孛兵ニ對シテ日ニ軍備ヲ整頓スル
 ニ都會ニ在リテハ人民方ニ王權黨ノ再興シテ自己ノ自由ヲ破壞セシ
 ヲ長レ皆謂ラク國王已ニ俘囚ノ身ト爲リタレモ勤王黨若シ再興セ
 ハ國王ヲ解放シテ敵兵ヲ巴理府内ニ誘導シ諸人相圍聚シ本國ノ政權
 又擅ニシ到底佛國ハ移住貴族ト聯合軍トノ爲メニ蹂躪シ去ラザルヘシ
 ト外患内憂交モ眼前ニ迫リタルノ想ヲナシ此想像ノ刺戟ヨリシテ如
 何ナル慘烈酷薄ナル活劇ヲ演シ來ルヤ復々知ル可ラス

至レリ況ニ
至他ノ凡
庸政治家
ニシテ威
勳ノ威
ヲ持テ者
ヲ正議
ノ士何ソ
ローラン
ドヲ學バ
サル

シ、以テ威福ヲ握ルニスルヲ術ヒタルダントト雖モローランドニ對シテハ一步ヲ讓ラサルヲ得ス常ニ怙々トシテ無抑ヲ覺ヘタリシキ
ロトランドカ夙ニ中外ノ聲望ヲ得テ輕シク其地位ヲ失フ可ラサルニ
由リ敢テ之ト爭隙ヲ啓クヲ欲セス因テ是ヨリ一意ニ下等人民ノ敵
心ヲ収メメテヲ欲シ之ヲ以テ大事ヲ成就スルノ基ニ供セントノ志ヲ
抱キケレハ身ハ司法卿ノ顯職ニ立チテ政府ニ在リテハ無變ノ威權ヲ
有シタルニ拘ハラヌ常ニ下等賤民ト往來ノ交情日ニ益々親密ト爲ル
巴理市街亂民ノ間ニ在リテ最モ有力ナル巨魁ト仰カル、ニ至リテキ
ハ諸人ニ對シテ常ニ在暴悻戾ナル革命的ノ熱心ヲ以テ之ヲ鼓動シ吾
人ハ今ニ至リテ一步モ自ラ退ク可カラヌ吾人ハ此大都ノ破壞者ナル中
ニ於テ死ニ就ク可クヘシ然レモ吾人ハ警敵ハ必ス之ニ先キテテテ誠

大小内外
協同シテ
能ク暴權
ヲ抑制ス
ルヲ得
ヘシ是レ
實ニ後世
ノ鑑ナリ

ハス可シト語リテ益々亂民等カ精神ヲ激勵セシトソ
按スルニダントンカ政府ニ在リテ爛々タル電報ヲ開キ諸同僚ヲ一
顧スレハ人皆心悸シ膽奪ハレ戰々トシテ股票シ復タ一語ヲ發スル
モノ莫ク奔走駭汗シテ其指令ニ供シタルニ由リダントンカ威權ヲ
振フタル慣用ノ手段ハ唯他人ヲ畏怖セシメテ之ヲ駕御スルニ在リ
然レモ執政官ローランドクハビイルハ政府ニ在リテ自ラ協同セル
一黨派ヲ樹テ而フシテ國會ノ議員ニ於テハブリソールバロー之
ヲ贊助シ地方官ニ於テハベシヨンヌール之ト協同シタルヲ以テ
能ク其暴勢ニ抗拒スルヲ得タリト云フ
是ヨリ先キ澳學聯合ノ軍隊ハ已ニロングウイヲ陷井レタリトノ報ア
リテ巴理ノ民心大ニ動搖セシカ此ニ至リテ此敗報ノ確實ナルヲ審

ニシ該地ハ敵兵ヨリ二三時間ヲ砲撃ヲ被ムリテ直ニ城門ヲ開キ降伏セリトノナリシカハ國會ハ之ヲ聞キテ爲メニ戒嚴ノ令ヲ下シ且ツ民會ノ請求ヲ容レテ巴理及ヒ近傍各市邑ヨリ數百ノ間ニ武器糧仗等ヲ具ヘタル兵士三萬人ヲ出スヘシトノ公令ヲ發行シタリ又巴理ノ近傍ニハ俄カニ軍營ヲ建築セントテ工事ヲ起シタリシニ壯丁ハ勿論婦女子ニ至ル迄外敵防禦ノ準備ヲ扶助セントテ皆四方ヨリ集マリタルヲ以テ瞬息ノ間ニ諸般ノ兵備ヲ整頓シタリ是時ダントンハ先ツ民會ニ遣リ非常ノ方畧ヲ立テ、都下ノ警敵ヲ殲滅セントヲ説キ各區中苟モ氣力アル諸人ノ名簿ヲ作りテ之ニ俸給ト武器トヲ附與セントヲ議定シ次ニ嫌疑ニ觸ルヘキ諸人ハ總テ其武器ヲ沒收シ且ツ之ヲ逮捕スヘシ彼ノ六月廿日ノ事ニ反對シ又巴理近傍ニ兵營ヲ設ケレハ議ニ同

私宅探偵

意セカリシ者ハ何人ニ論ナク一切嫌疑ニ觸ル、モハト断定シ私宅探偵ノ方法ヲ以テ之ヲ實行セントハ、トヲ決議シケレハ、之ヨリ四拾八時間ヲ期シテ四方ノ要路ニ欄柵ヲ樹テ凡ソ何人ニ論ナク如何ナル要件アリトモ決シテ都外ニ出ツルトヲ許サス河口ニハ警固船アリテ嚴密ニ諸人ノ逃脫ヲ禁防シ又各地ノ民會員ハ田野及ヒ道路ニテ會遇シタル諸人ヲ拘留スヘキ命令ヲ受ケ斯ノ如ク逃脫ヲ防制スルノ準備已ニ完成シタル後ハ私宅探偵ヲ舉行スルノ號報トシテ大鼓ヲ鳴ラシ此號報ヲ聞キタル後ハ諸人皆必ス自宅ニ居留セサル可ラス萬一他人ノ家宅ニ居ル者ハ叛徒嘯聚ノ嫌疑ヲ被ムリタル者ト看做スヘシトノナルヲ以テ大小官衙ノ議會ト雖モ兩日間ハ其會合ヲ停止スルニ至レリ而フシテ其探偵事務ハ民會ノ委員武器ヲ執リタル兵士ノ護衛ヲ受ケ